

国富町文化財調査報告書 第6集

塚原(つかばる) 遺跡

東原(ひがしばる) A・B・C・D地点

塚原工業団地開発事業に伴う

埋蔵文化財調査報告書

平成7年度

宮崎県 国富町教育委員会

国富町文化財調査報告書 第6集

塚原 (つかばる) 遺跡

東原 (ひがしばる) A・B・C・D地点

塚原工業団地開発事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書

平成7年度

宮崎県 国富町教育委員会



塚原遺跡 東原C・D地点調査区 航空写真

序

国富町には、国指定史跡である「本庄古墳群」を始めとする史跡があり、古くから文化が栄えていたことが知られ、また、昭和58年度の遺跡分布調査でも数々の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。その一方、国富町では今後、宮崎市の近郊の町としての開発が進められていくものと予想されます。そのような中で、諸開発によりやむなく失われていく貴重な埋蔵文化財は、発掘調査によって記録保存していかなければなりません。

本書は、塚原地区における工業団地の開発事業に伴って行われた事前発掘調査の報告書（第6集）です。この調査の結果、国富町で始めて、弥生時代から古墳時代にかけての環溝集落が確認され、貴重な資料を得ることができました。

本書が、埋蔵文化財の保護の認識と学術的研究に役立つことを期待します。

なお、調査にあたってご指導、ご教示いただいた各先生方および宮崎県文化課職員の方々、関係機関の方々、発掘現場の作業に従事していただいた皆さんに深く感謝申し上げます。

平成8年3月

国富町教育委員会

国富町教育長 三原正生

例 言

1. 本書は、国富町塚原地区における塚原工業団地建設に伴い平成2年に実施した塚原遺跡の発掘調査のうち、東原A・B・C・D地点の調査報告書である。

2. 調査組織は次のとおりである。

調査主体 国富町教育委員会

教 育 長 上杉 哲夫

社会教育課長補佐 川越 昌男

文化係長 久保田 悟

文化係主事 新名 祐史（調査担当）

調査協力 宮崎県教育庁文化課

調査参加者

3. 本書の執筆、編集は国富町文化係主事新名祐史が行った。

4. 遺物の実測、製図は新名祐史と富山典明が行った。

本文目次

第I章	はじめに	1
第1節	調査にいたる経緯	
第2節	遺跡の歴史的環境と地理的環境	
第II章	東原A地点	8
第III章	東原B地点	
第1節	V字溝跡	8
第2節	遺物	8
第IV章	東原C地点	
第1節	住居跡群と遺物	19
第2節	V字溝状遺構	39
第3節	土 墳	43
第4節	遺構を伴わない遺物	48
第V章	東原D地点	
第1節	V字溝跡	50
第2節	遺物	50
第VI章	まとめ	62

挿図目次

第1図	岩知野・塚原・木脇地区遺跡分布図	4
第2図	遺跡周辺地形図	5
第3図	塚原遺跡 東原B・C・D地点全体図	7
第4図	東原B地点 V字溝実測図	9
第5図	東原B地点 V字溝出土土器片実測図(1)	11
第6図	東原B地点 V字溝出土土器片実測図(2)	12

插图目次

第7图	東原B地点	V字溝出土土器片实测图(3)	13
第8图	東原B地点	V字溝出土土器片实测图(4)	15
第9图	東原B地点	V字溝出土土器片实测图(5)	16
第10图	東原B地点	V字溝出土土器片实测图(6)	17
第11图	東原B地点	V字溝出土土器片实测图(7)	18
第12图	東原C地点	1号豎穴式住居(SA-1)实测图	20
第13图	東原C地点	2号豎穴式住居(SA-2)实测图	21
第14图	東原C地点	2号豎穴式住居出土土器片实测图(1)	22
第15图	東原C地点	2号豎穴式住居出土土器片实测图(2)	23
第16图	東原C地点	2号豎穴式住居出土土器片实测图(3)	24
第17图	東原C地点	2号豎穴式住居出土土器片实测图(4)	25
第18图	東原C地点	3号豎穴式住居(SA-3)实测图	27
第19图	東原C地点	3号豎穴式住居出土土器片实测图(3)	28
第20图	東原C地点	5号豎穴式住居出土土器片实测图(4)	28
第21图	東原C地点	4号豎穴式住居(SA-4)实测图	30
第22图	東原C地点	5号豎穴式住居(SA-5)实测图	31
第23图	東原C地点	6号豎穴式住居(SA-6)实测图	33
第24图	東原C地点	6号豎穴式住居出土土器片实测图(1)	34
第25图	東原C地点	6号豎穴式住居出土土器片实测图(2)	35
第26图	東原C地点	6号豎穴式住居出土土器片实测图(3)	36
第27图	東原C地点	6号豎穴式住居出土土器片实测图(4)	37
第28图	東原C地点	7号豎穴式住居(SA-7)实测图	38
第29图	東原C地点	8号豎穴式住居(SA-8)实测图	40
第30图	東原C地点	8号豎穴式住居出土土器片实测图	
	東原C地点	1号V字溝出土土器片实测图	
	東原C地点	2号V字溝出土土器片实测图(1)	41

插图目次

第31图	東原C地点	2号V字溝出土土器片実測図(2)	-----42
第32图	東原C地点	1号V字溝(SE-1)実測図	-----44
第33图	東原C地点	2号V字溝(SE-2)実測図	-----45
第34图	東原C地点	1号土壙出土土器片実測図	-----46
	東原C地点	2号土壙出土土器片実測図(1)	-----47
第35图	東原C地点	2号土壙出土土器片実測図(2)	-----47
第36图	東原C地点	遺構に伴わない土器片実測図	-----49
第37图	東原D地点	V字溝状遺構 東壁断面図	-----51
第38图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(1)	-----52
第39图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(2)	-----54
第40图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(3)	-----55
第41图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(4)	-----56
第42图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(5)	-----57
第43图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(6)	-----59
第44图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(7)	-----60
第45图	東原D地点	V字溝状遺構出土土器片実測図(8)	-----61
第46图	東原C・D地点	遺構分布平面図	-----62 (折込み)

表 目次

東原B地点	土器観察表	-----63~66
東原C地点	土器観察表	-----67~74
東原D地点	土器観察表	-----75~80

第1章 はじめに

【第1節 調査に至る経緯】

塚原工業団地造成は、昭和51年（1976年）と昭和61年（1981年）に策定された第二次総合計画、国土利用計画並びに第三次県総合長期計画に基づく新たな工業団地の確保のために計画された。その内容は、宮崎市花ヶ島町で操業していた協同日之出産業株式会社の工事用地及び塚原の既存企業であった協同紙工株式会社の工場増設の用地確保のために、協同紙工の隣接地約27,903ヘクタールを造成するというものであった。

当造成地は昭和58年度（1983年度）に国富町で行った国富町内遺跡詳細分布調査で確認された、「塚原遺跡」（遺跡番号1402）の範囲内に含まれていた。そこで、国富町土地開発公社、県文化課および国富町教育委員会の間で埋蔵文化財の保護についての協議を行い、事業施工上で現状保存が困難部分、特に建築物の建設予定地の範囲について緊急調査・記録保存の措置をとることになった。

緊急発掘調査は、町教育委員会が調査主体となり、平成2年5月9日から9月14日の間、国富町社会教育課主事新名祐史を担当として、調査日数98日をかけて行われた。その結果、住居跡、V字溝、土坑墓などの遺構や、多量の土器などの遺物が発見された。

【第2節 遺跡の位置と歴史的環境】

塚原遺跡は、東諸県郡国富町大字木脇の字岸田・田名から大字塚原字西ノ免・東原にかけてに広がっている縄文～古墳時代の散布地である。

国富町は、宮崎県の中央部よりやや南東部、九州山脈の支脈が台地となって裾を

延ばすところに位置する。北西から南東に流れる北俣川、三名川、深年川、後川、北俣川は本庄、八代、六野原、高田原、塚原などの台地面を開析しつつ、大淀川の支流である本庄川に流れ込む。その流域には、肥沃な耕地がひらけている。町の境界は、東が宮崎市、西は綾町、南は高岡町、北は西都市に接している。

国富町の中心部は、深年川と本庄川に挟まれた標高40～50mの低位段丘面である本庄台地上に所在する。

本書で報告する塚原遺跡東原A・B・C・D各地区は、その本庄台地から東に約2km、北東の県道宮崎・須木線と南西の本庄川と三名川の合流点にはさまれた標高35～40mほどの丘陵地である塚原台地上の東縁に位置する。塚原台地は昭和11年に県指定された「木脇（村）古墳」の第1～12号墳が台地の南西から南の縁に沿って並んでいる史跡地として知られており、第12号墳は今回調査対象となった東原F地区内にある。

次に遺跡周辺である岩知野・塚原・木脇地区に所在する周知の遺跡の概要を挙げる。

岩知野地区

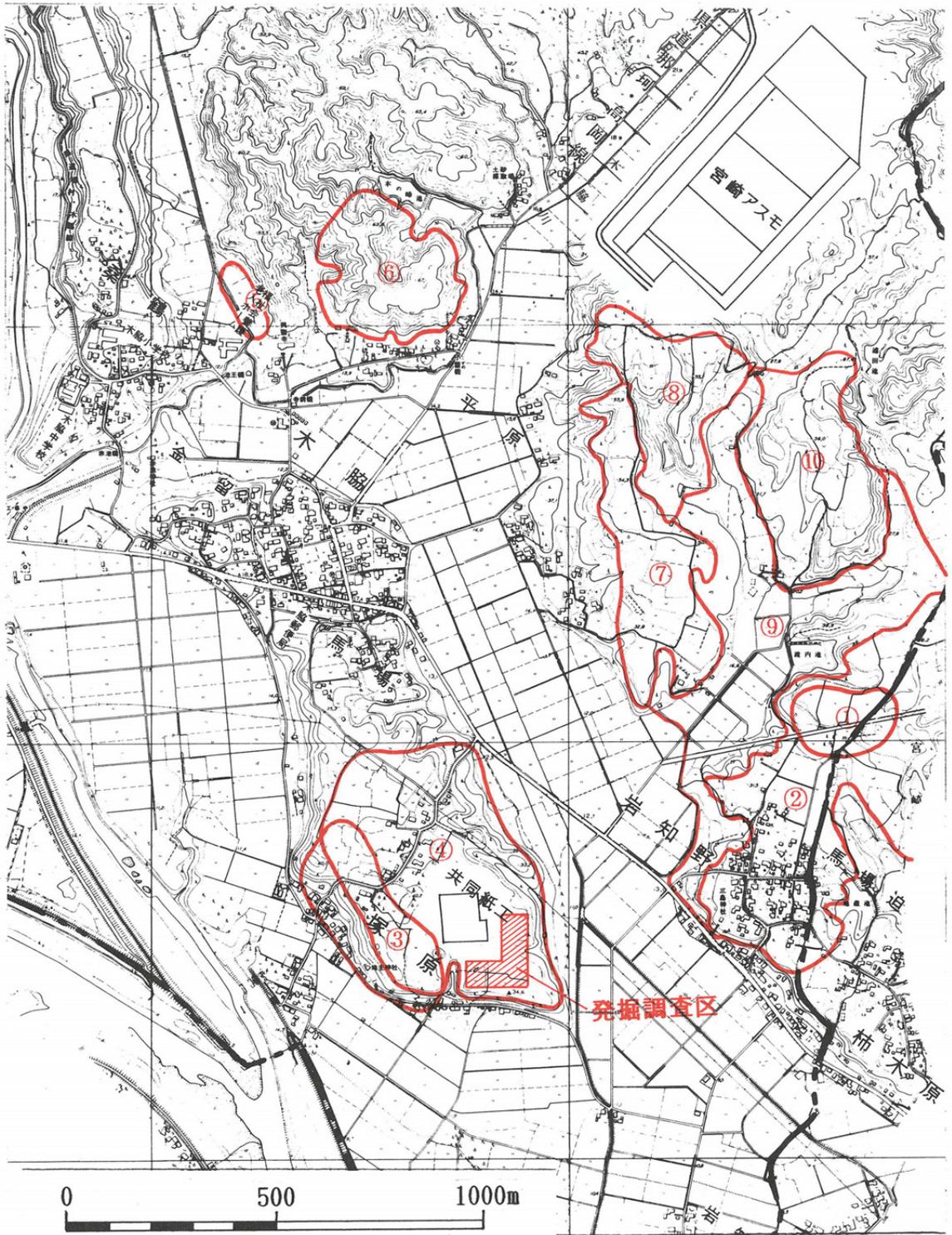
- ①木脇古墳群（大字岩知野字松本） 古墳時代／古墳群（円墳2基／昭和17年県指定）
- ②上岩知野遺跡（大字岩知野字松元・中村）
縄文・弥生・古墳・中世・近世／集落跡
一部県教育委員会により調査

塚原地区

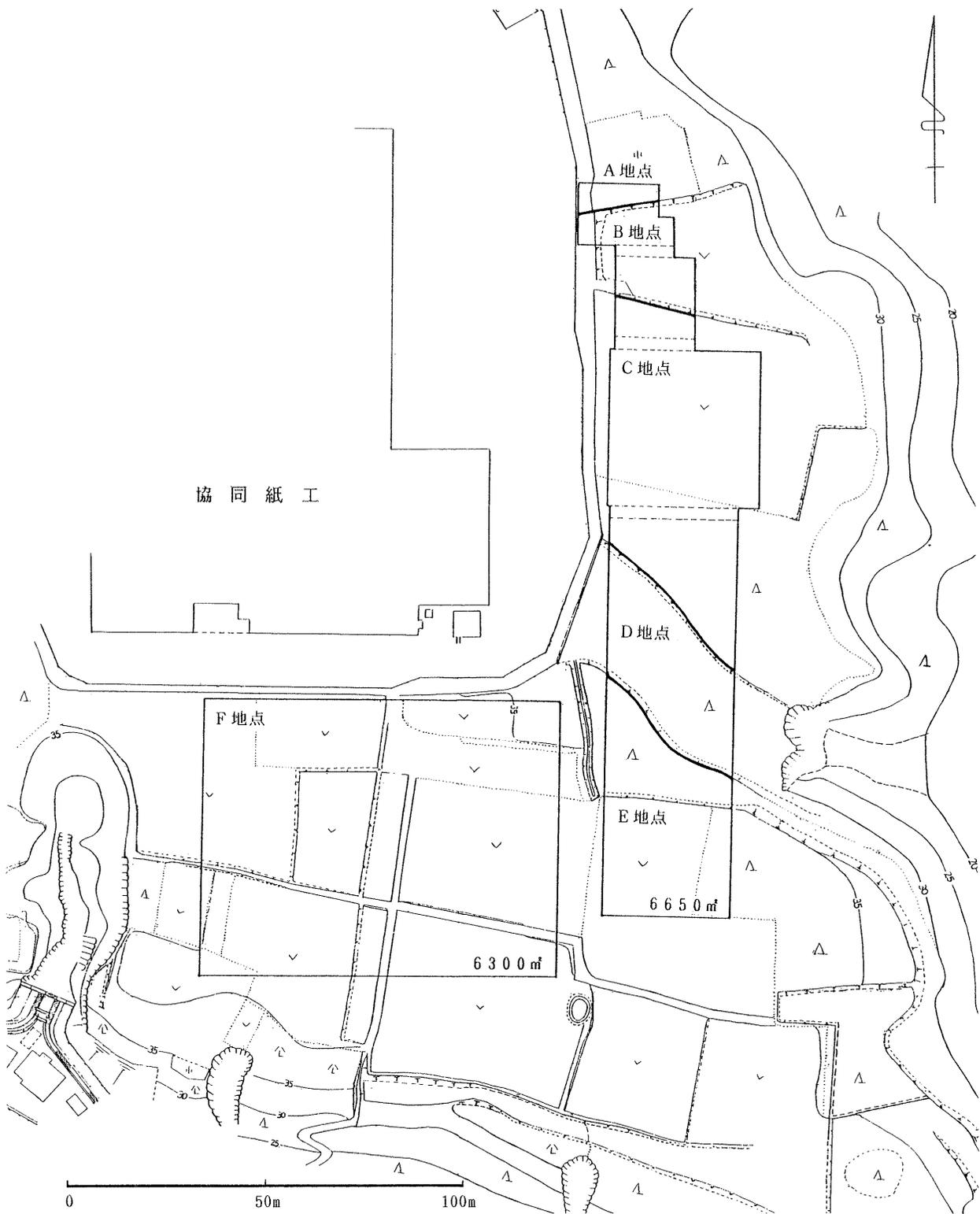
- ③木脇古墳群（大字塚原字西ノ免・東原）
古墳時代／古墳群（円墳12基・前方後円墳1基／昭和17年県指定）
- ④塚原遺跡（大字木脇字彼岸田・田名 大字塚原字西ノ免・東原）
縄文・弥生・古墳／散布地

木脇地区

- ⑤木脇古墳群（大字木脇字前田） 古墳時代／古墳群（横穴墓2基／昭和17年県指定）
- ⑥木脇城跡（大字木脇字木ノ峯） 中世城跡
- ⑦木脇遺跡（大字木脇字上ノ原・荒牧・深坪）
弥生・古墳／散布地
- ⑧上之原遺跡（大字木脇字上ノ原） 中世／散布地
- ⑨井出口遺跡（大字木脇字松元・火焼・井出上）
縄文・弥生・古墳・中世／散布地
- ⑩松元遺跡（大字木脇字松元） 散布地



第1図 岩知野・塚原・木脇地区遺跡分布図 (S=1/15,000)
 参考文献「東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書(西都~清武間)」
 宮崎県教育委員会 1992



第2図 遺跡周辺地形図 (1/1,500)

【第3節 調査の概要】

今回の塚原工業団地造成は、丘陵上の東端から東南端にかけて約19.6haにかかり、この範囲内で、建造物の建設予定の範囲となる12,950㎡に対して平成2年5月9日から9月14日までの期間で発掘調査を行った。

当調査地は、協同紙工の東から南側にかけてL字型に広がる畑地と荒蕪地からなり、小支谷や平坦面の高低差からおおまかに6区画に分割できた。それぞれの区画には、北東部を起点として南西部に向けてA・B・C・D・E・Fと地区名をつけた。このうち今回報告するA・B・C・D各地区は対象区の東部地区である。A地区は調査区北端で南にゆるく下る狭い斜面地であり、B地区は浅い小支谷であったところに土が堆積し、隣接地より一段低い畑地となっていた。D地区はより深い小支谷であり、C地区は南北の小支谷に挟まれた丘陵東縁の平坦部となっていた。

調査はグリッド法により、各地区ごとに10×10mのメッシュに区画し、北東端を起点に、南北軸をアルファベット、東西軸を算用数字をもって標記した。

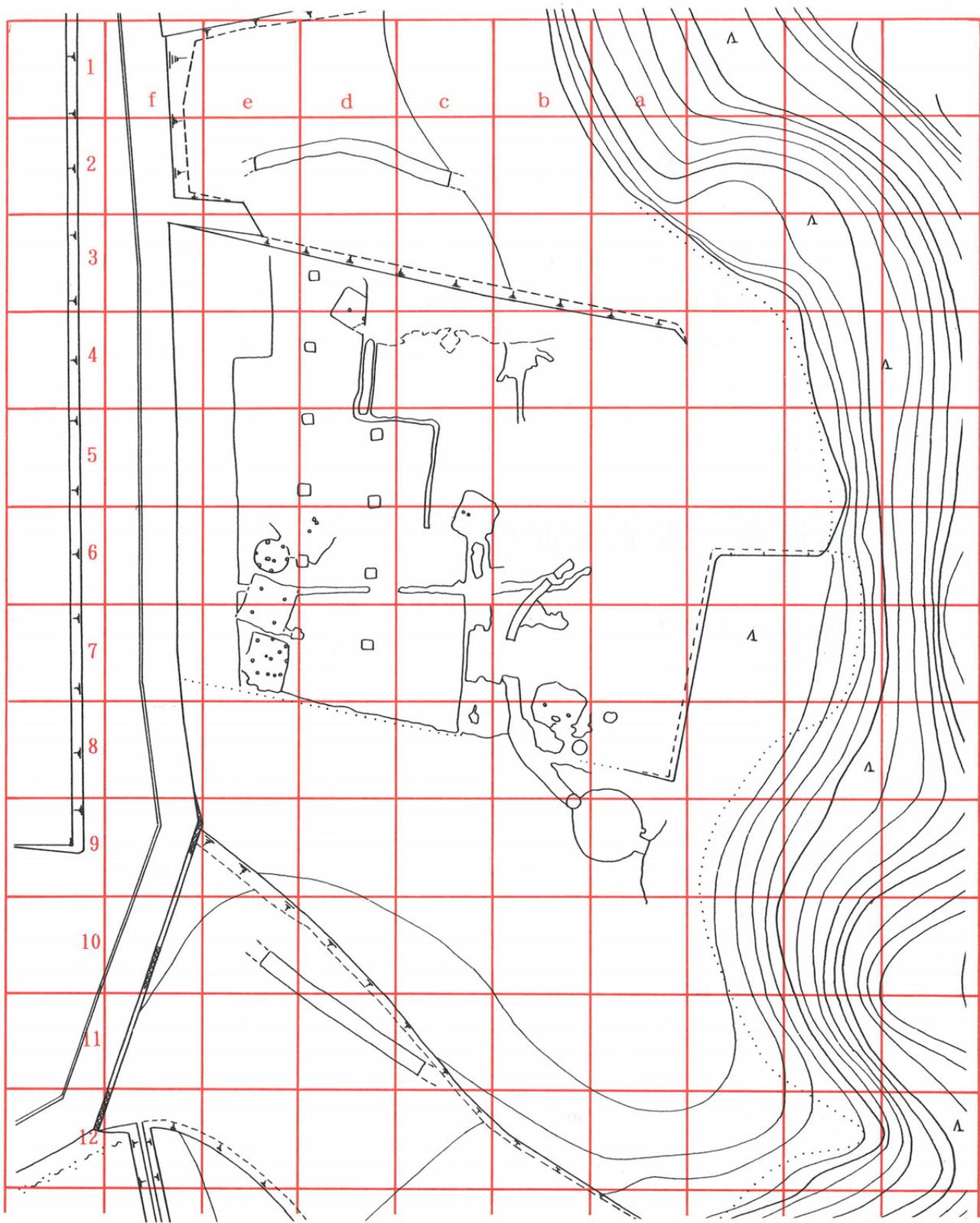
当調査地の平坦部分は、長年に渡り耕作地として利用されてきたため、アカホヤ直上からアカホヤ層にかけて耕作により攪乱されている部分が多かった。表土（耕作土）剥ぎは、重機によって行い、その後、人力により遺構検出面であるアカホヤ露呈面まで掘り下げた。時間的制約のために、遺構の実測は、航空測量に委託することとなり、遺構の検出作業と遺物の検出・取り上げを主眼においた調査にならざるをえなかった。

【第4節 層序】

調査区においてみられる基本的な層序は、上層から、

第Ⅰ層・表土（耕作土）、第Ⅱ層・アカホヤ火山灰、第Ⅲ層・シルト質黒褐色土
第Ⅳ層・シルト質茶褐色土、第Ⅴ層・砂質黄褐色土
である。

アカホヤ火山灰層から下層の層序については、塚原D地区のV字溝状遺構検出断面及び塚原F地区で検出した地下式横穴墓での観察をもとにしている。調査区内では開墾や耕作地の造成時に削平されている箇所もあった。



第3図 塚原遺跡 東原B・C・D地点全体図 (1/600)

(1マス10×10m)

第II章 東原A地点

東原A地点は、北部から南のB地点の谷間に向けて南向きに緩やかに傾斜していたが、畑の造成時に削平や盛土によって平坦地とされていた。

A地点では遺構は検出されなかった。また、出土した遺物も弥生土器と思われる土器小片1点だけであった。

第III章 東原B地点

【第1節 V字溝跡】

調査区の2-c区から2-e区にかけて、アカホヤの露呈面に長さ20mにわたりV字断面の溝状遺構（SE-1）が検出された。遺構は、北に向けて張り出すような形でカーブを描いており、西から東に向けて低くなっている。調査区内で最も低い東端地点に集中するように、弥生時代中期から古墳時代にかけてのものと思われる多くの土器片が出土したが、小片が多く、特徴が見極められるものは一部で、さらに反転復元できたものはごくわずかであった。アカホヤ面での遺構の幅は120～180cmである。

【第2節 遺物】

東原B地点のV字溝跡からは、以下の土器片が出土している。

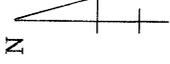
1～11・13～28・31・33・36は甕形土器と思われる、口縁部を有する土器片である。

1～10は口縁部の下位に一条の刻目突帯をめぐらせている。刻目は左右両方向から丁寧に切り取られており、弥生時代中期後半に比定される「下城式」系の土器の

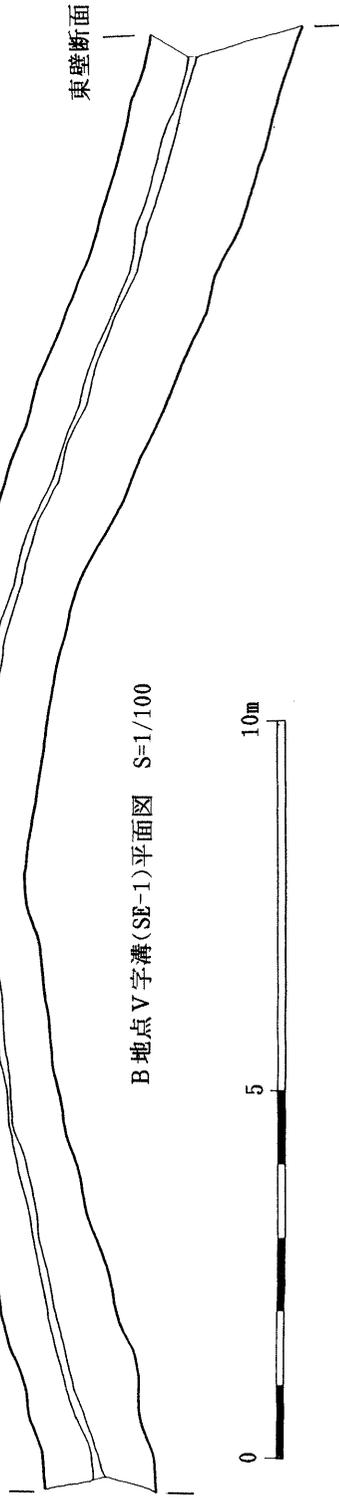
第4图 東原B地点 V字溝実測図

2-e区 +

2-d区 + 2-c区



西壁断面



B地点V字溝(SE-1)平面図 S=1/100



32.0m

↔北

東壁断面図 S=1/100

↔南

底面29.274m

西壁断面図 S=1/100

32.0m

底面31.497m

特徴を持つ。8・9・10には口縁部にも刻みがみられる。1・2・3・6・8・9・10は胴部から口縁部にかけてはほぼ直線状に立ち上がっている直行口縁であるが、4・5は、口縁部がわずかに外反している。1は口唇部が丸みを帯びている。3・4・5・9は口唇部の外端部が若干張り出している。6は逆に内端部が張り出し、7は口唇部がわずかにくぼんで外端・内端ともに張り出している。

11は、ほぼ平坦で水平な逆L字口縁の下に1条の刻み目突帯がめぐらされている。口唇部はややくぼむ。

13～28・31・33は、頸部から口縁が「く」の字形に外反しつつ短くのびている甕形土器である。細かな部分の特徴や大きさを考慮せず、口縁部の特徴のみで大まかに分類すると、以下ようになる。

①類 口径が胴部の最大径より大きく、口縁部がゆるやかに外反するもの（13・23・24・27・36）

②類 口径が胴部の最大径より大きく、口縁部が「へ」の字に屈曲するもの（14・16・17・18・19・20・21・22）

③類 口径が胴部の最大径より小さく、口縁部がゆるやかに外反するもの（28）

④類 口径が胴部の最大径より小さく、口縁部が「へ」の字に屈曲するもの（15・25・26・33）

また、19・20・21は、薄手で、口縁部が「へ」の字に屈曲しており、口唇部にくぼみがある。胴部にはタテハケメがほどこされている。

23は薄手の小型甕である。

25は、屈曲部が「く」の字に曲がりながら、口縁下部が肥厚する。

28は口唇部が若干くぼんでいる。

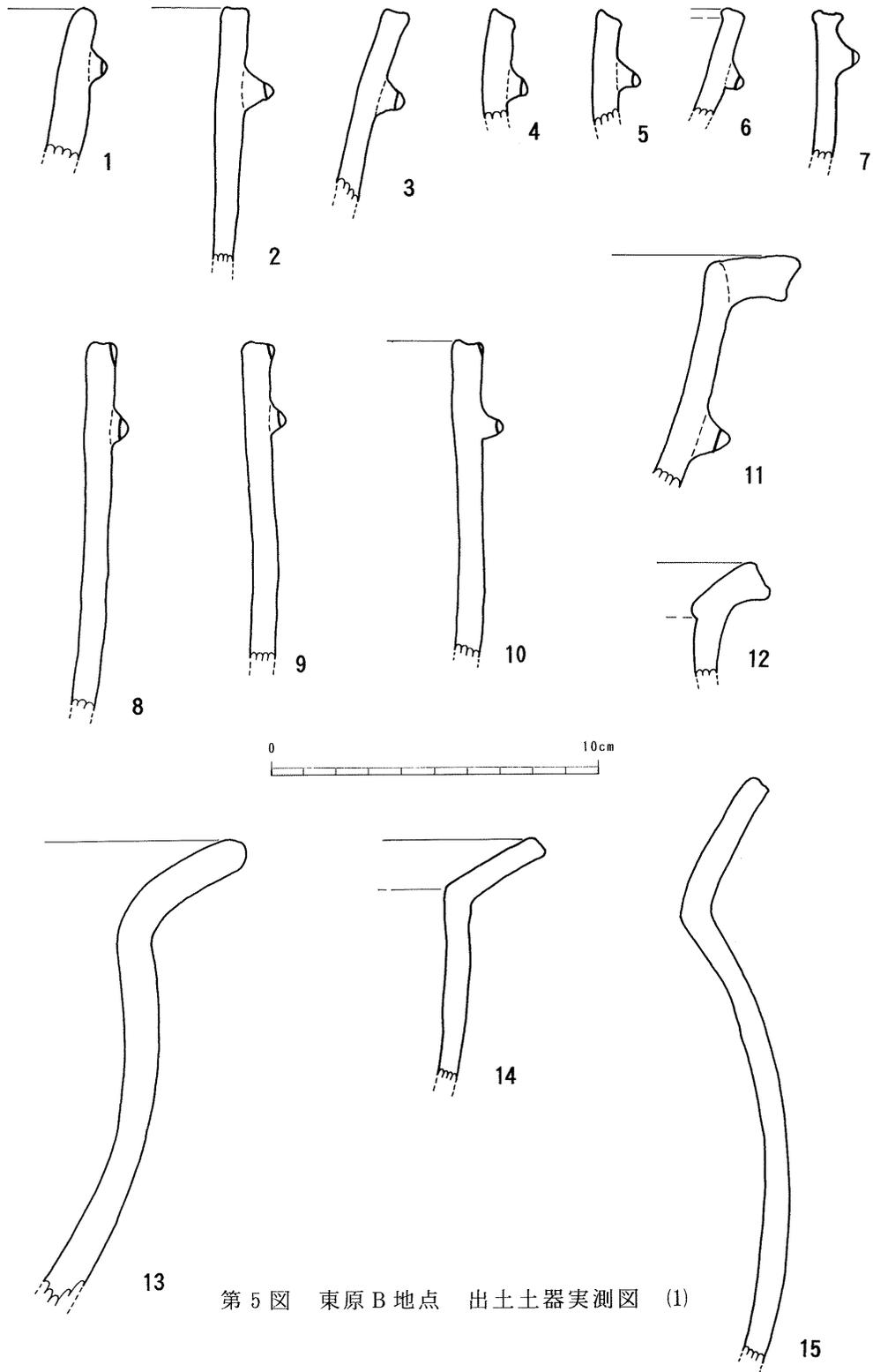
33は、「く」の字の屈曲部の下部に指先をおしつけた圧痕が3～4 cm間隔でめぐらされている。

12・29～32、34・35は壺形土器と思われる、口縁部を有する土器片である。

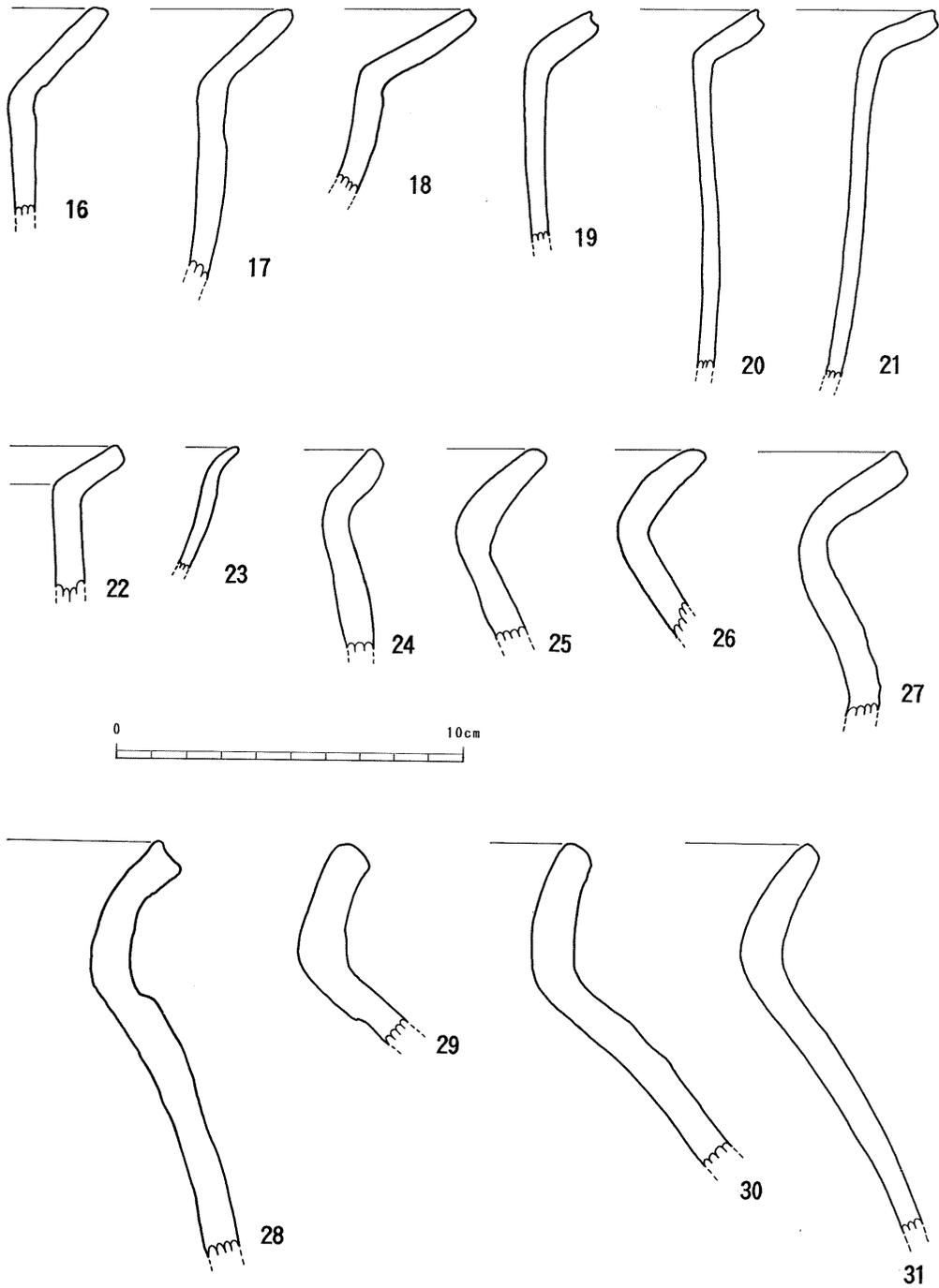
12は鋤先状を呈する口縁部であり、口唇部下端が肥厚している。

29・30・31・32は直立気味にやや開く口縁部をもつ短頸壺である。29・30・32は口唇部が丸みをおびている。31はやや開きが大きく、口唇部もやや狭くなり、やや平坦である。

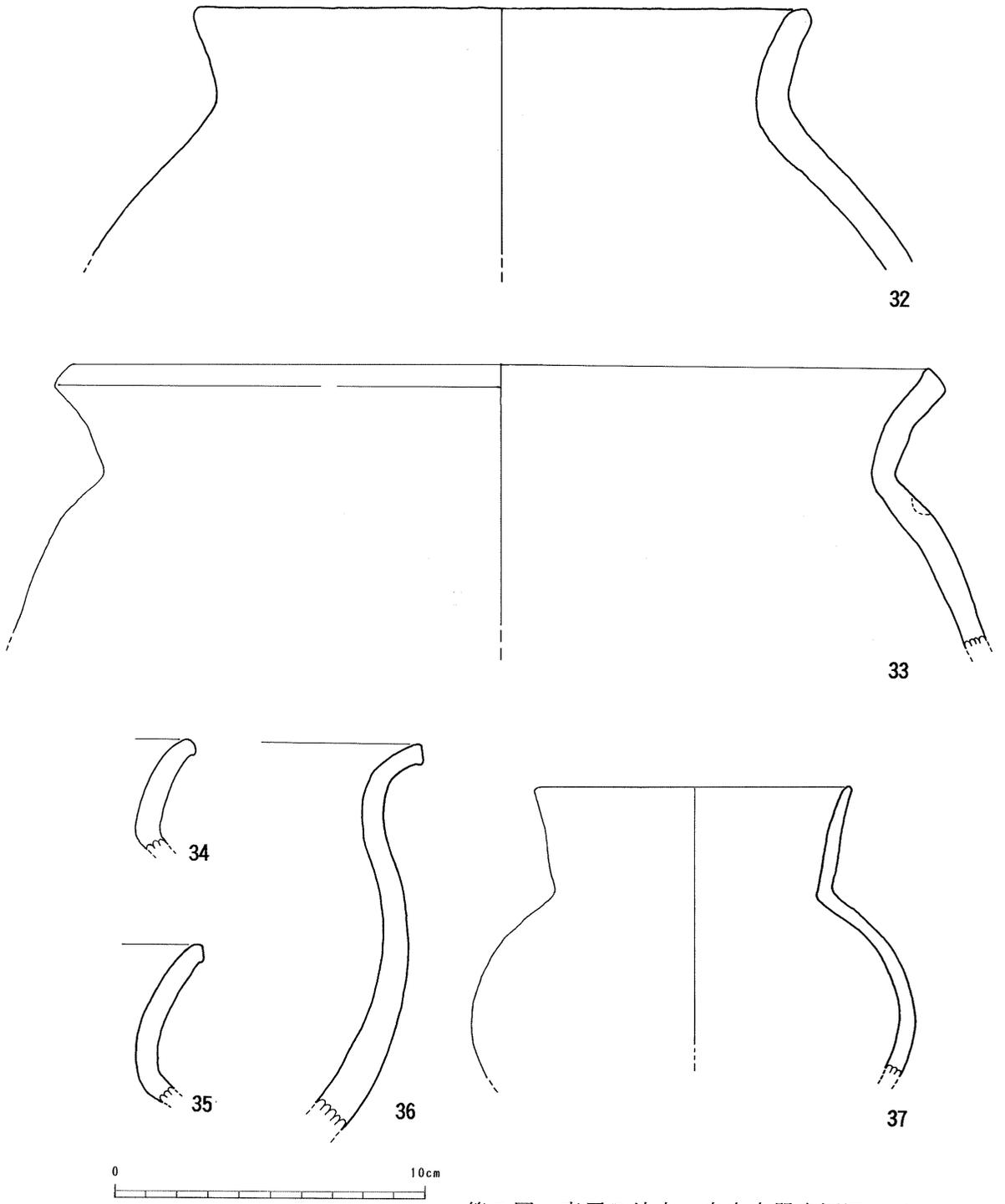
34・35は頸部で強く屈曲し、やや外反する口縁部。



第5图 東原B地点 出土土器实测图 (1)



第 6 图 東原 B 地点 出土土器实测图 (2)



第7图 東原B地点 出土土器実測図 (3)

37は小型の壺で、頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部はわずかに外傾しつつ、直線状に立ち上がっている。底部を欠いているが、器型から丸底壺と思われる。

38は頸部が内傾する無頸壺である。

39・40・41・42・43は複合口縁壺である。39と42は風化のために調整が不明瞭であるが、40・41・43は口縁部外面に櫛描波状文が施されている。

また、39は口縁部がほぼ直立するが、40～43は「く」の字に内傾している。40・41・43は42より強く内傾している。

44・45は高杯の口縁部である。45は、脚部から杯部が内湾気味に立ち上がり、途中で段をもって外反しながら屈曲している。調整は丁寧なミガキである。

46は浅めの鉢形土器で、口縁部はまっすぐに立ち上がっている。

47～51は胴部で、それぞれ二条、三条の突帯がみられる。

52は薄手の甕形土器の頸部から胴部と思われる。

53は、頸部に五条の沈線、その下部に櫛描波状文が施されている。

54は、縦方向のヘラ描線刻が施されている。

55は、壺の口縁～頸～胴部で、強く屈曲した頸部と胴部の境に断面が三角形の一条の突帯がめぐる。

56は、口縁部が直立し、途中から外反するタイプの長胴の甕形土器と思われる。

57は壺形土器の肩部、58は、最大径が胴部中位よりやや上方にある壺形土器の胴部である。

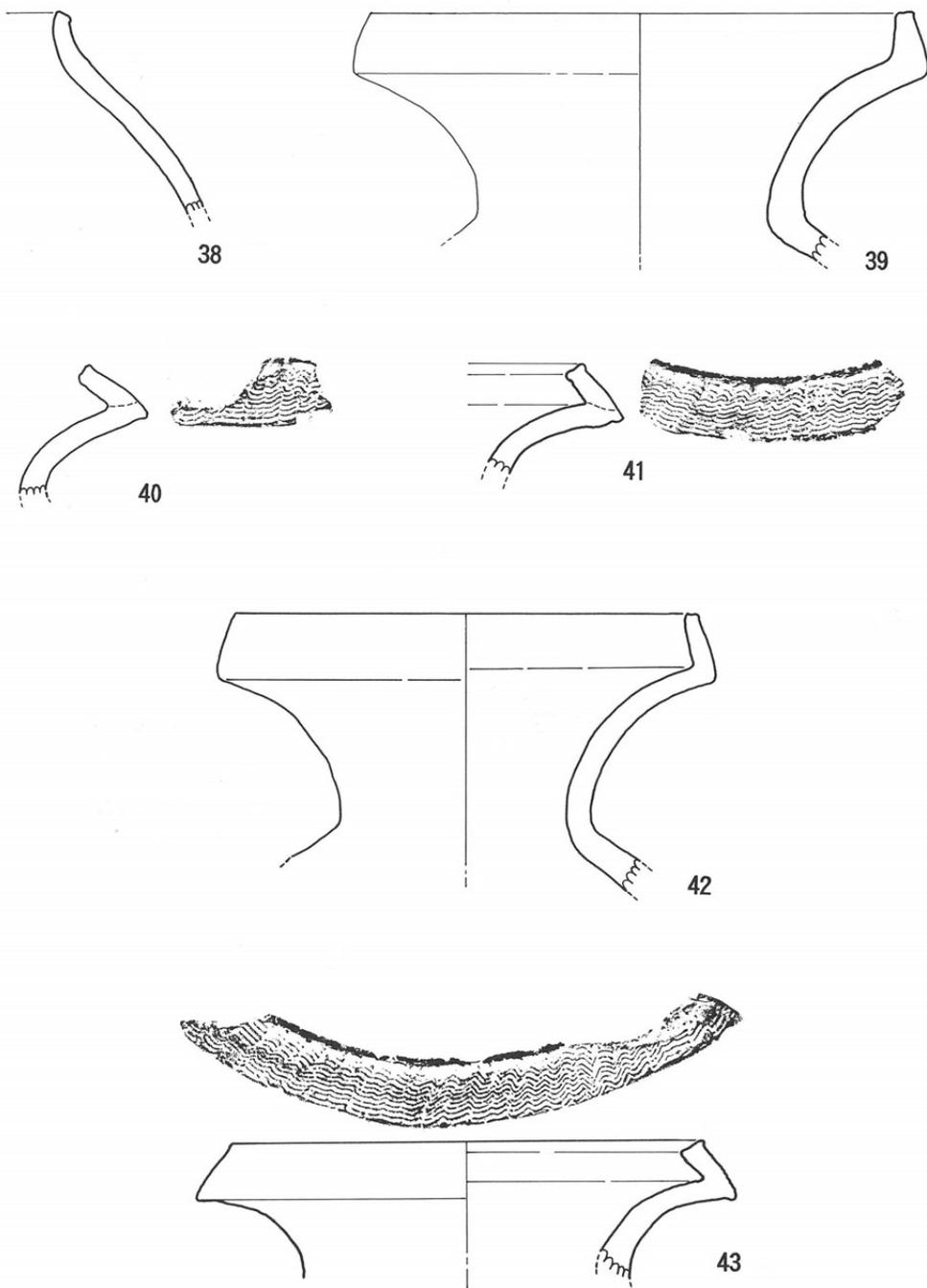
59～67は底部である。59～62・64～67は甕形土器、63のみが壺形土器の底部と思われる。

59・67は底部と胴部の境目が明瞭でなく、胴部の立ち上がりが急峻である。ほぼ平底を呈する。

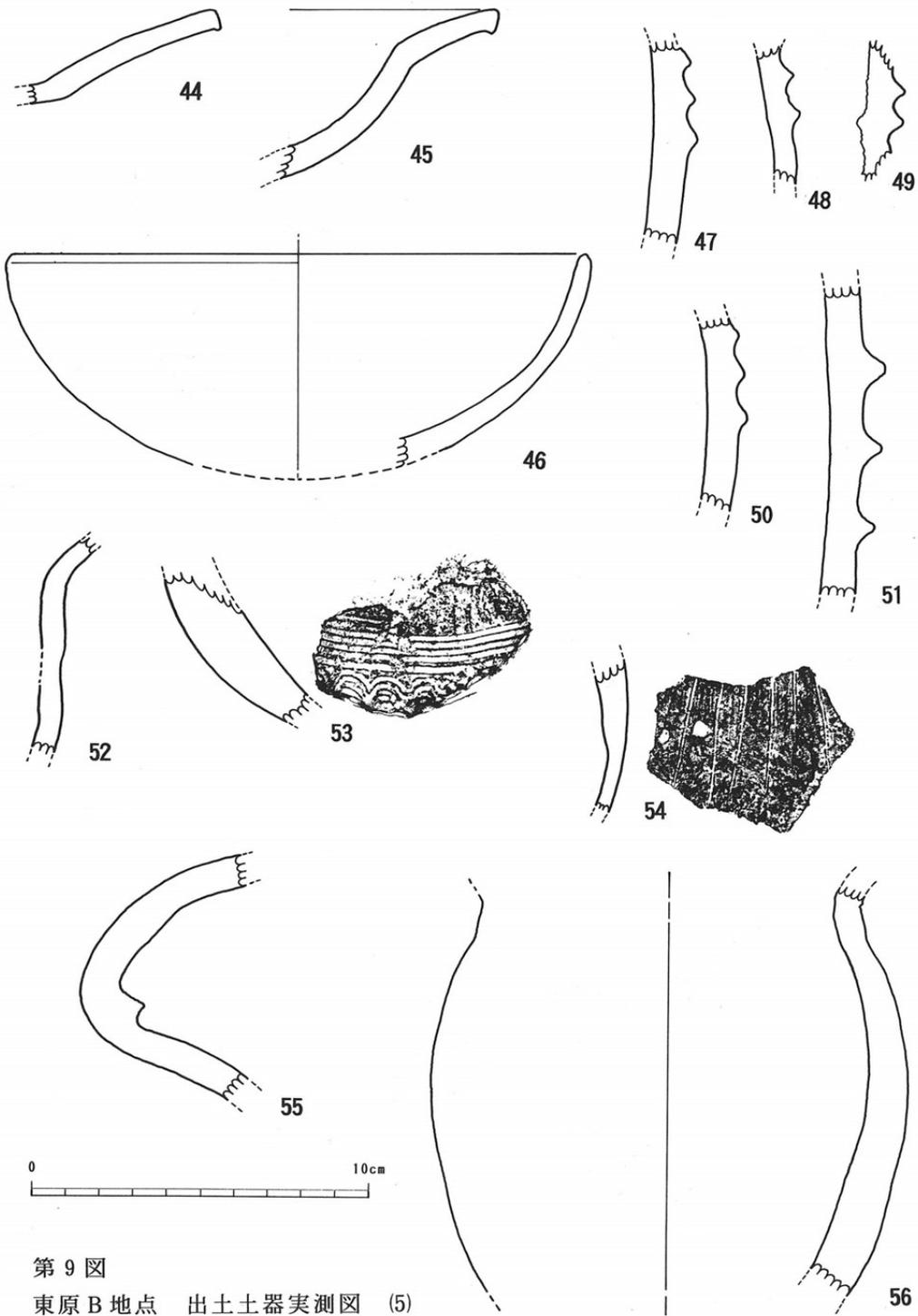
63・64は底部と胴部の境目が明瞭だが、外反せず、平底を呈する。

60・61・63・66は底部と胴部の境目が明瞭で、外反し、平底を呈する。

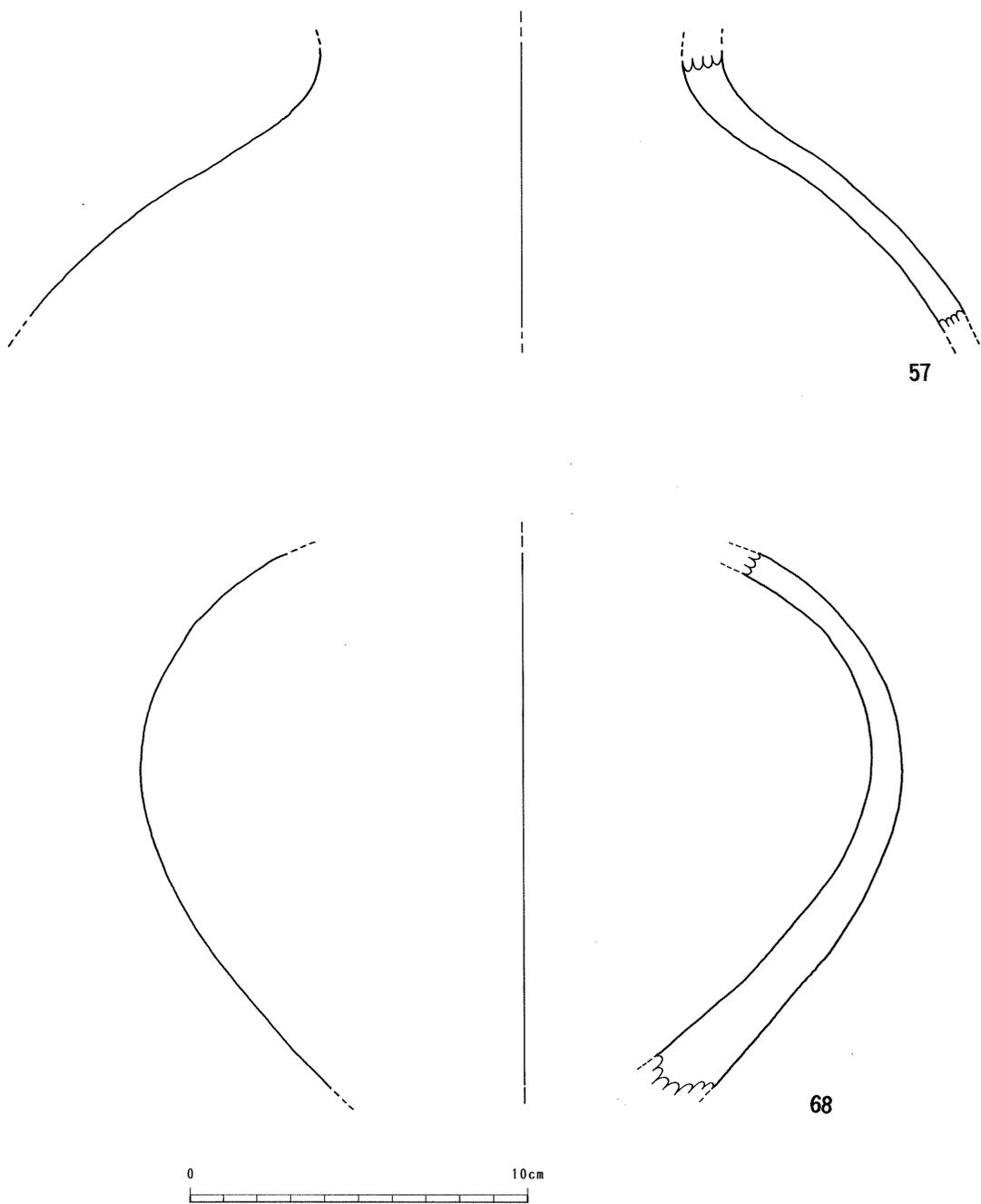
62は底部と胴部の境目が明瞭で、外反し、わずかに上げ底を呈している。



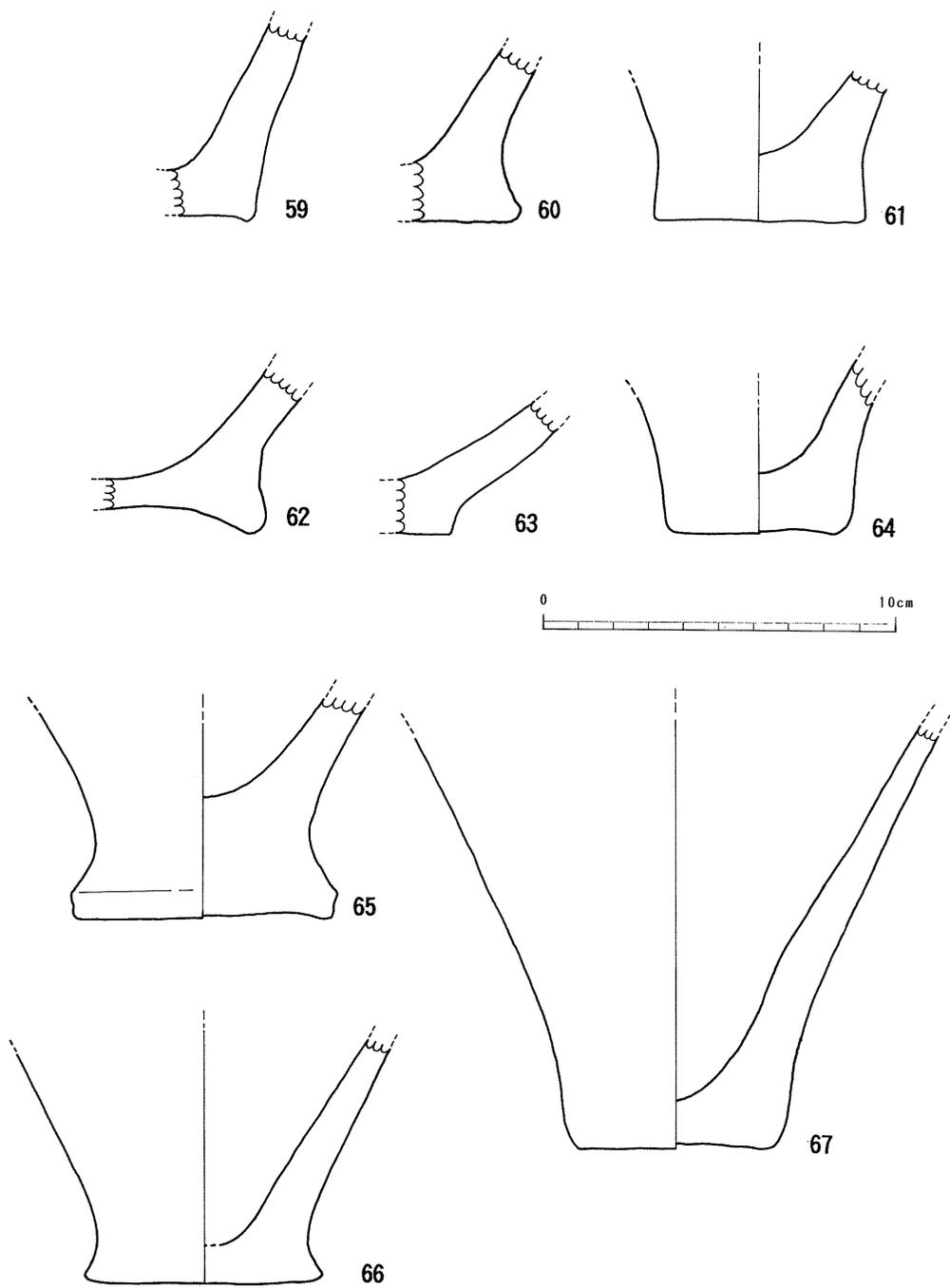
第 8 图 東原 B 地点 出土土器実測図 (4)



第 9 图
 東原 B 地点 出土土器実測图 (5)



第10图 東原B地点 出土土器实测图 (6)



第11图 東原B地点 出土土器実測图 (7)

第IV章 東原C地点

【第1節 住居跡群と遺物】

東原C地点では耕作地の造成時にほとんどアカホヤ直上の層まで攪乱を受けていたため、いずれの遺構の検出もアカホヤ層上面まで掘り下げて輪郭を確認せざるを得なかった。

その結果検出した8軒の竪穴住居跡、V字溝、土壇について、以下、遺構別に報告する。また、時期不明の浅い溝状遺構、直線状に並び住居プランを示さない柱穴、2列にはほぼ等間隔に並んだイモ穴なども検出されたが、近年のものと判断し、報告では触れなかった。

1号竪穴住居（SA-1）

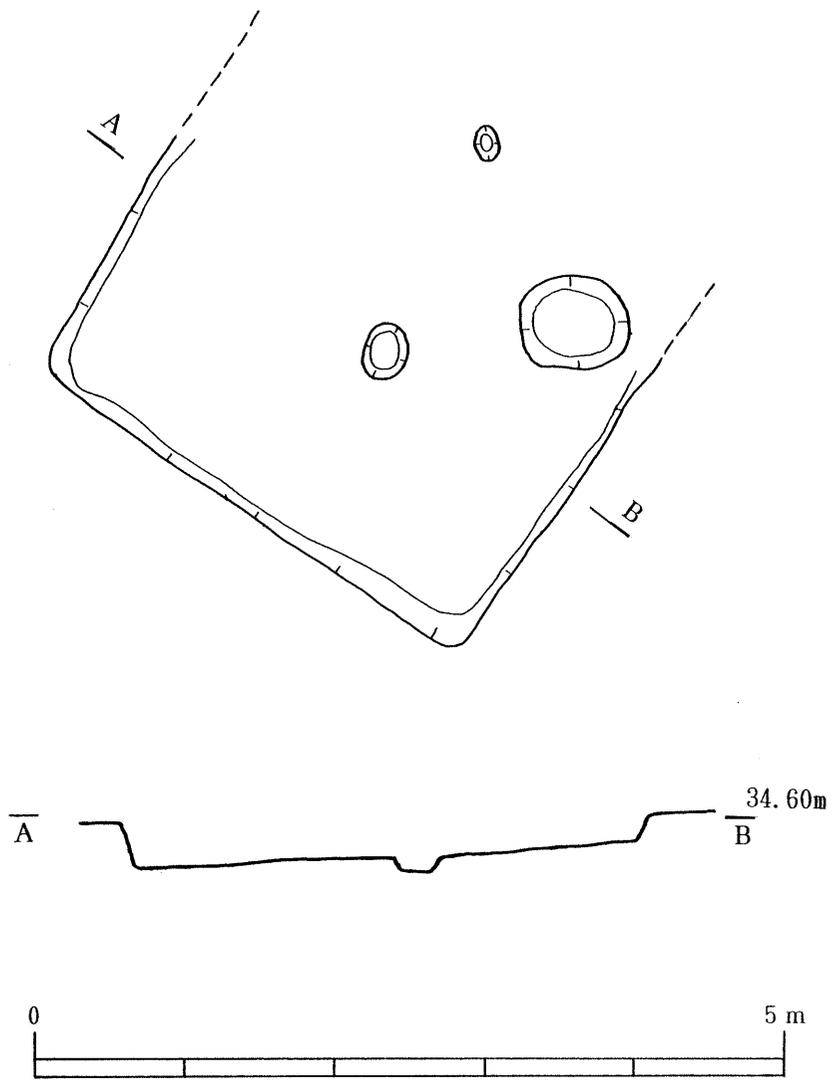
調査区北部のd-3・4グリッドにかけて検出された。住居の東部約3分の1近くが攪乱を受けているが、2本柱の方形プラン住居跡と推定される。南北辺は3.35m、等高線に平行する2本の柱穴間の距離は1.35mである。柱穴間の南壁際には長径70cm、短径60cm、深さ約20cmの土壇が設けられている。

少量出土した土器片はいずれも図化にたえない小片であった。

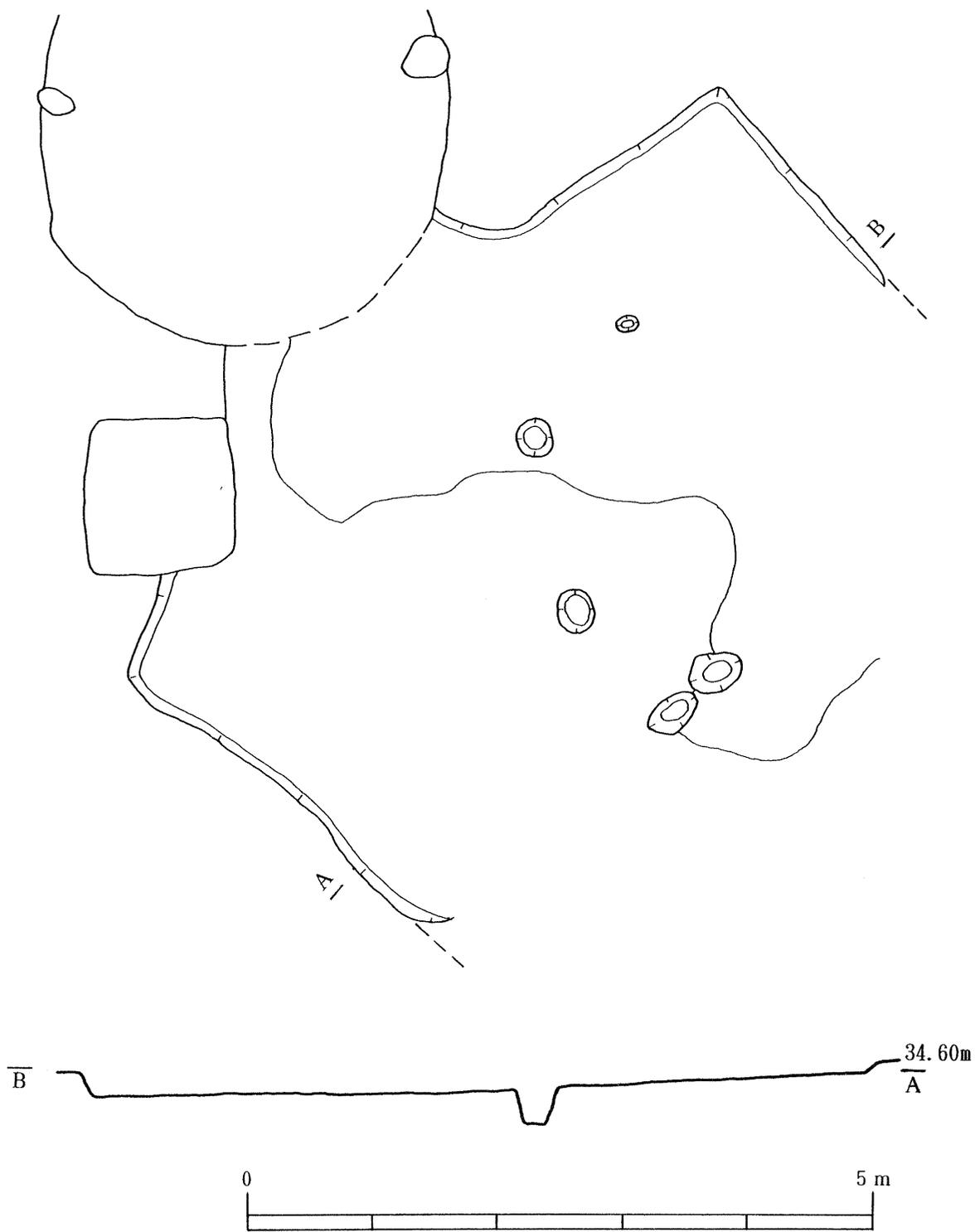
2号竪穴住居（SA-2）

西部のd-5・6、e-5・6グリッドにかけて検出されたもので、南西辺の長さ6.7mを測る。あまり良好な検出状態ではなかったものの、方形を基調としたプランの住居跡と思われる。住居の北東側は半分以上が削平されており、輪郭の検出不能であった。また、南西に隣接する3号住居跡との境目も不明瞭なため、整合性のあるプランが描けなかった。柱穴は中央付近に4本検出されたが、等高線に平行する2本柱を基本としたものと思われる。

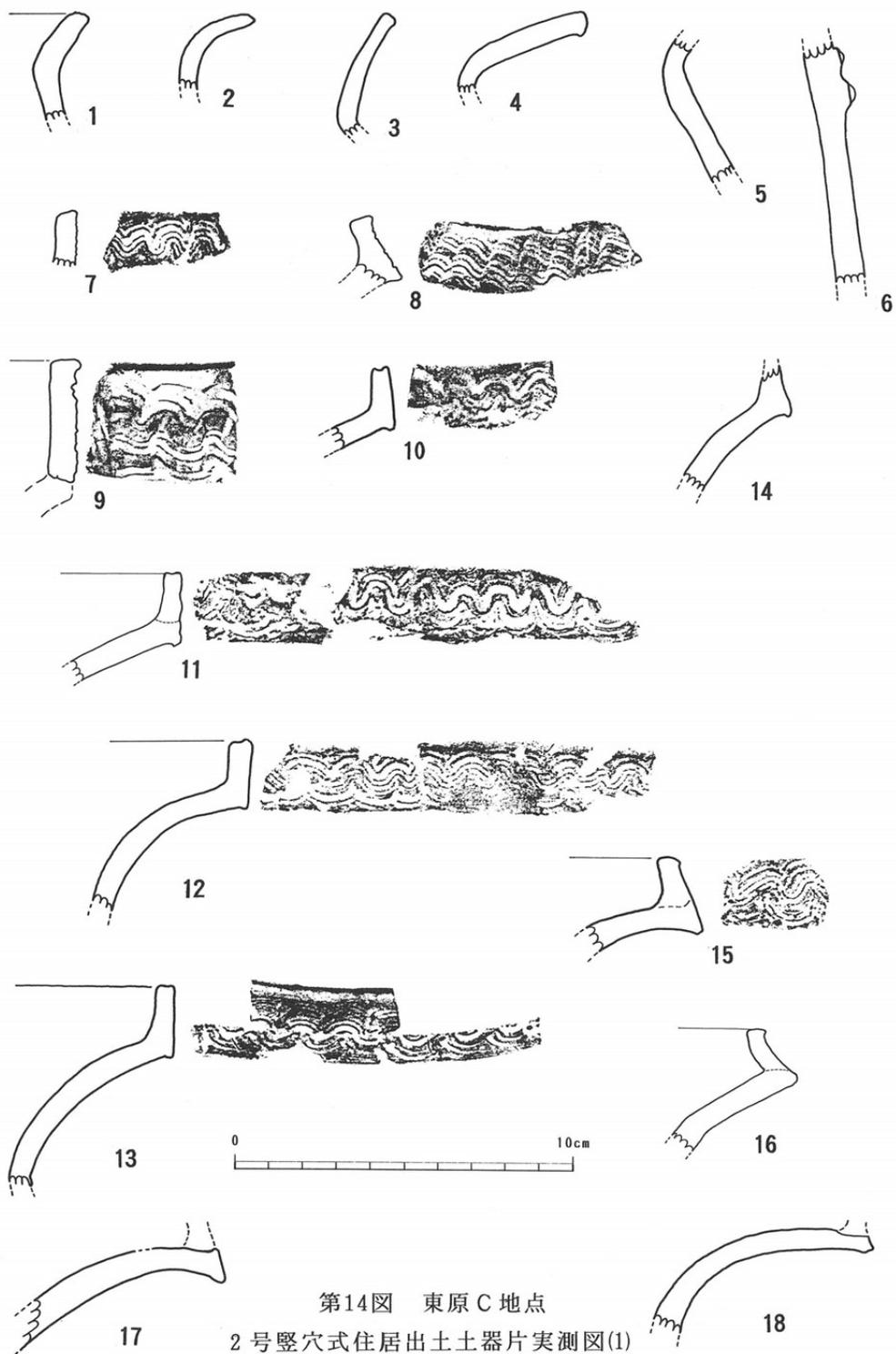
遺物の出土は東原C地区の住居跡の中でも特に多かったが、床面に達する攪乱もあるため、遺物の出土状態は安定したものではない。



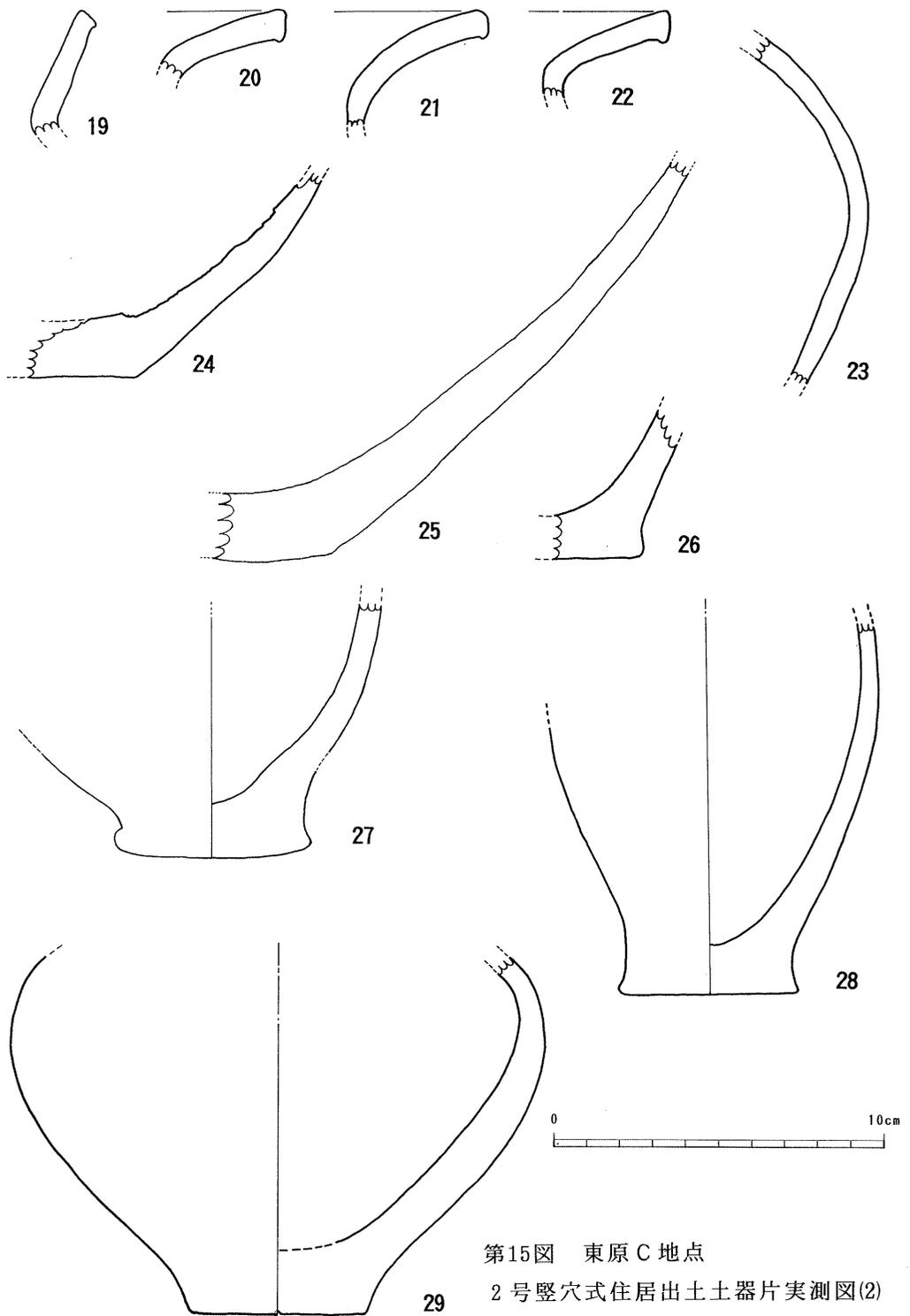
第12図 東原C地点 1号竪穴式住居 (SA-1) 実測図 (S=1/50)



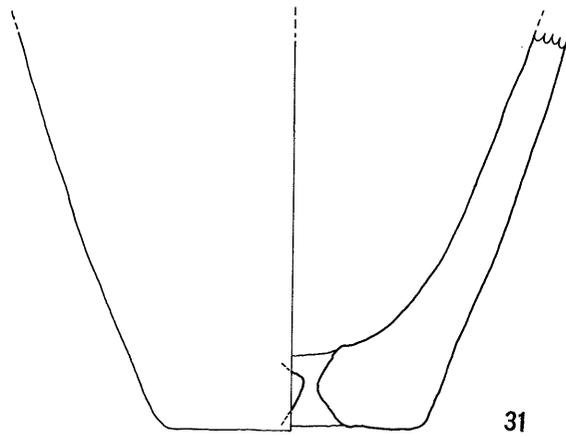
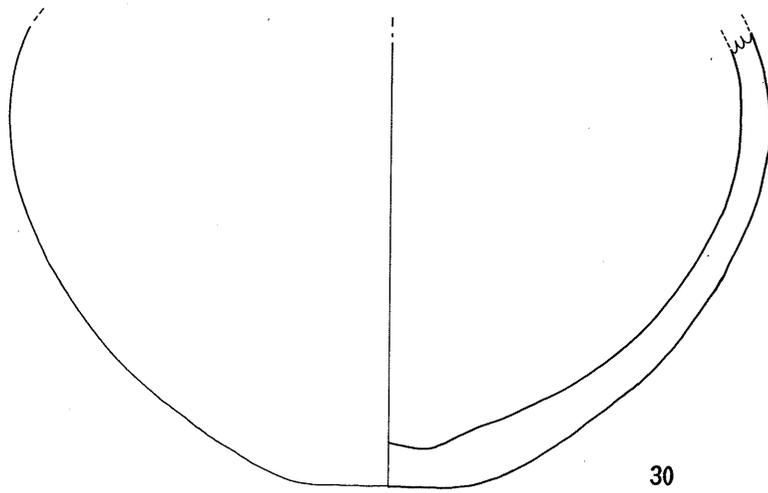
第13图 東原C地点 2号竖穴式住居 (S A - 2) 实测图 (S=1/50)



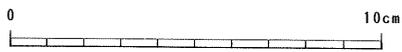
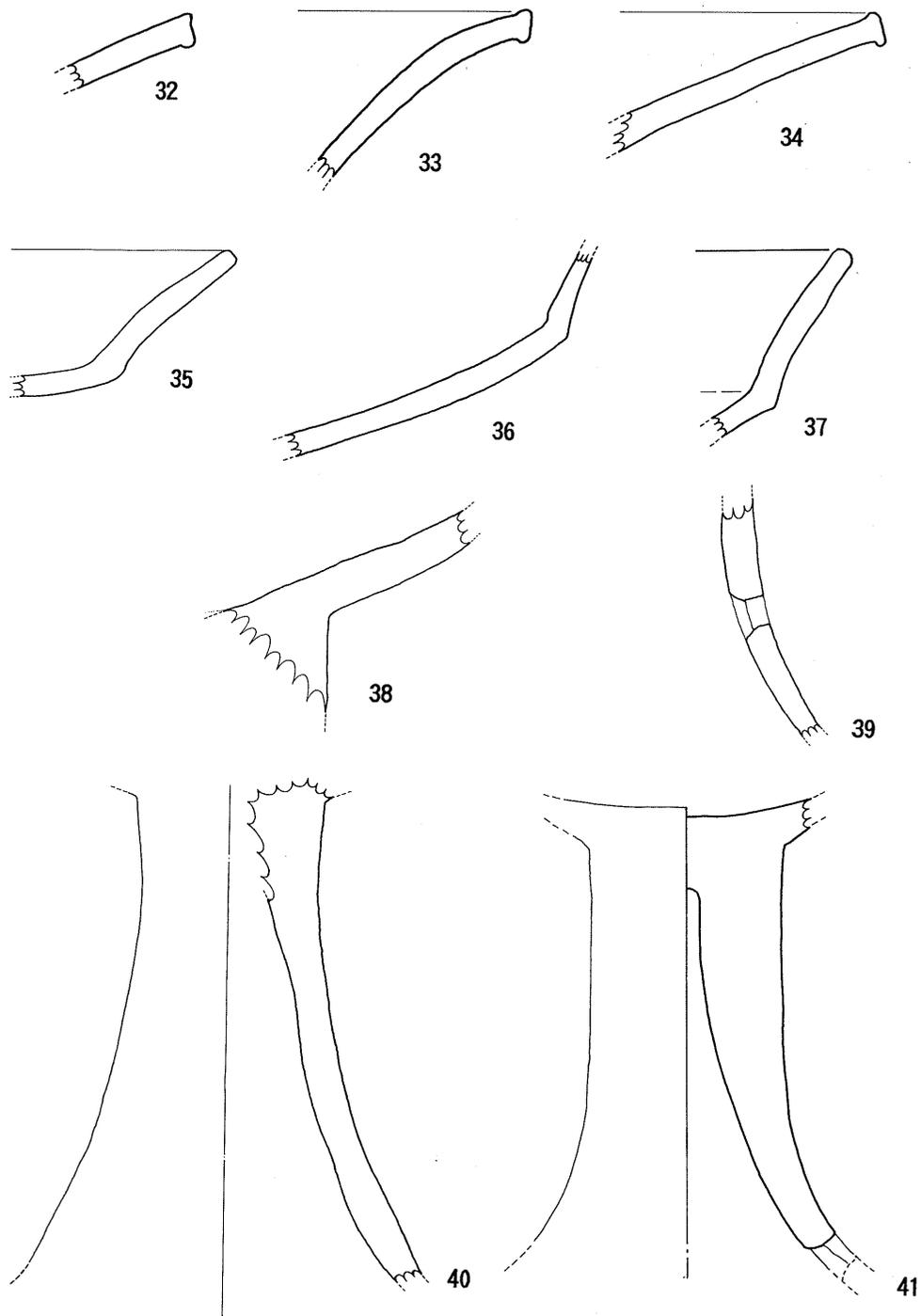
第14图 東原C地点
2号竖穴式住居出土土器片实测图(1)



第15图 東原C地点
 2号竖穴式住居出土土器片实测图(2)



第16图 東原C地点 2号竖穴式住居出土土器片实测图(3)



第17图 東原C地点
2号竖穴式住居出土土器片实测图(4)

6は2条の刻目突帯を有する甕形土器の胴部である。

7～18はいずれも拡張部に楕円波状文を施した二重口縁壺の口縁部であり、口縁反転部には明瞭な稜が見られる。9～14の二重口縁部が直立するのに対して、15・16（・17）は内傾しており、時期的なずれが見られる。

3・4・20～22は頸部が強く「く」の字に屈曲している壺形土器あるいは杯の口縁部である。

19の口縁部は、おそらく甕形土器のもので、ほぼ直線状にのびている。

23は壺形土器の胴部である。

24・25は壺形土器の底部、26・27は甕形土器の底部である。いずれも平底であるが、27は若干レンズ状の様相を帯びている。

28は、長胴甕で、平底である。

29・30は壺形土器の胴部～底部である。29は最大径を胴部上方にもち、肩部がはっている。30は最大径を胴部中程にもつ。

31は平底で急峻に立ち上がる甕形土器であるが、底部に直径5mmの穴が穿たれている。

32～37は高杯の口縁部～杯部である。35・36・37は、杯下半部が内彎しながら開き、口縁部が稜をもって外反している。

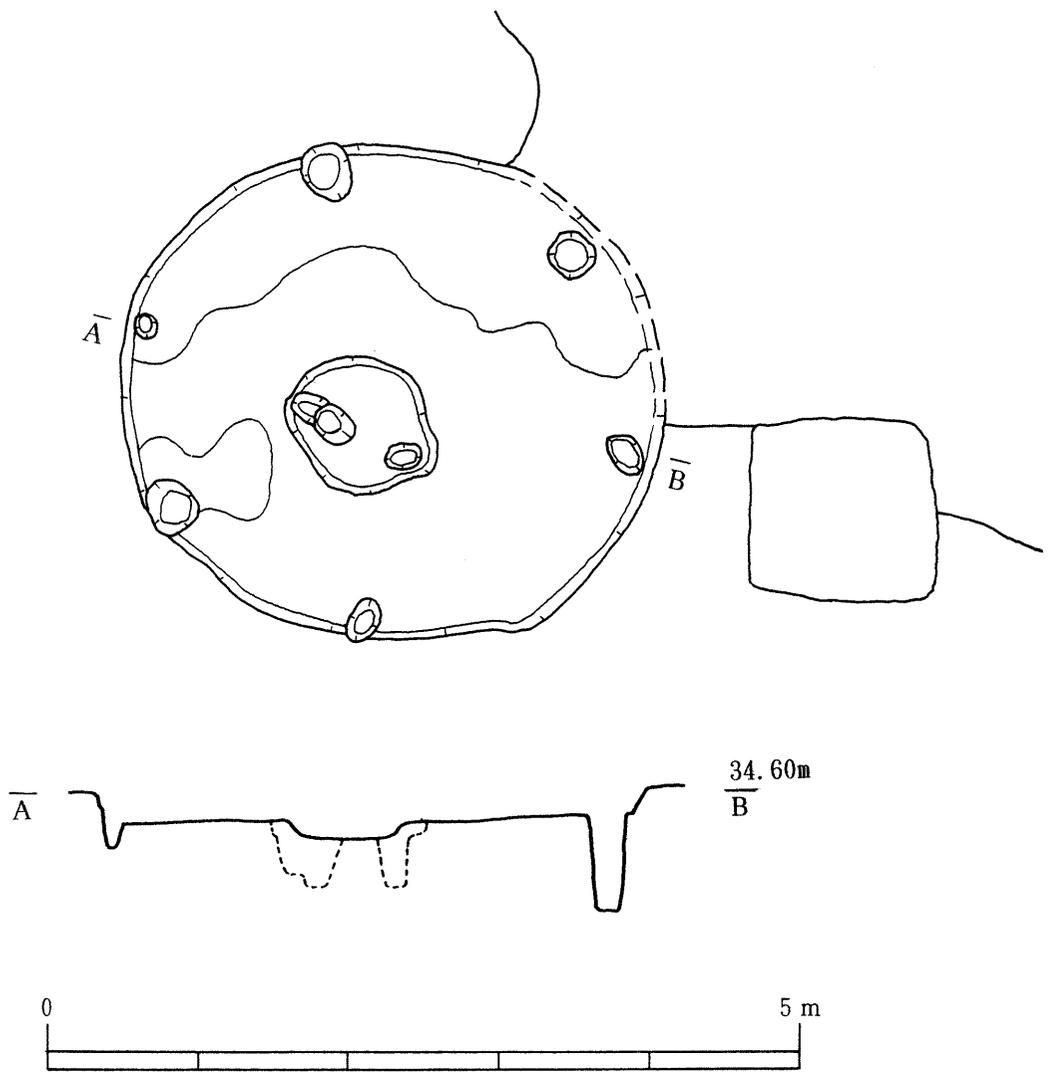
38は高杯の杯部と脚部の接続部分である。

39・41はゆるやかに外反しながら「ハ」の字に開く高杯の脚部、40は直線状に立つ円柱状の脚部が裾部で外反して「ハ」の字に開く高杯の脚部である。39は直径7.5mmの円形透かし孔を有する。

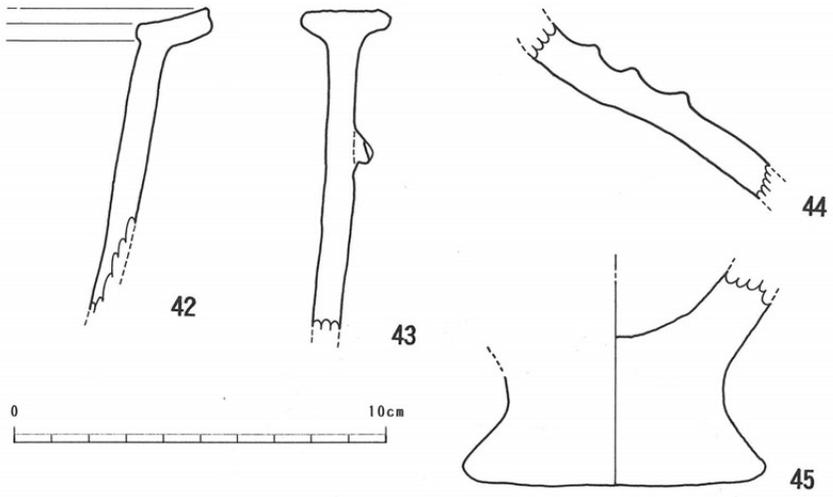
3号竪穴住居（SA-3）

e-6グリッドから検出された。東西径3.65m、南北径3.3mの不整円形プランである。住居のほぼ中央にある長径1.1mの掘り込みの中に2本の支柱穴があり、壁際には6本の柱穴がめぐり、円形住居の典型を示している。

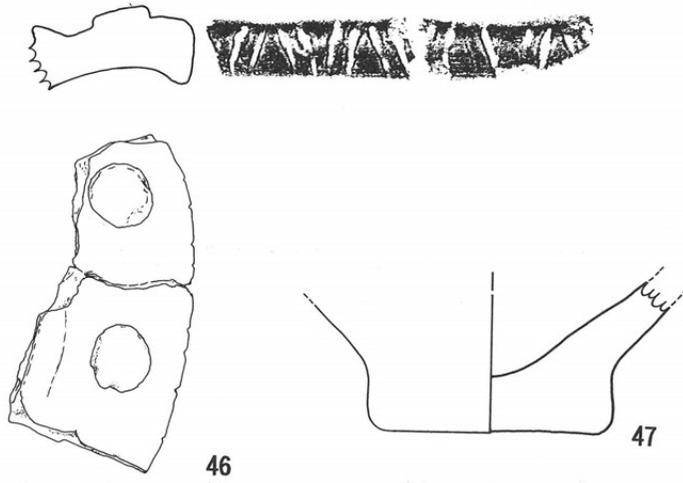
3号住居の出土遺物は少量であったが、他の住居の遺物には見られない特徴を示す土器片が出土しており、住居のプランと合わせて考えても、時期的に他の住居より先行する時代のものと思われる。



第18图 東原C地点 3号竖穴式住居 (S A - 3) 实测图 (S=1/50)



第19图 東原C地点 3号竖穴式住居出土土器片实测图



第20图 東原C地点 5号竖穴式住居出土土器片实测图

42は口径を最大径とする甕形土器で、口縁部は「く」の字に強く屈曲し、内側への張り出しがみられる。43も甕形土器で、口縁部が内外にT字型に伸び、その下部に刻目突帯がめぐっている。44は壺形土器の頸部直下の胴部で、刻目のない3条の三角断面の突帯がめぐらされている。42・43・44ともに、本遺跡の遺物の中でも古い様相を示しているものと思われる。

45は甕形土器の底部で、平底である。

4号竪穴住居（SA-4）

e-6・7グリッドにかけて検出された。東西辺5.0m、南北辺4.9mを測る、ほぼ正方形のプランである。支柱穴は4本であり、四隅に配されている。柱穴間の距離はそれぞれ2.45m・2.2m・2.25m・2.1mである。

遺構の遺存状態は比較的良好であったが、遺物の出土は見られなかった。

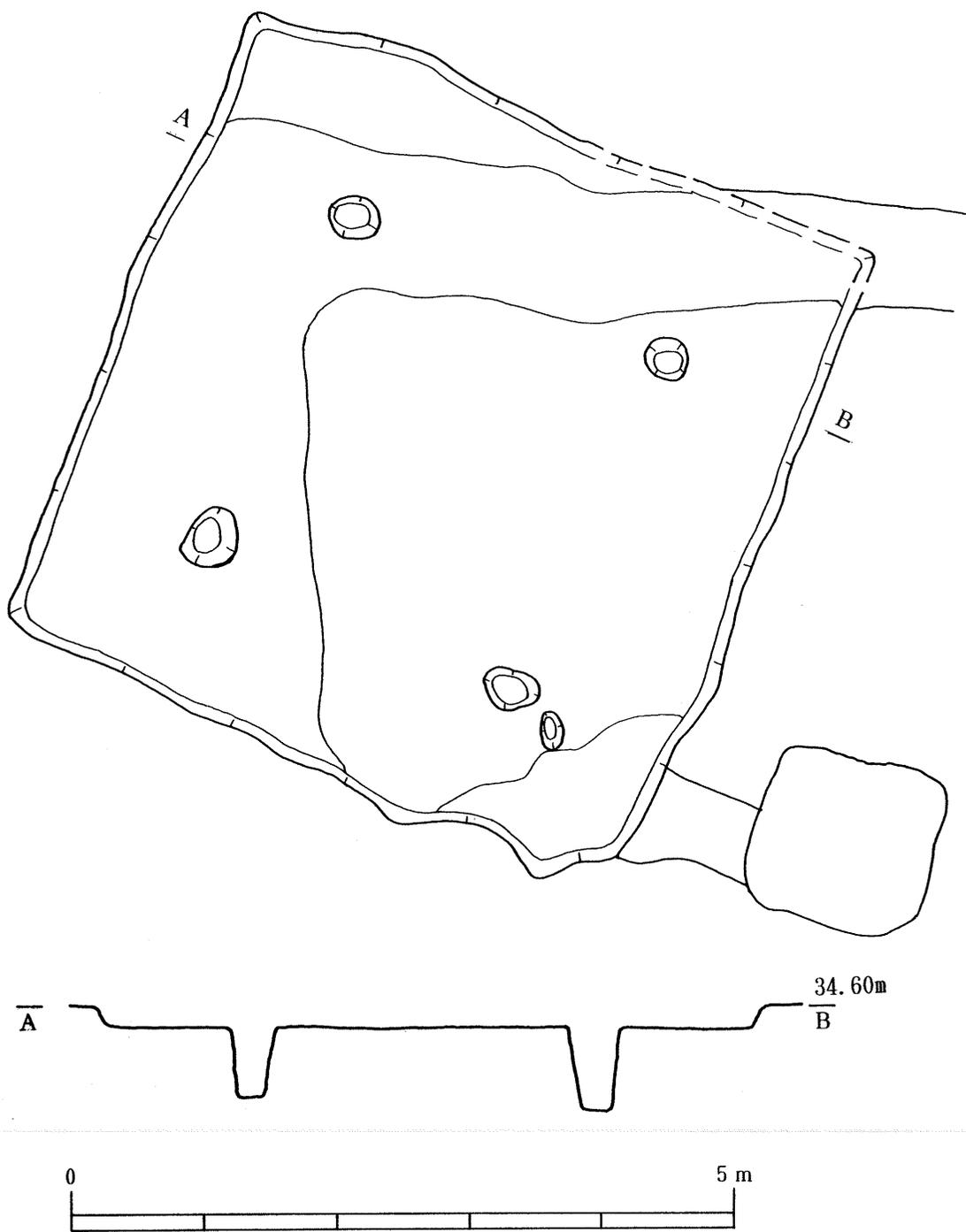
5号竪穴住居（SA-5）

e-7グリッドから検出された。東西辺4.0m、南北辺5.0mを測る。

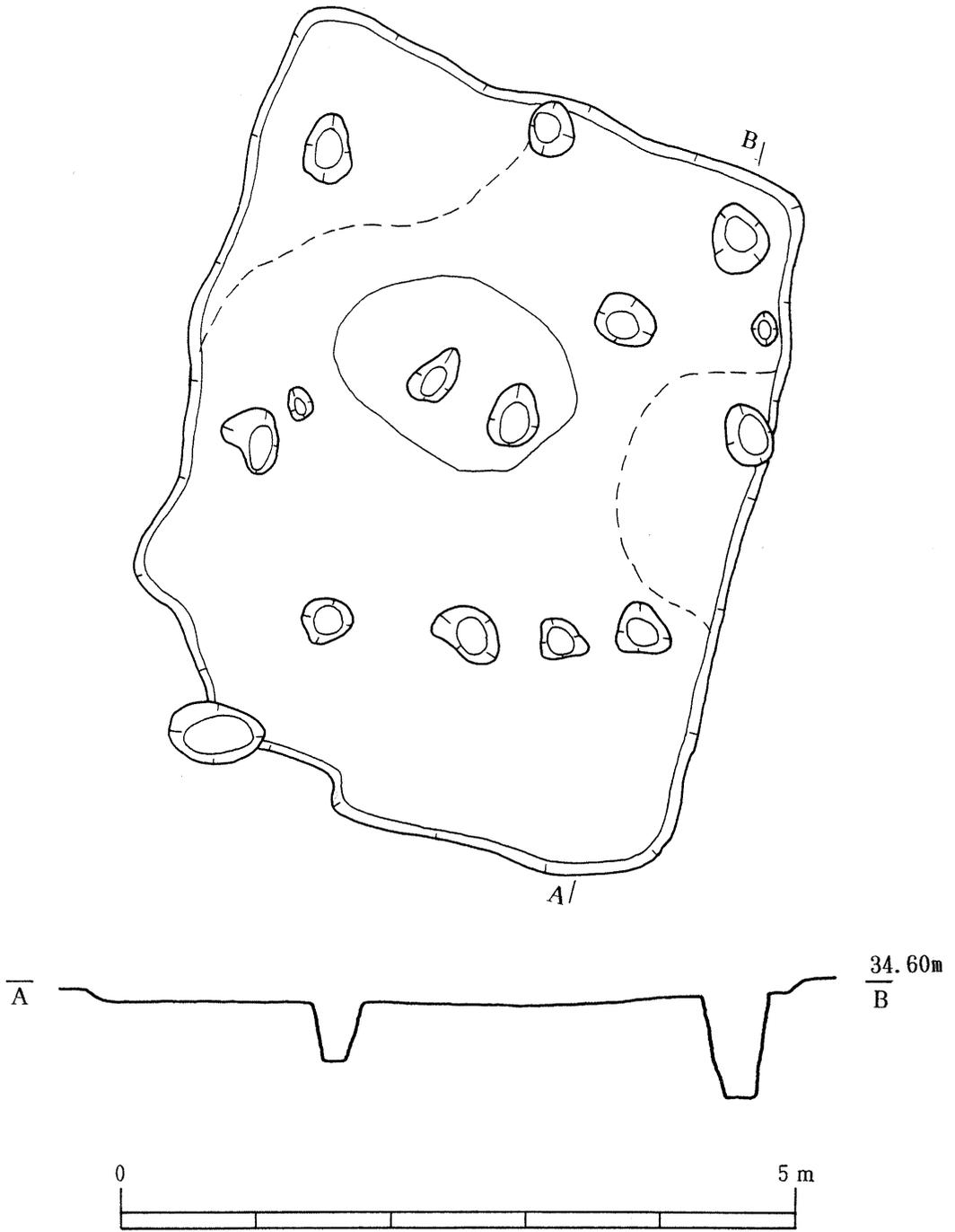
北隣の4号住居が明確な4本柱穴を示しているのに対して、大小14本の柱穴が検出され、支柱穴が判然としない。むしろ、方形プランの住居の柱穴というよりは、3号住居址の柱穴と同様に、円形プランの中央の掘り込みの中に2本の支柱穴を設け、壁際に円周を描くように配した柱穴のような印象を受ける。あるいは、円形プランの住居址をすっぽり覆うようにして方形プランの住居址が作られたのかも知れない。

遺物の出土はごく少量であったが、東原A・B・C・D地区の出土遺物の中でもただ1点となる、46の壺形土器の鋤先状口縁部が出土している。口縁端部に刻線文、口縁平坦面上に長径1.8cmの円形浮文を貼付する。弥生時代中期後葉～後期初頭の遺物と考えられる。

47は甕形土器の底部であり、平底である。



第21図 東原C地点 4号竪穴式住居 (SA-4) 実測図 (S=1/50)



第22图 東原C地点 5号竪穴式住居 (S A-5) 実測図 (S=1/50)

6号竪穴住居（SA-6）

c-5・6グリッドにかけて検出された。プランは隅丸方形であり不整合だが、東西軸約3.9m、南北軸約4.3mを測る。住居規模からして2本柱と思われるのだが、住居西壁側に集中して3本の柱穴が検出されたのみである。

上部がかなり削平を受けているため、遺存状態はけっして良好ではなかったが、土器の出土量は、東原C地区の住居址では2号住居址と並んで多かった。

48はいわゆる「下城式」の甕形土器の口縁部である。49～52は甕形土器の口縁部で、49は、刻み目を有する逆L字状口縁の直下に、二条の刻目突帯が施される。

53は短頸壺の口縁部、54は壺形土器の口縁部である。

55は壺形土器の胴部、56・60は壺形土器の底部。

57～59・61は甕形土器の底部である。57は上げ底気味、58は上底で、59・61は平底である。62は壺形土器の底部で平底である。

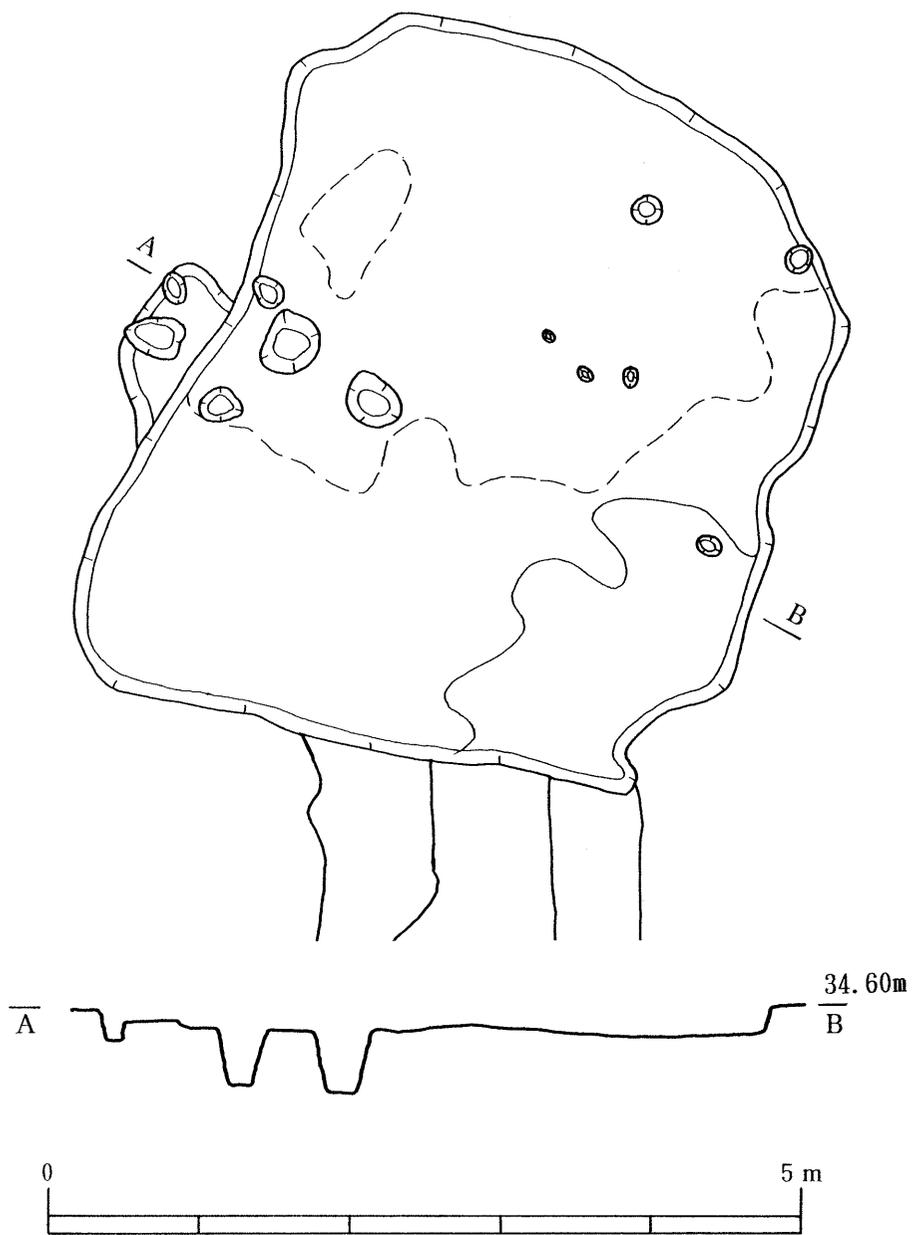
63は長胴甕である。

64～69は高坏の口縁部、71～74・76は高坏あるいは器台の脚部、75・77～79は器台の脚部である。いずれもゆるやかに外反し、脚部が「ハ」の字に開く。また、77は4か所に直径11mmの、78も4か所に直径12mmの、79は確認されたのは1個のみだが直径12mmの円形透かし孔が、それぞれ脚部下方に開けられている。

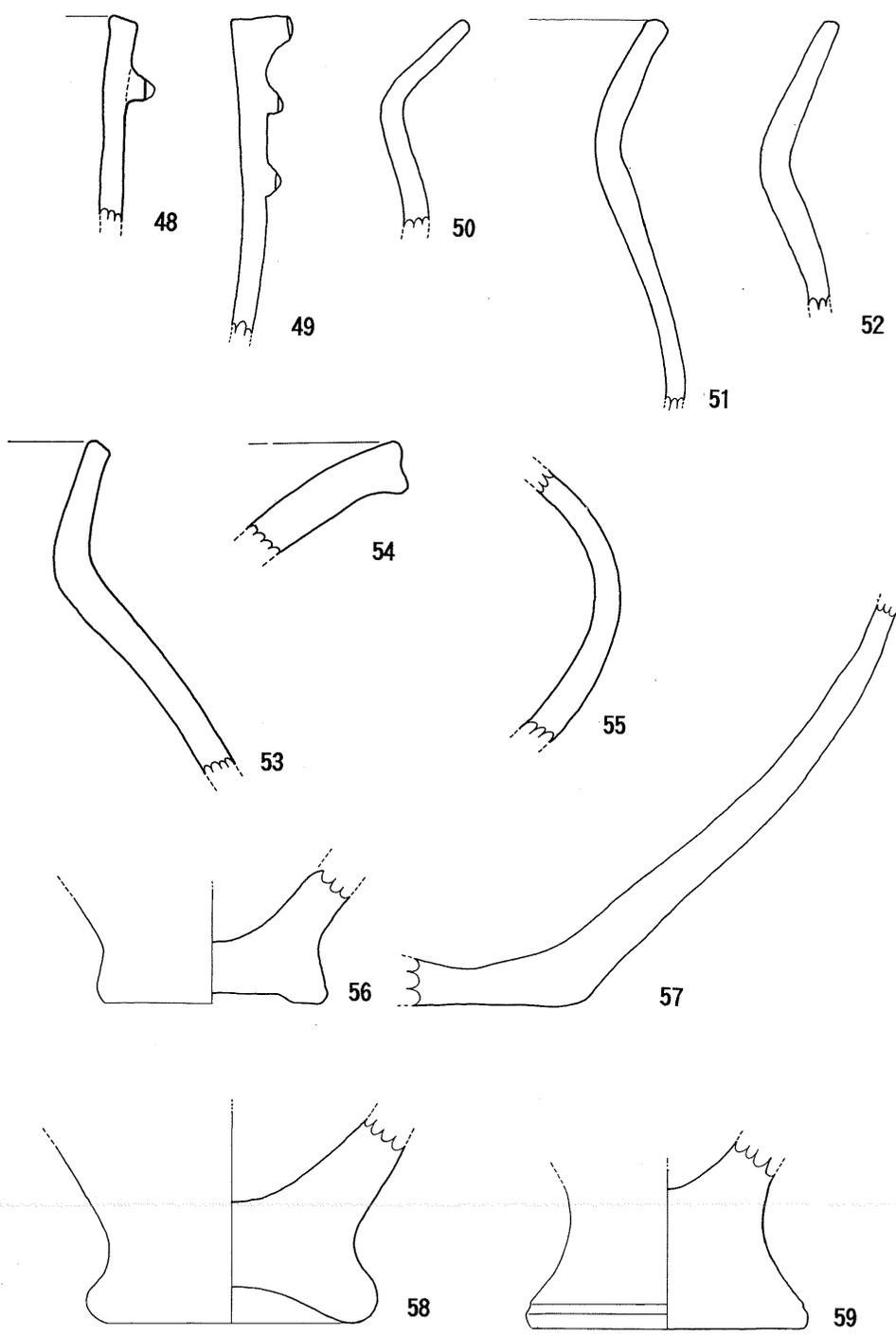
7号竪穴住居（SA-7）

b-7・8グリッドより検出された。隅丸方形プランで、東西軸5.1m、南北軸4.3mを測る。柱穴は2本検出し、柱穴間の距離は2.1m。また、柱穴間の南寄りに長径80cm、短径60cm、深さ約50cmの土壇が設けられている。

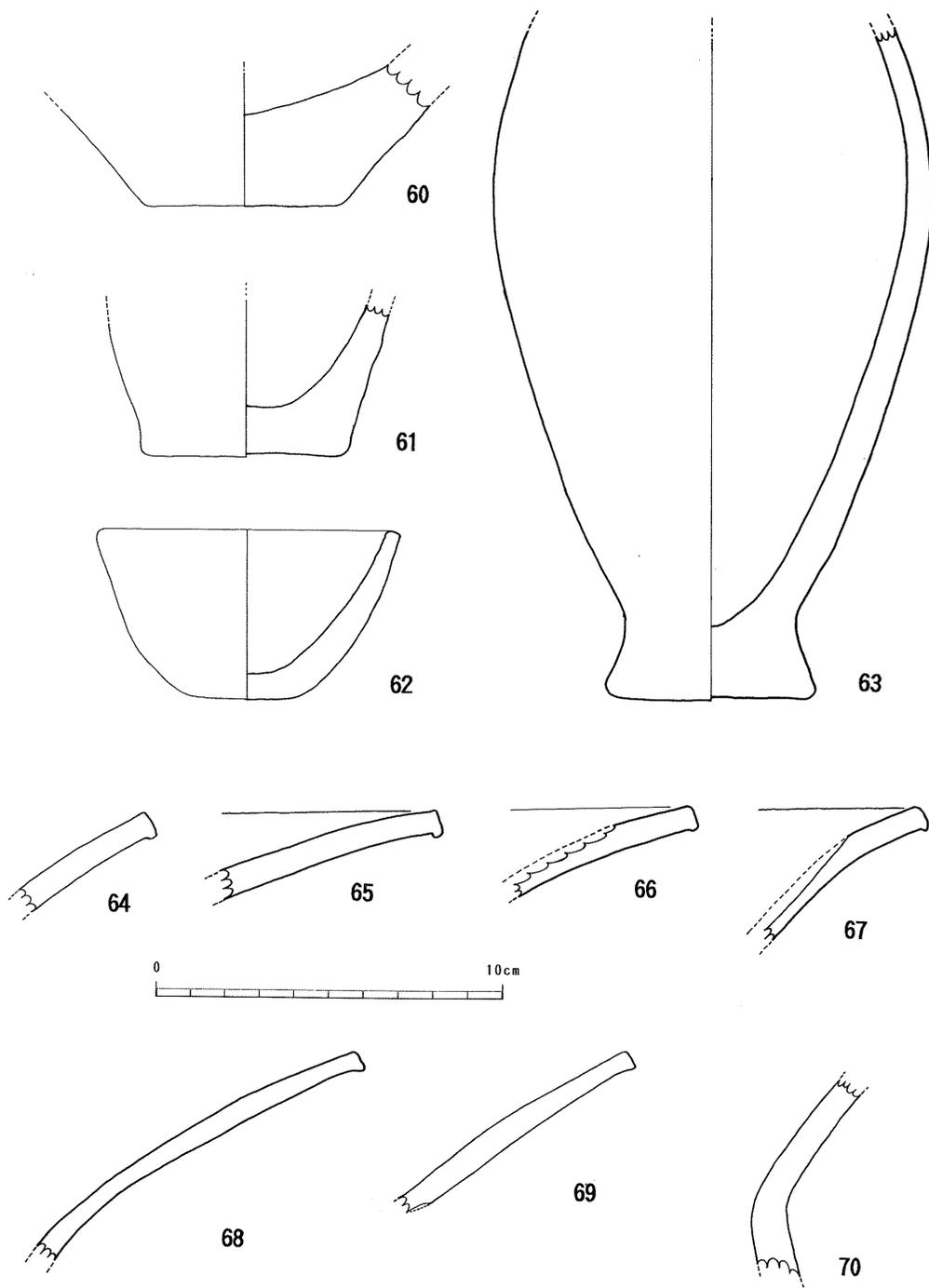
遺物は出土していない。



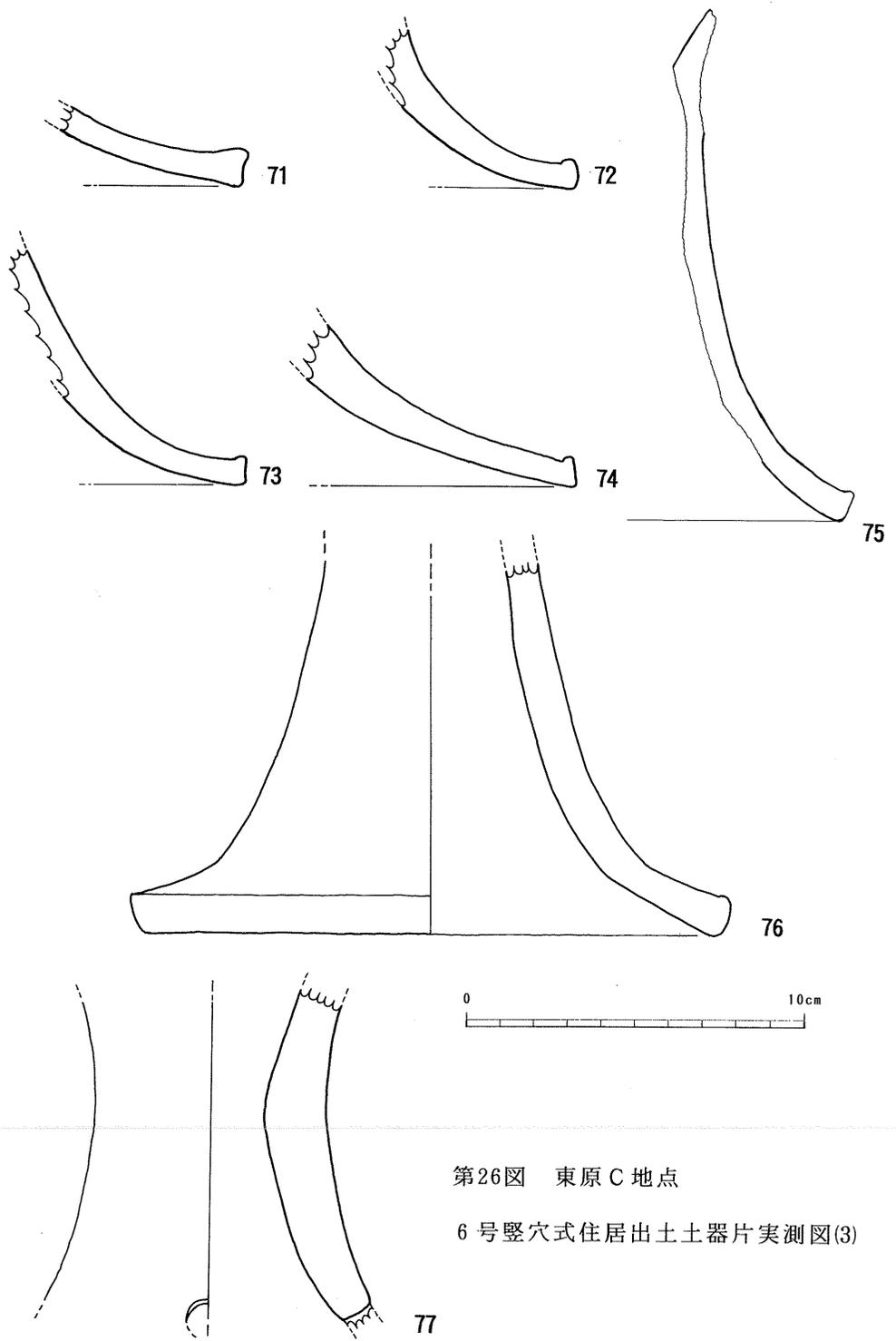
第23図 東原C地点 6号竪穴式住居 (SA-6) 実測図 (S=1/50)



第24图 東原C地点
6号竖穴式住居出土土器片实测图(1)

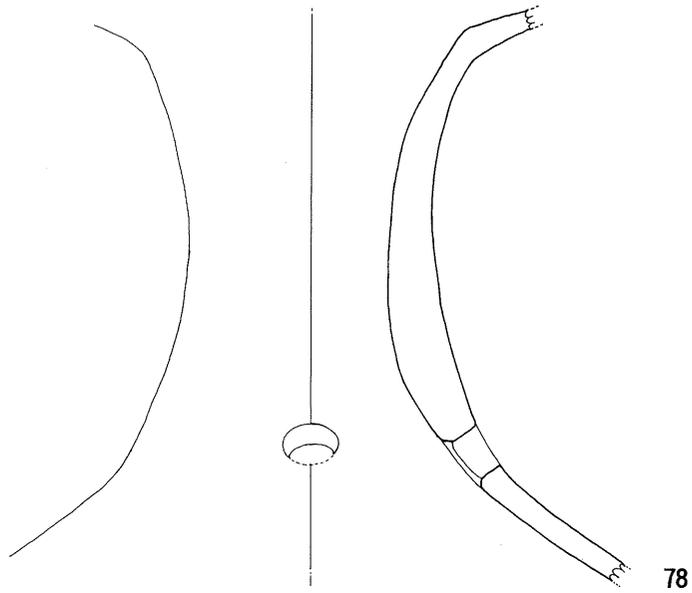


第25图 東原C地点 6号竖穴式住居出土土器片实测图(2)

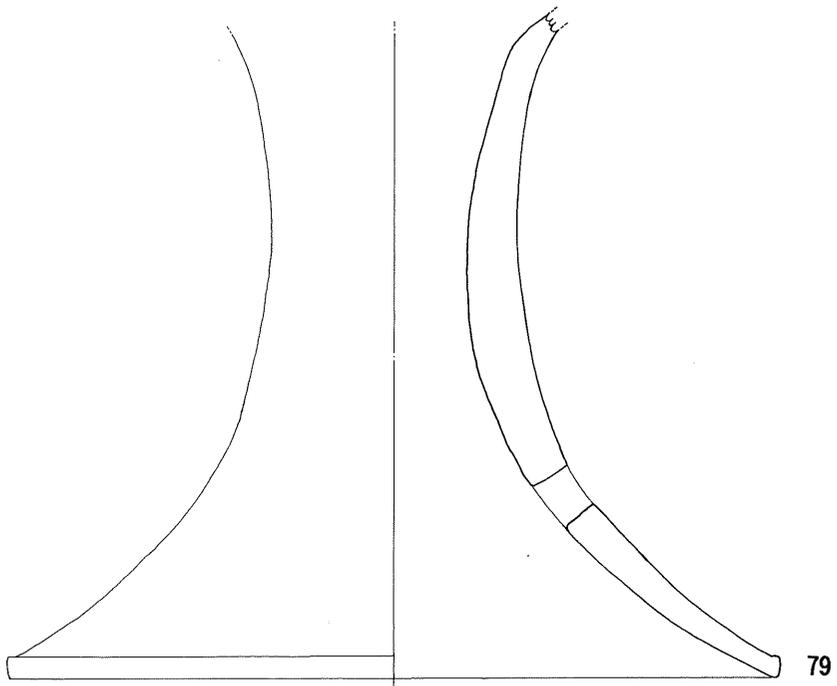


第26图 東原C地点

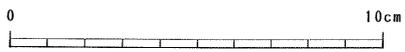
6号竖穴式住居出土土器片实测图(3)



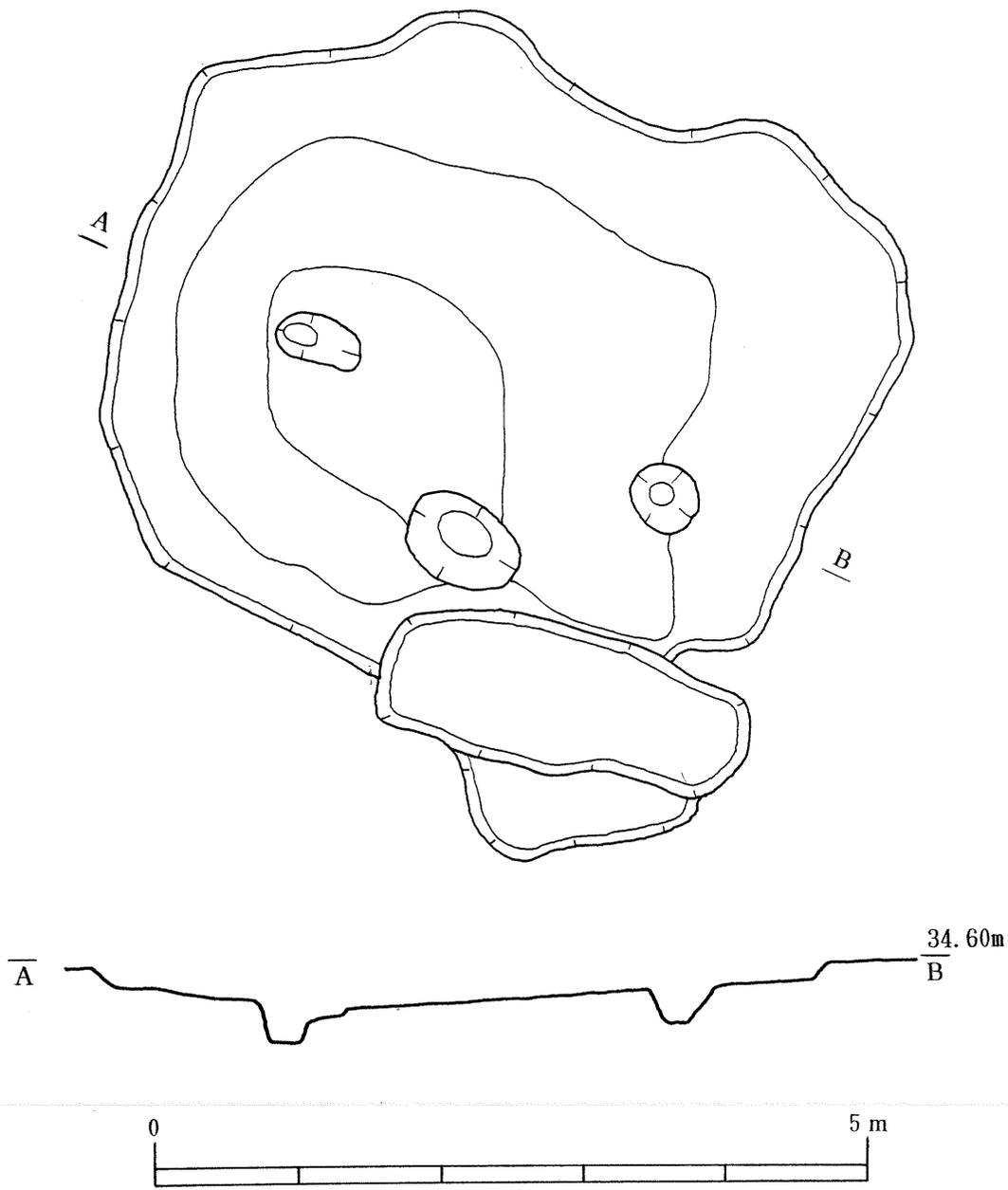
78



79



第27图 東原C地点
6号竖穴式住居出土土器片实测图(4)



第28图 東原C地点 7号竖穴式住居 (SA-7) 实测图 (S=1/50)

8号竪穴住居（SA-8）

b-7・8、c-7・8グリッドにかけて検出された。南北辺約5.8mを測るが、東側は1号溝状遺構によって切り込まれている。切り込まれた縁までの東西辺（南辺）は約5.3mである。中央やや西寄りに3本の柱穴が重なりあうように検出されたが、これを支柱穴1本にまとめられるものとして、それに対応して東側、おそらくは1号溝に切り込まれた部分に、もう片方の支柱穴があったのではないかと推測される。

80～85は「下城式」の甕形土器の口縁～胴部である。81はやや外反気味で、口唇部の外端部が若干張り出している。

86も二条の刻目突帯のある胴部だが、M字に近い断面の刻目突帯があり、刻目も浅く、「下城式」の土器とは印象が異なる。

87は、外反し、口唇部が丸みをおびる口縁部である。

【第2節 V字溝状遺構】

1号V字溝（SE-1）

1号V字溝は、C地点西部のb-6～b-7グリッドにかけて北東から南西方向へカーブを描く周溝である。検出面での幅約1.0～1.2m、深さ約0.8～0.9mを測る。

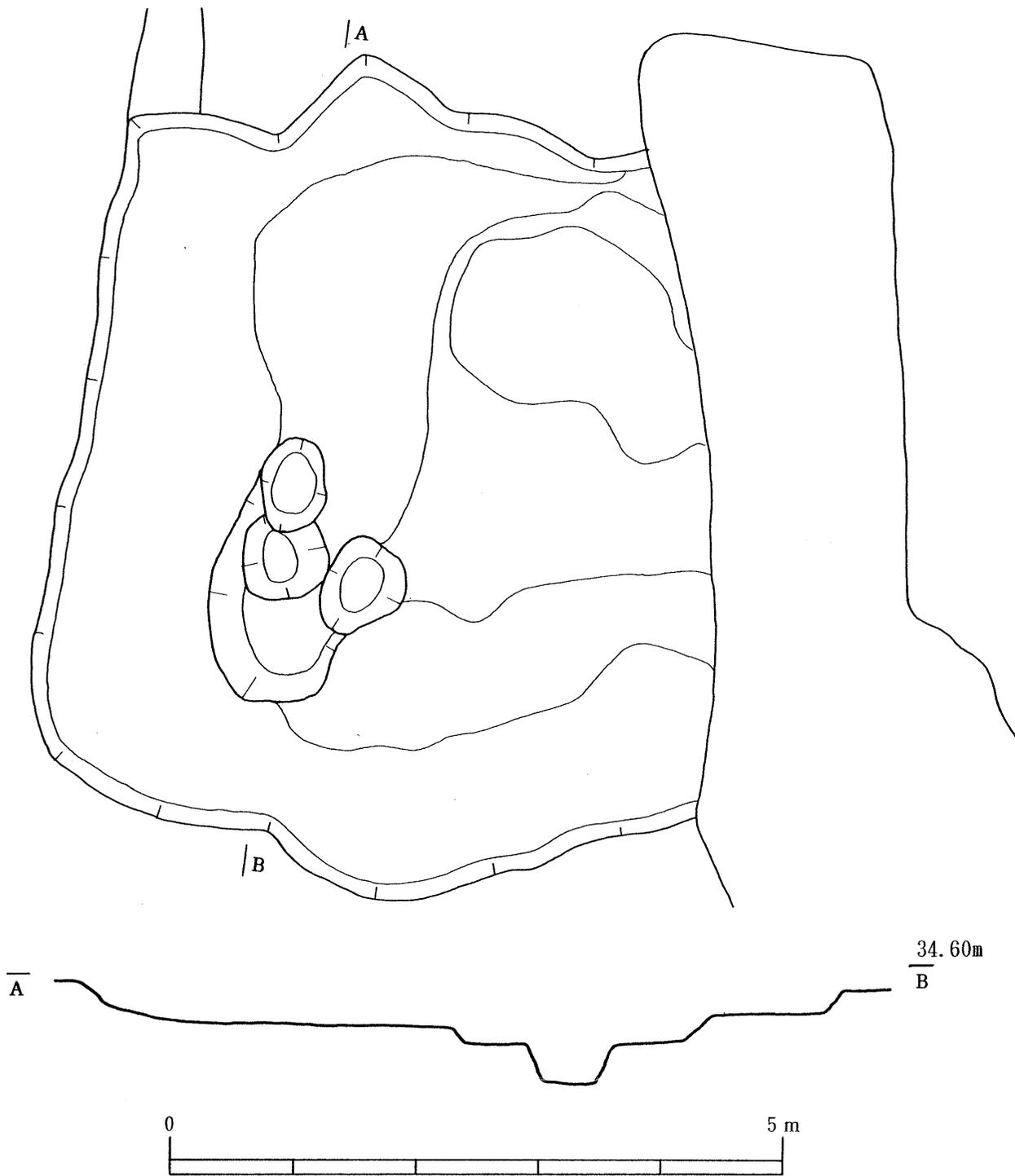
遺物88～90は「下城式」の甕形土器の口縁部である。90はやや外反気味で、口唇部の外端部が若干張り出すタイプ。

91は大型の壺形土器の平底の底部である。

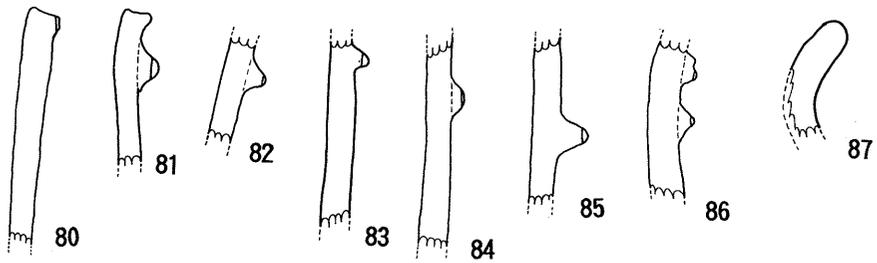
2号V字溝（SE-2）

幅3.1mのブリッジ部により1号V字溝と分断されているが、1号と2号でひと続きのV字溝遺構とみなしてさしつかえないものと思われる。

7号竪穴住居と8号竪穴住居に挟まれ、そこから南東方向にb-7からa-9グリッドにかけて、円周状のカーブを描きながら調査区外に伸びている。検出面での幅は約1.5～1.8m、深さは約1.0mである。



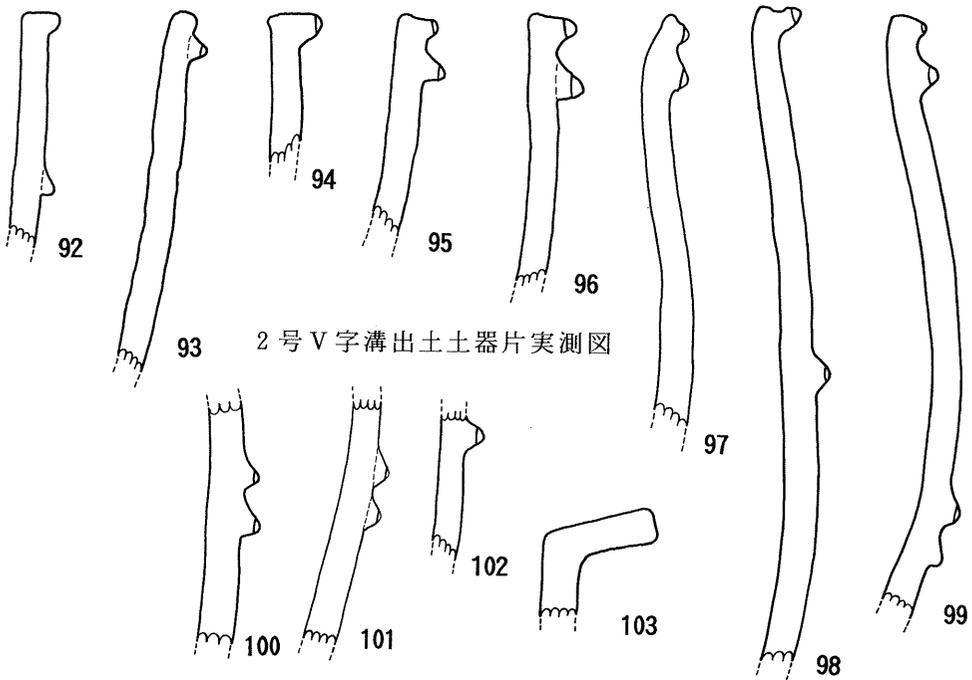
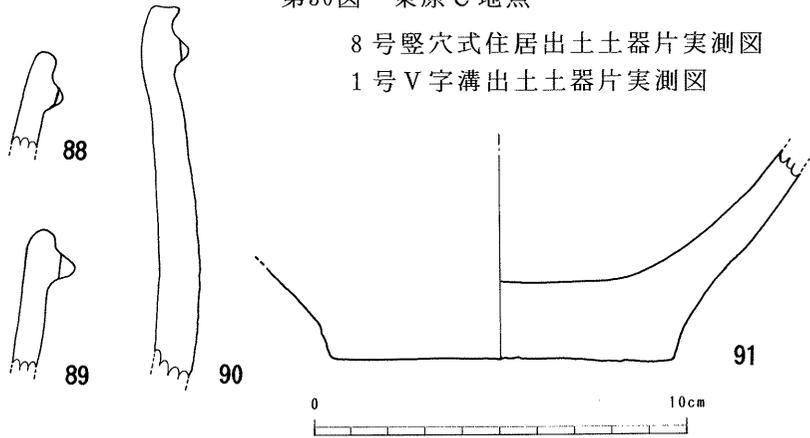
第29図 東原C地点 8号竪穴式住居 (SA-8) 実測図 (S=1/50)



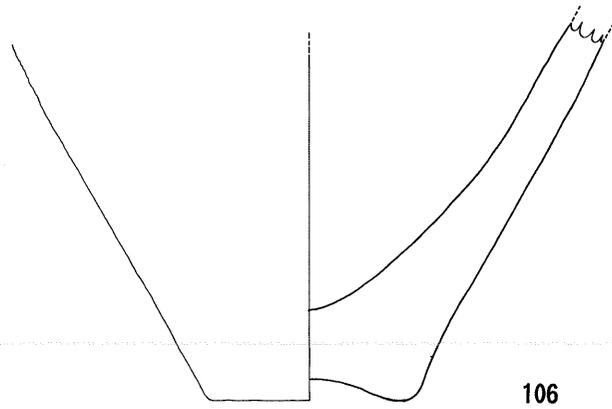
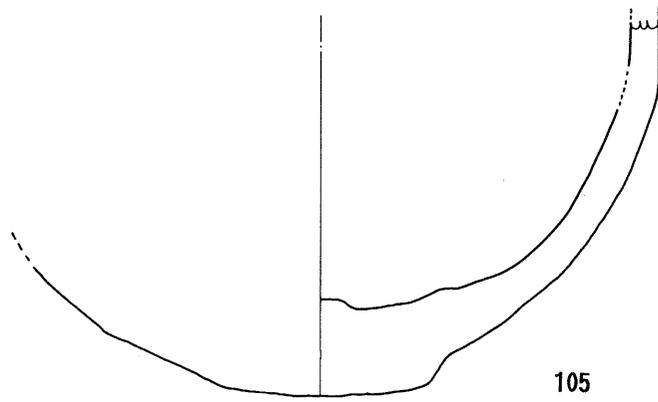
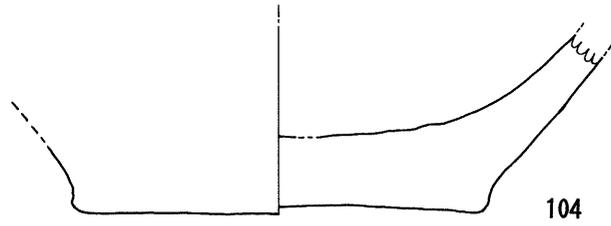
第30图 東原C地点

8号竖穴式住居出土土器片实测图

1号V字溝出土土器片实测图



2号V字溝出土土器片实测图



第31图 東原C地点 2号V字溝出土土器片实测图(2)

遺物も1号溝と同時期と思われるものが出土している。

92～102 は口唇部やその下部に一条あるいは二条の刻目突帯をめぐらせた甕形土器の口縁部である。胴部に縦方向あるいは斜め方向のハケ目調整が見られる。口唇部に刻目突帯があるなど、若干印象が異なるものの、「下城式」系統のものと思われる。

103 は逆L字型の甕形土器の口縁部である。

104 ・105 は平底を呈する壺形土器の底部で、104 は胴部と底部の境に段を持っている。105 はタマネギ形の胴部と思われる。

106 は甕形土器の底部であり、胴部のたちあがり急峻で上底を呈している。

【第3節 土壌】

1号土壌（SC-1）

1号土壌はb-8・9グリッドにかけて検出された。2号溝に切り込んで設けられている、直径1.25m、深さ1.35mの土壌であり、さらに直径約8.0m深さ2.2m以上の極めて大型で、かなり後世のものと思われる時期不明の円形の落ち込みによって半分近くを切り込まれている。

107～114・118 は甕形土器、115～117・119～122 は壺形土器の口縁部あるいは頸部である。

107・108・109 は「下城式」の甕形土器の口縁部である。

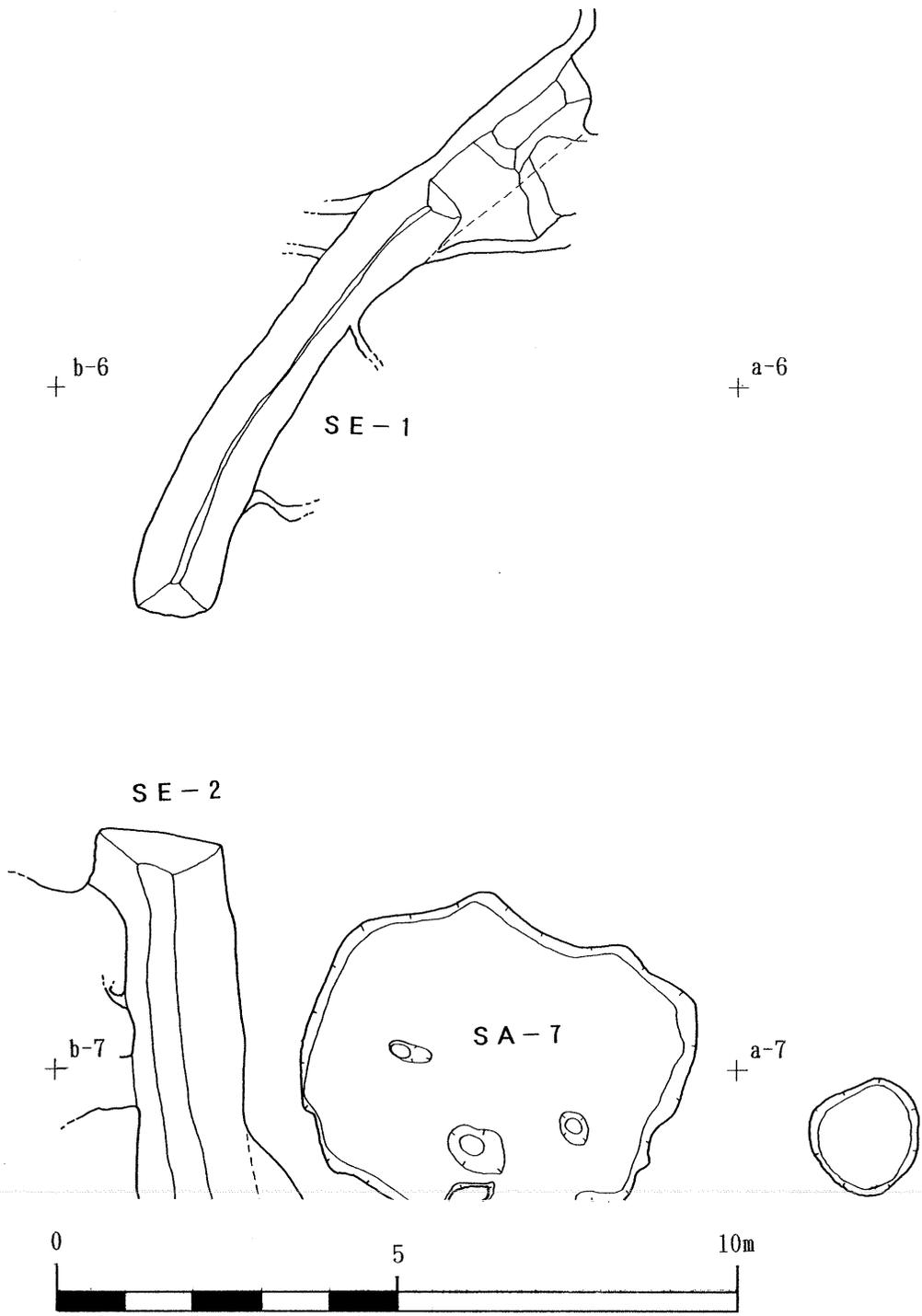
110 は甕形土器の水平方向にのびる逆「L」字形口縁部である。内側にやや張り出し、口唇部は凹気味である。

111 はほぼ横に向かって外反する口縁部で、口縁端部が肥厚している。

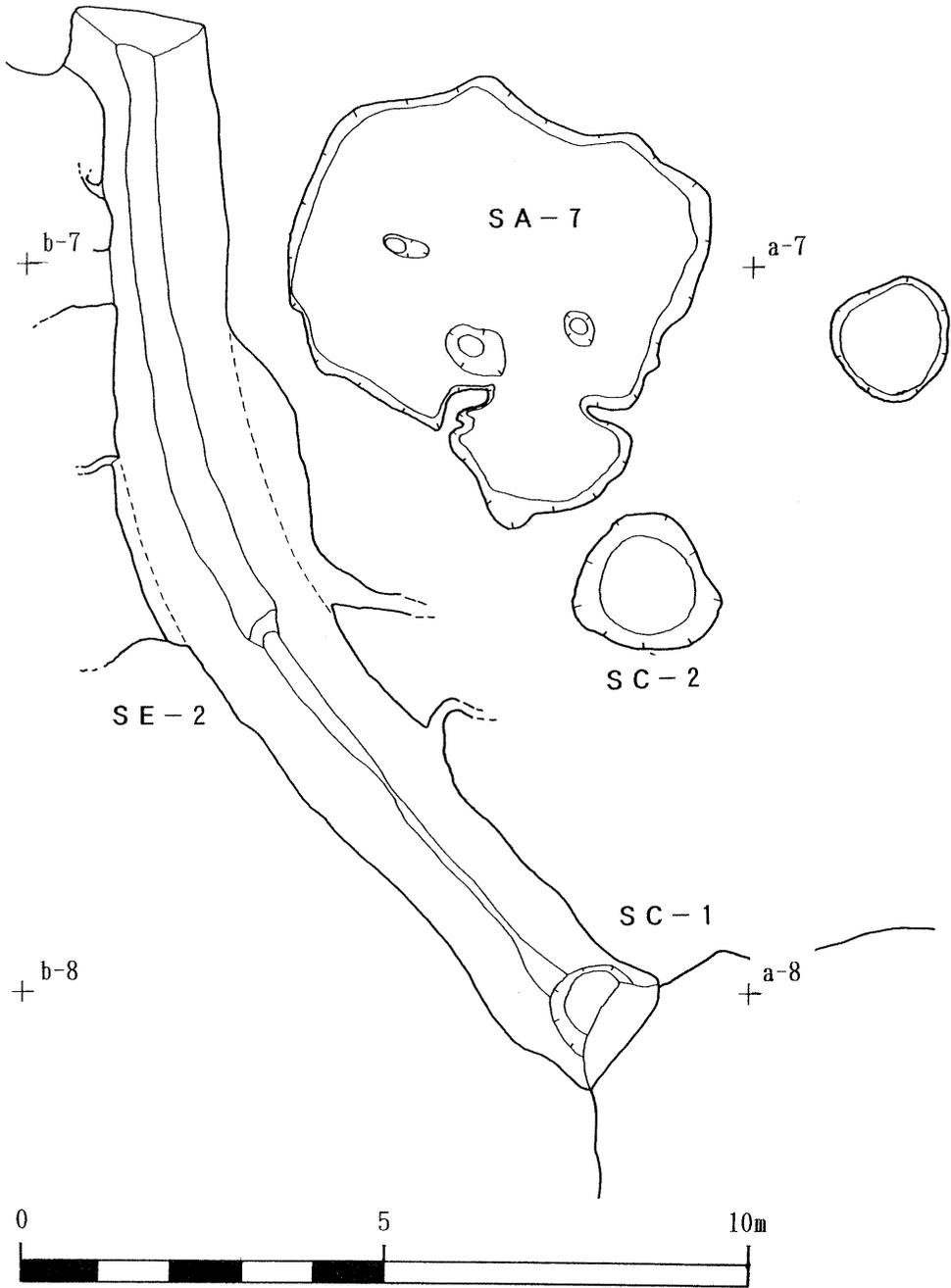
2号土壌（SC-2）

b-8グリッドにおいて、7号住居の南東部に隣接して検出された。長径2.0m、短径1.8m、深さ1.4mを測る。

出土遺物は比較的多い。112～114・118 は甕形土器、115～117・119～122 は壺形土器の口縁部あるいは頸部である。

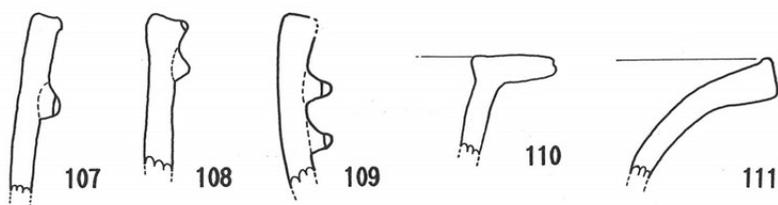


第32図 東原C地点 1号V字溝 (SE-1) 実測図 (S=1/100)

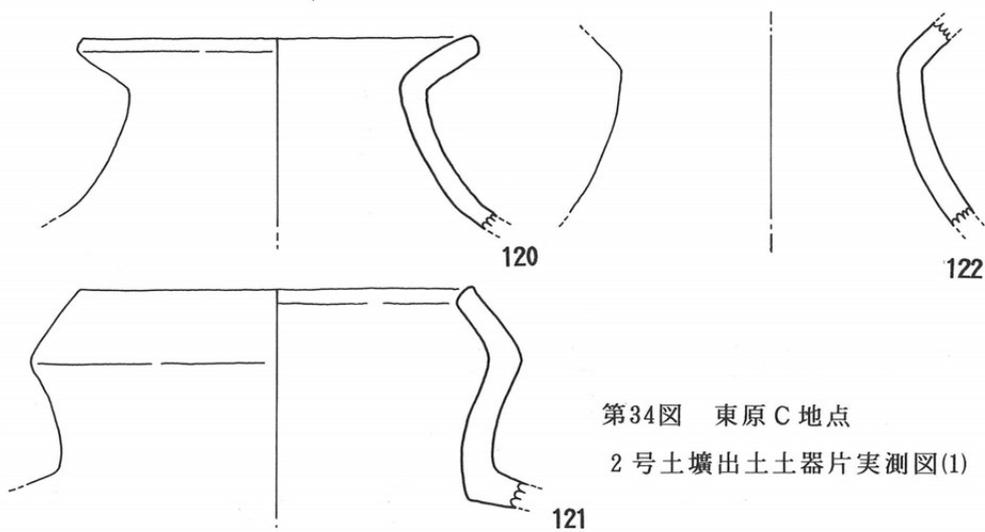
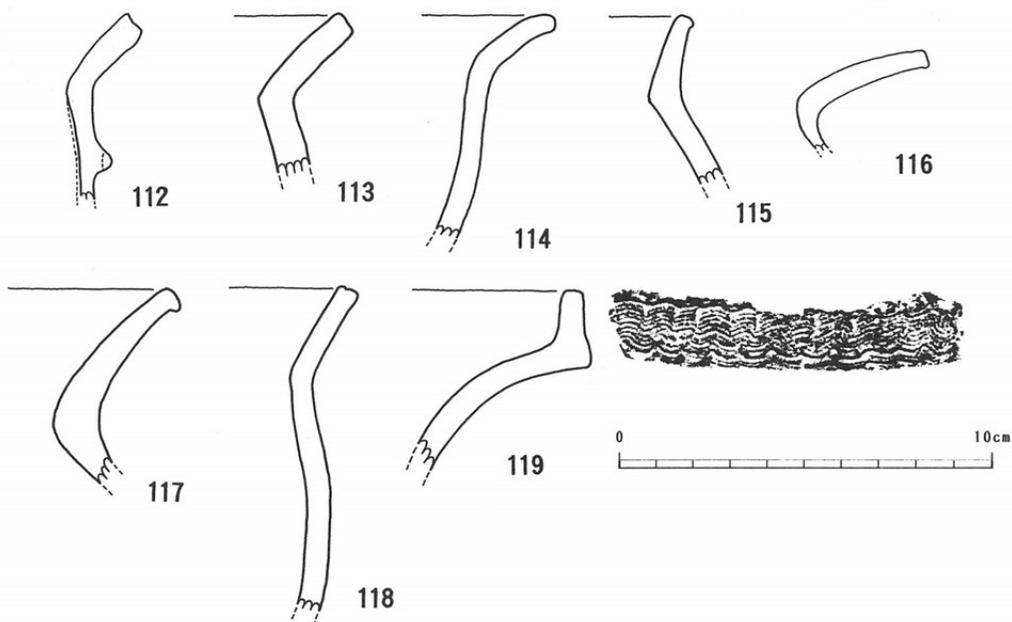


第33図 東原C地点 2号V字溝 (SE-1)

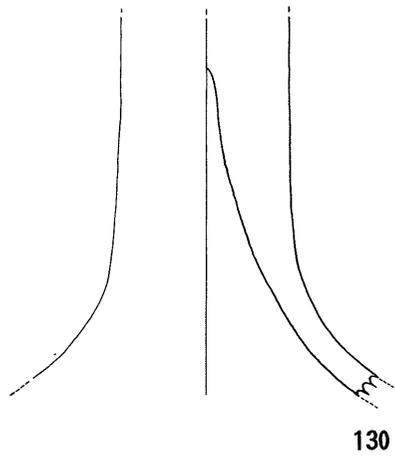
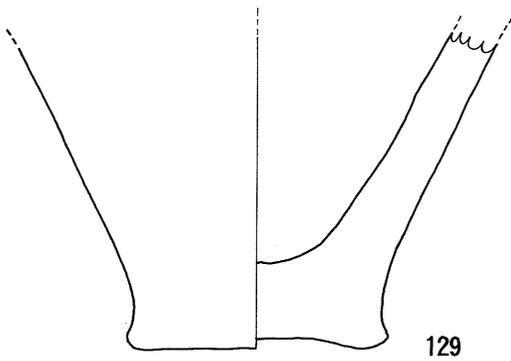
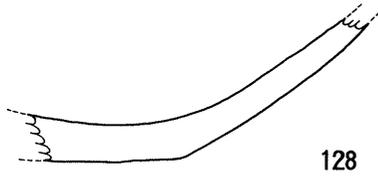
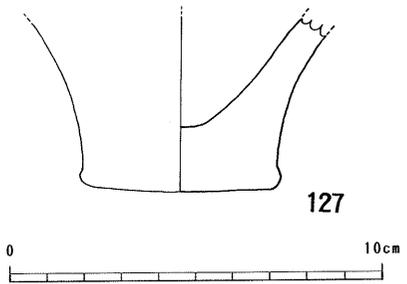
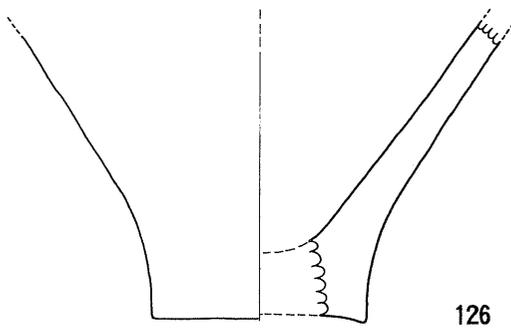
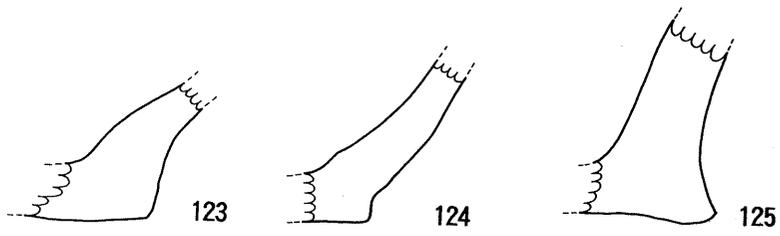
1号土坑 (SC-1) ・ 2号土坑 (SC-2) 実測図 (S=1/100)



第34图 東原C地点 1号土壤出土土器片实测图



第34图 東原C地点
2号土壤出土土器片实测图(1)



第35图 東原C地点 2号土壙出土土器片实测图(2)

112 は外反した口縁部の直下に刻み目突帯を有する、いわゆる「中溝式」の甕形土器の口縁部である。

116 ・117 は頸部が強く「く」の字に屈曲する壺形土器の口縁部である。

119 は直立する拡張部に楡描波状文を施した二重口縁壺の口縁部である。

120 ・122 は、頸部が内彎ぎみに内傾しながら、口縁が「く」の字に屈曲する壺形土器である。。

121 は「く」の字に内傾する複合口縁壺。

123 ・124 ・128 は壺形土器の底部、125 ～127 ・129 は胴部が急峻にたちあがる甕形土器の底部である。125 ・126 ・129 は上底気味、他は平底である。125 ・127 ・129 の底部は外方に張り出している。

130 は高坏の脚部である。垂直に立ち上がる脚部が、脚裾部で急に広がっている。

【第4節 遺構を伴わない遺物】

以下は、いずれも、遺構に伴わず、表土、あるいはアカホヤ直上層から出土した遺物である。

131 ～135 は甕形土器の口縁部である。131 ～133 は「下城式」の甕形土器の口縁部である。

134 は口縁部が内側に稜をもって水平方向に伸びて逆「L」字をなし、口縁部直下に2条の三角突帯を有する。口縁の突帯は台形状をない、口唇が凹気味である。

135 は口唇外縁が突帯状に張り出して、刻目がほどこされている。

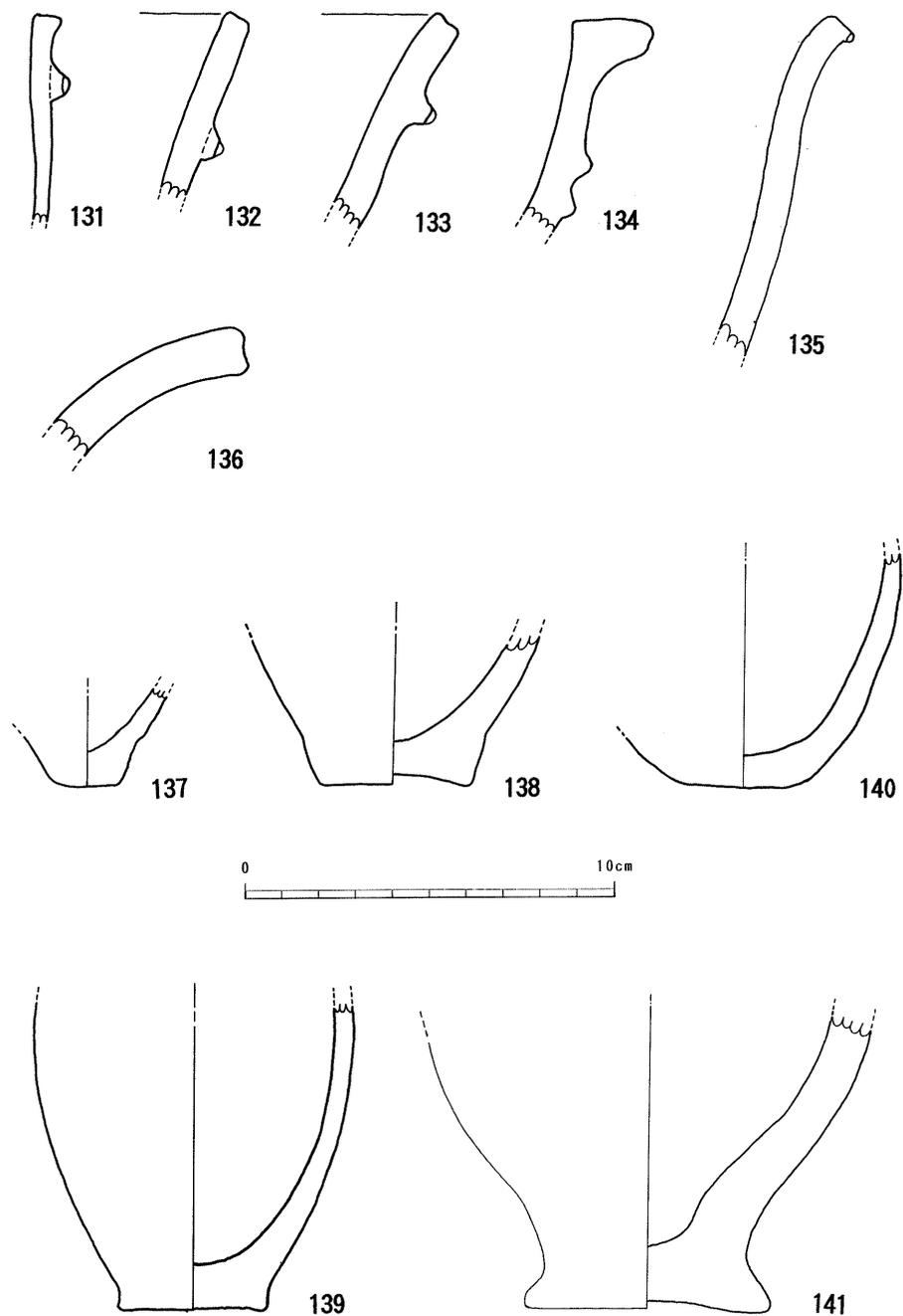
136 はおそらく大型の壺形土器の口縁部で、水平方向近くまで大きく外反しつつ口唇部はくぼんでいる。

137 ～140 は底部である。138 ・141 は上底気味だが、その他は平底である。

141 は底部が外方に張り出し、その直上でくびれている。

137 ・138 ・140 はb-5グリッドに出土した手づくねのミニチュア土器で、137 ・138 は鉢形土器、139 は甕形土器である。

139 は小型の長胴甕である。



第36図 東原C地点 遺構に伴わない土器片実測図(2)

第V章 東原D地点

【第1節 V字溝跡】

D地点は、小支谷の地形がそのまま残されていた部分で、耕作地などの造成は行われていなかった。斜面地ということもあり、遺構は残存していないものと思われたが、アカホヤと思われる火山灰堆積層の露呈面まで重機で掘り下げたところ、溝状遺構の輪郭が検出され、それに伴う土器片が多く出土した。遺構が谷状の斜面地の深いところにあることや、調査時間などの制約から、遺構全体を完掘することはできなかったが、東原C地点の住居群が、北にあるB地点のV字溝と南のD地点のV字溝で囲まれた集落であることが確認できた。

検出面におけるV字溝状遺構の幅は2.2m、深さは検出面より1.6mをはかる。

【第2節 遺物】

1～19は、「く」の字形に外反しつつ短くのびる甕形土器の口縁部である。B地区と同じく、口縁部の特徴のみで大まかな分類を試みると、以下のとおりである。

①類 口径が胴体の最大径より大きく、口縁部がゆるやかに大きく外反するもの
(7)

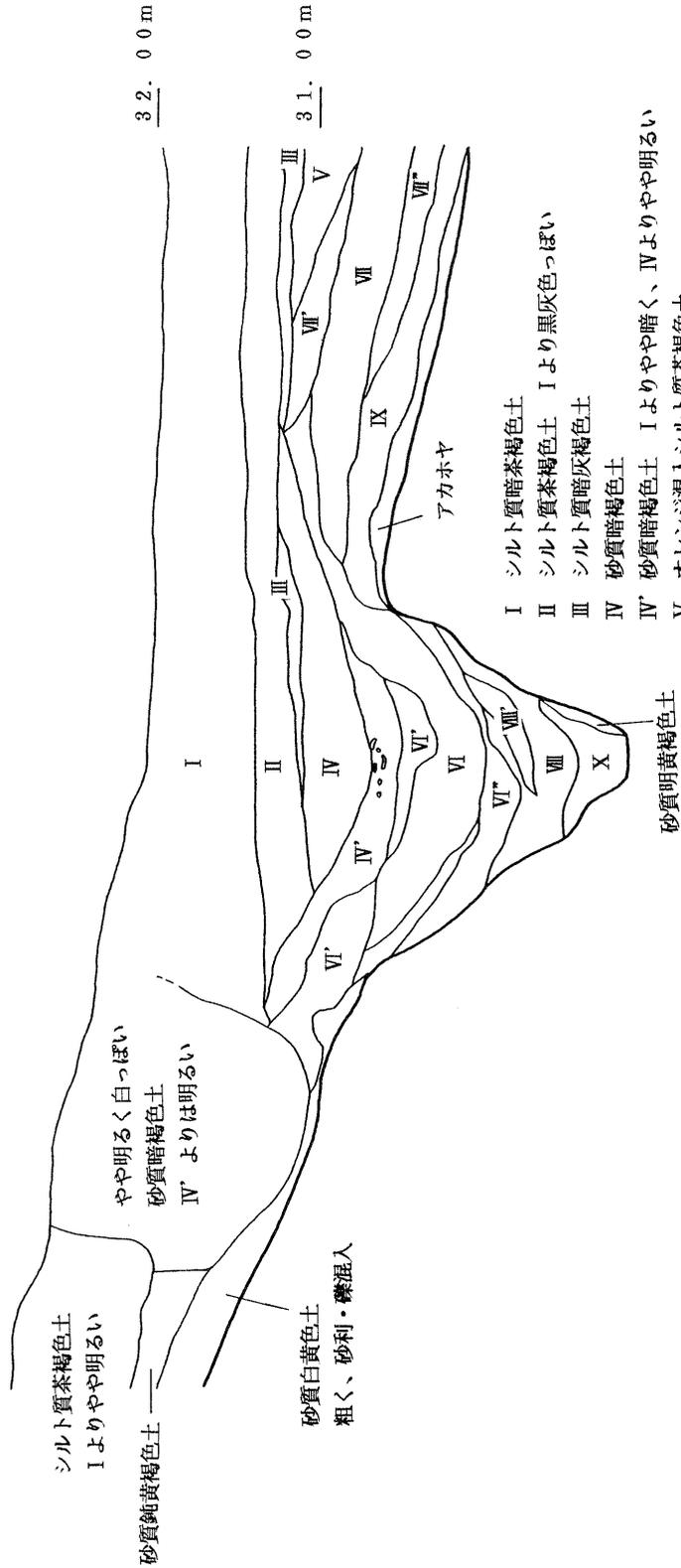
②類 口径が胴体の最大径より大きく、口縁部がゆるやかにわずかに外反するもの
(15)

③類 口径が胴体の最大径より大きく、口縁部が「へ」の字に屈曲するもの(1・3～6・9～14・18・19)

うち、1は口唇部に一条の線刻がめぐらされている。3は口唇内端部が若干張り出している。9・11・12・13は口縁部が短く、口唇部外端が若干張り出している。14も口縁部が短い、わずかに内彎している。18も口縁部が内彎気味で、口唇部に凹みが見られる。

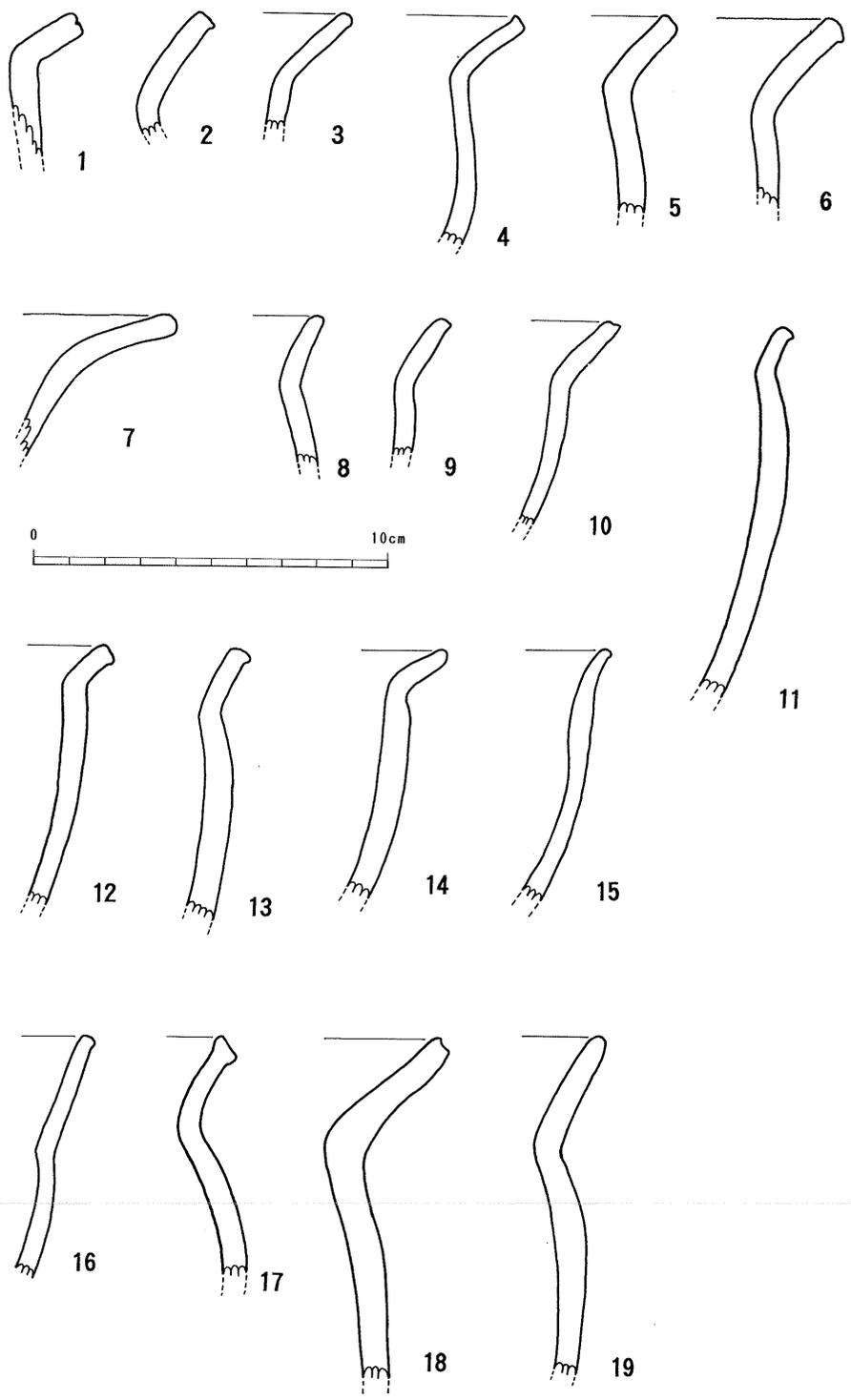
④類 口径が胴体の最大径より大きく、口縁部がわずかに屈曲するもの(16)

⑤類 口径が胴体の最大径より小さく、口縁部が「へ」の字に屈曲するもの(8・17)



第37図 東原D地点 V字溝状遺構 東壁断面図

- I シルト質暗茶褐色土
- II シルト質茶褐色土 Iより黒灰色っぽい
- III シルト質暗灰褐色土
- IV 砂質暗褐色土
- IV' 砂質暗褐色土 Iよりやや暗く、IVよりやや明るい
- V オレンジ混入シルト質茶褐色土
- VI 砂質茶褐色土 オレンジがかかる 小石混入
- VI' 砂質茶褐色土 やや明るく赤褐色がかかる
- VI'' 砂質暗褐色土 VIより締まる
- VII シルト質黒褐色土 IIIより暗い
- VII' シルト質暗褐色土 VIIよりやや明るい
- VII'' シルト質暗褐色土 やや灰白色がかかる
- VIII 砂質明茶褐色土
- VIII' 砂質明茶褐色土 黄褐色土ブロック混入
- IX オレンジ混入シルト質茶褐色土 VIIより明るくオレンジがかかる
- X 砂質黄褐色土 締まりはやや弱い



第38图 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(1)

17は、口唇部が外端・内端とも張り出している。

20～33は突帯（刻目突帯）を有する甕形土器の口縁部である。

21～24はほぼ直線状に立ち上がる直行口縁の口唇部下位に一条の刻目突帯をめぐる「下城式」系であり、23～24は口唇部にも刻目をめぐらしている。

20は、21～24と同様の刻目突帯を持つが、刻目突帯の上部口縁が内傾し、口唇部が玉縁状に肥厚している。

25はいわゆる「下城式」系とは若干異なり、口縁端部とその直下に刻目突帯を付して、胴部にふくらみをもつものと思われる。

26・27は本体より剝離した刻目突帯の一部である・

28は口縁端部とその直下に突帯を有する甕形土器の口縁部。

29は二条の刻目突帯の付されたほぼ直線状に立ち上がる胴部片。30は二条の三角断面の突帯を付され、ふくらみを帯びた胴部片。

31～33は大型甕形土器の口縁部～頸部～胴部である。最大径が胴部上位にあり、頸部から口縁部が「へ」の字に屈曲し、頸部屈曲の直下に刻目突帯を貼付している。

34～36は甕形土器の水平方向にのびる逆「L」字形の口縁部である。いずれも口唇部が凹気味で、35・36は内端に張り出している。

37～45は壺形土器の口縁部である。

46・47は壺形土器の胴部。

48～59は複合口縁の壺形土器である。48 58には、口縁部外面に櫛描波状文が施されている。

60は内傾する頸部から大きく外反しつつ口縁部が肥厚する壺形土器の頸部～口縁部で、凹気味の口唇部に刻目がほどこされている。

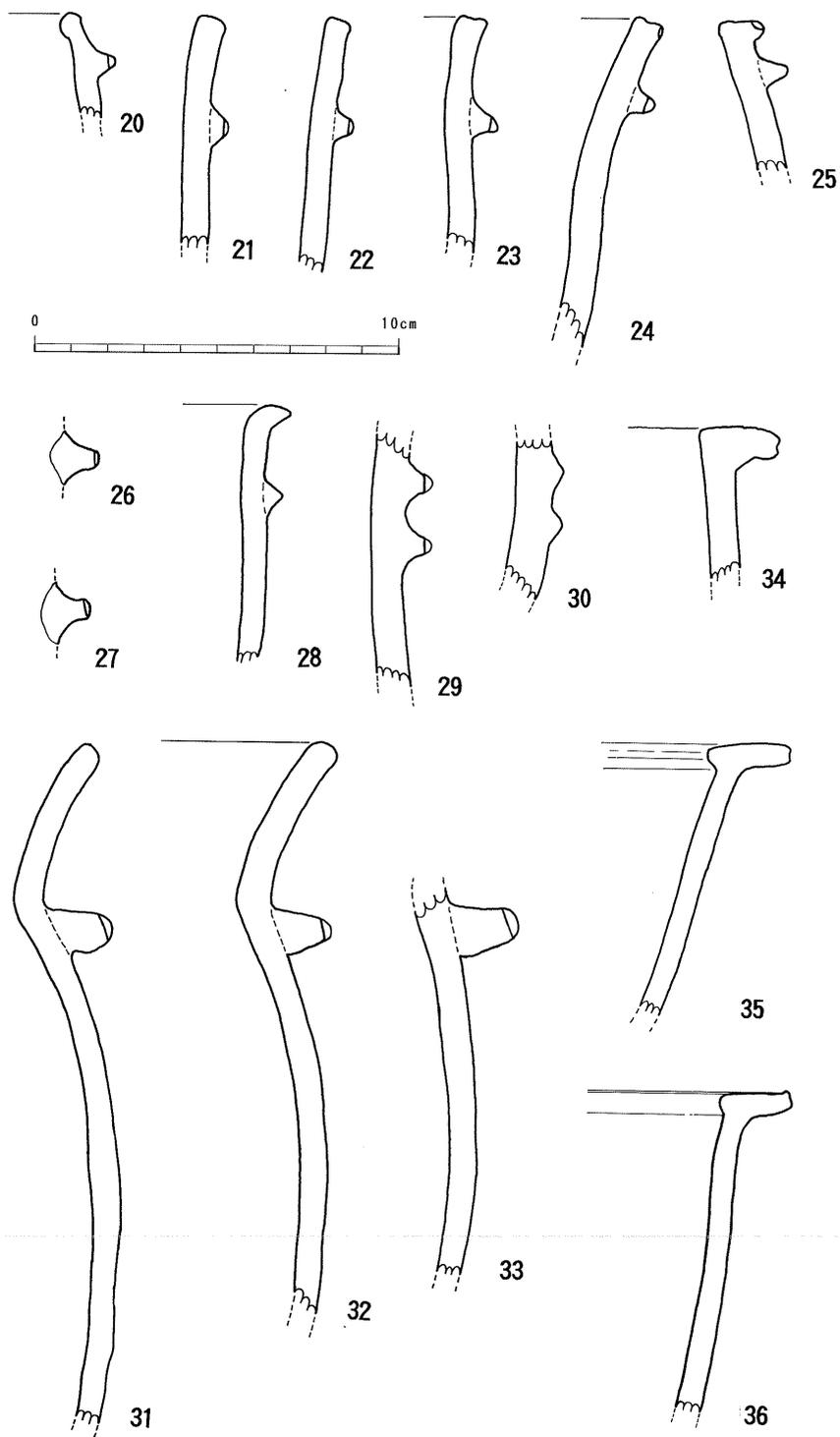
61～68は底部である。

61～66は壺形土器の底部であり、いずれも平底である。

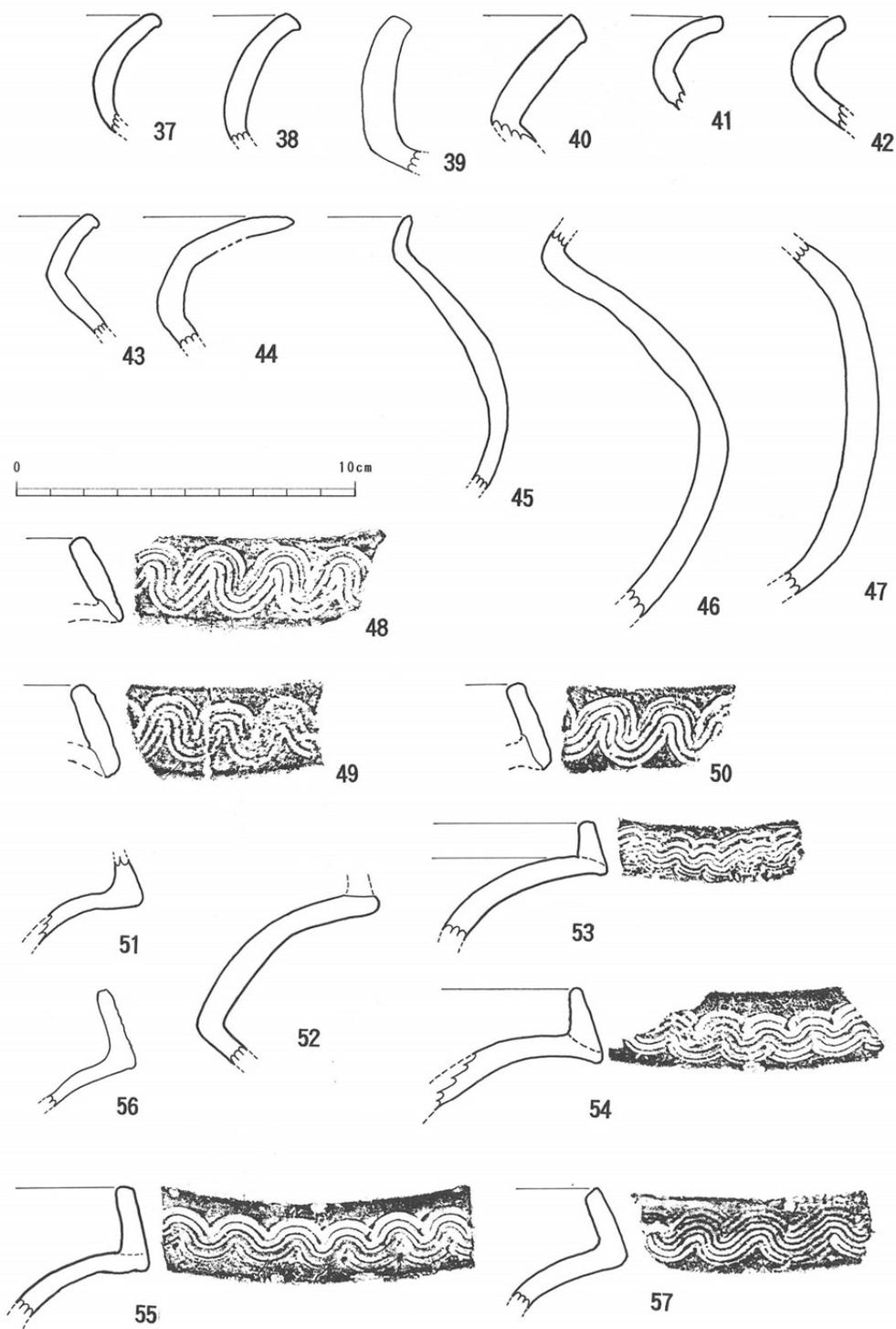
67・68は甕形土器の底部で、67は平底、68はやや上底气味の平底で、底面が外へ張り出してその上部が若干くびれている。

69は壺形土器の胴部～底部である。

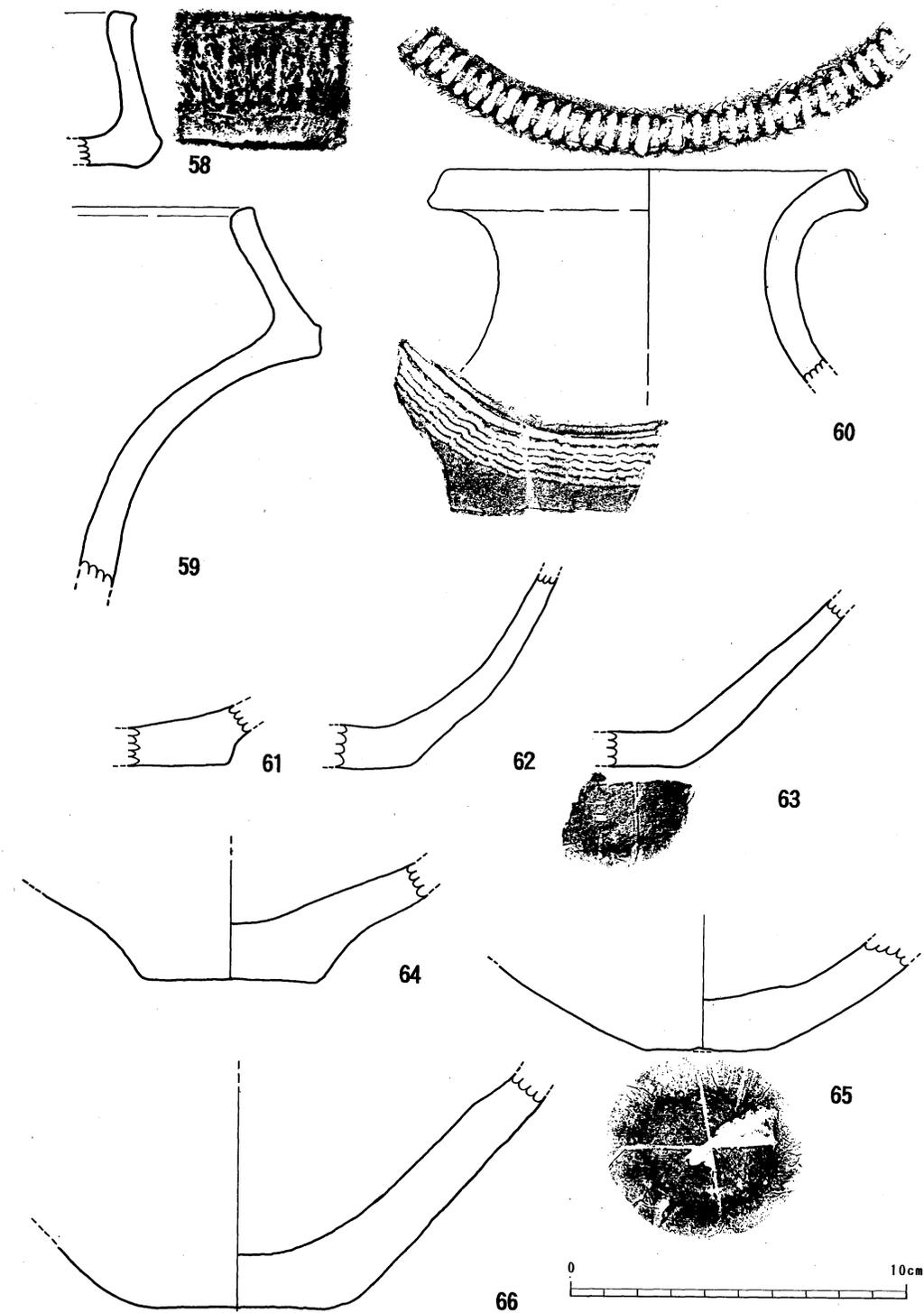
70～74は高坏あるいは器台の口縁部、76は高坏、75・77～81は口縁の屈曲の大きさから鉢形土器の口縁部と思われる。



第39图 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(2)

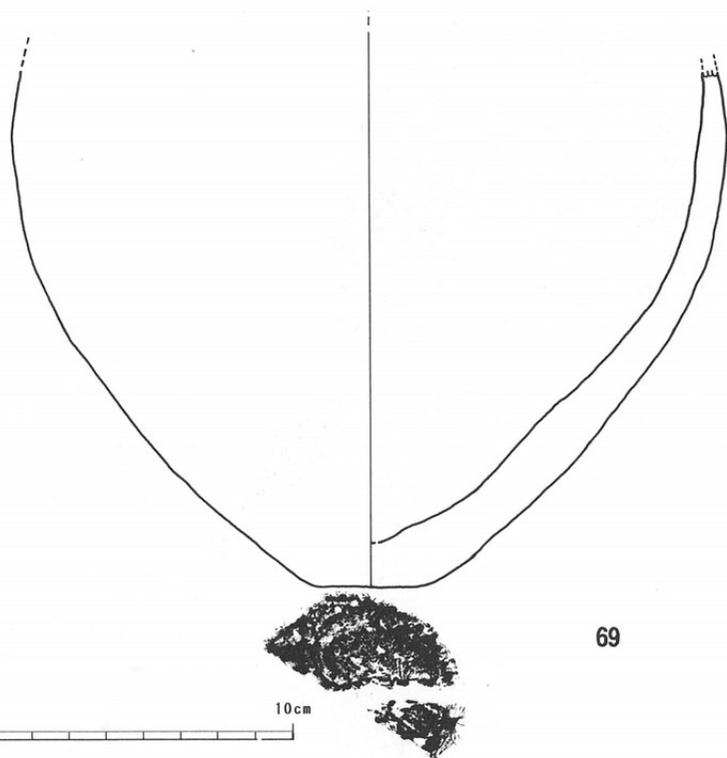
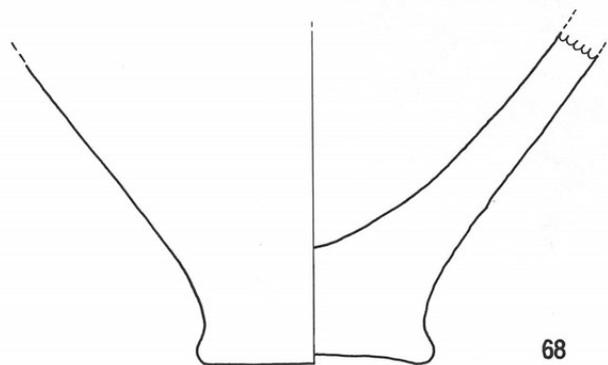
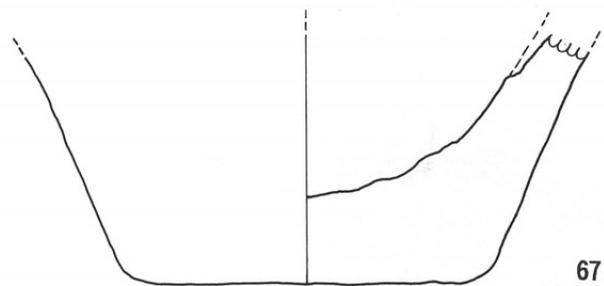


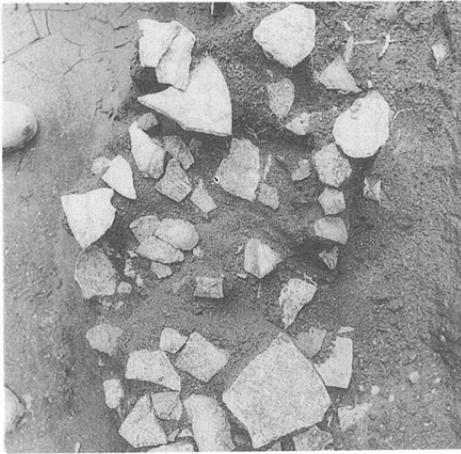
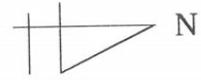
第40图 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(3)



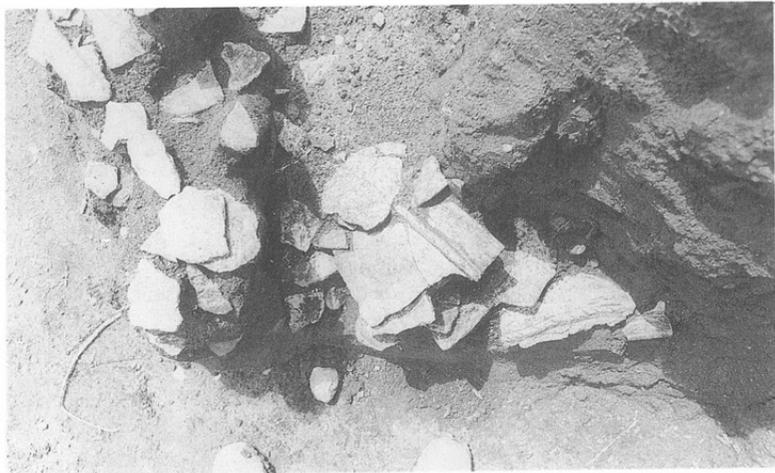
第41图 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(4)

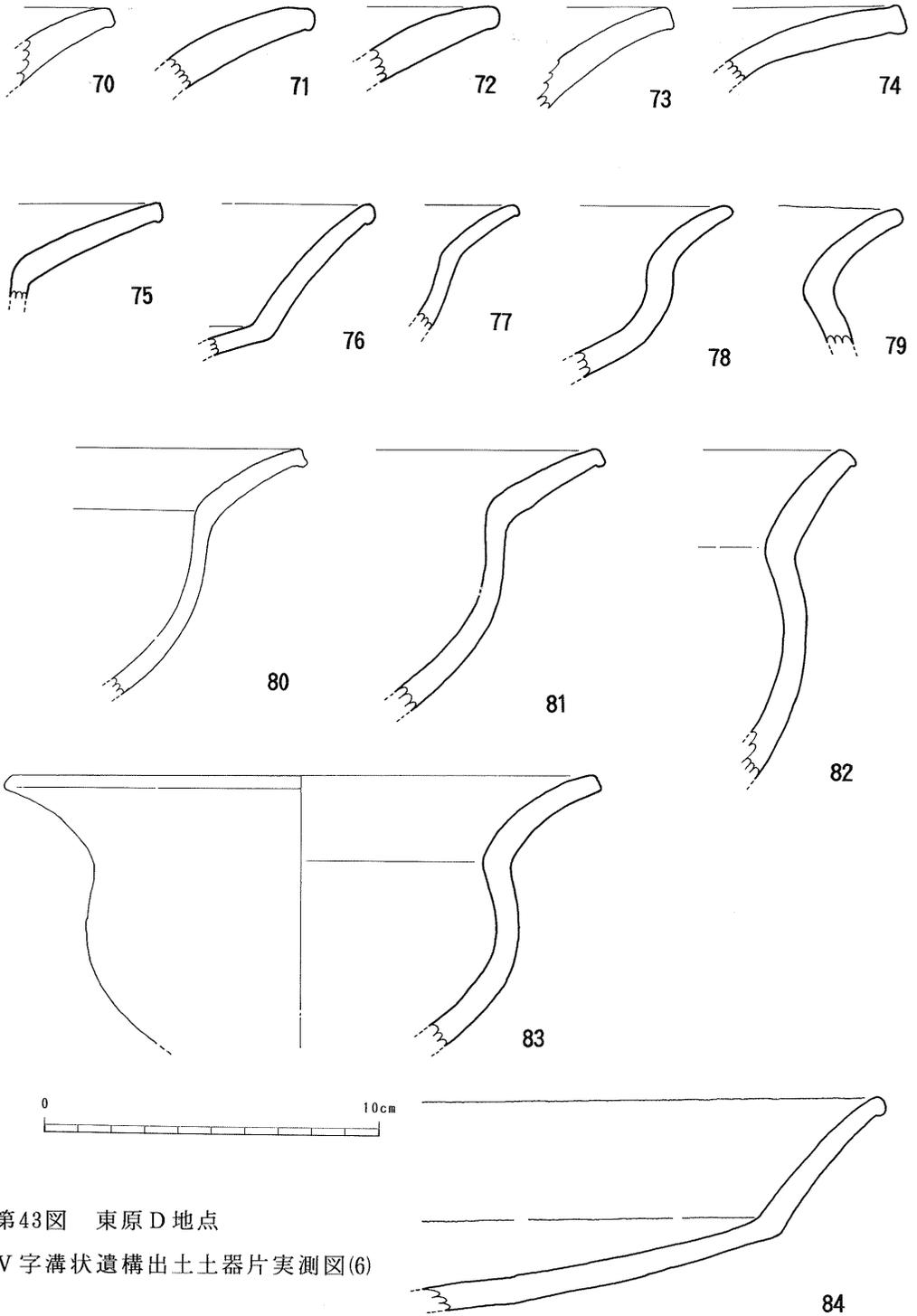
第42図 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(5)



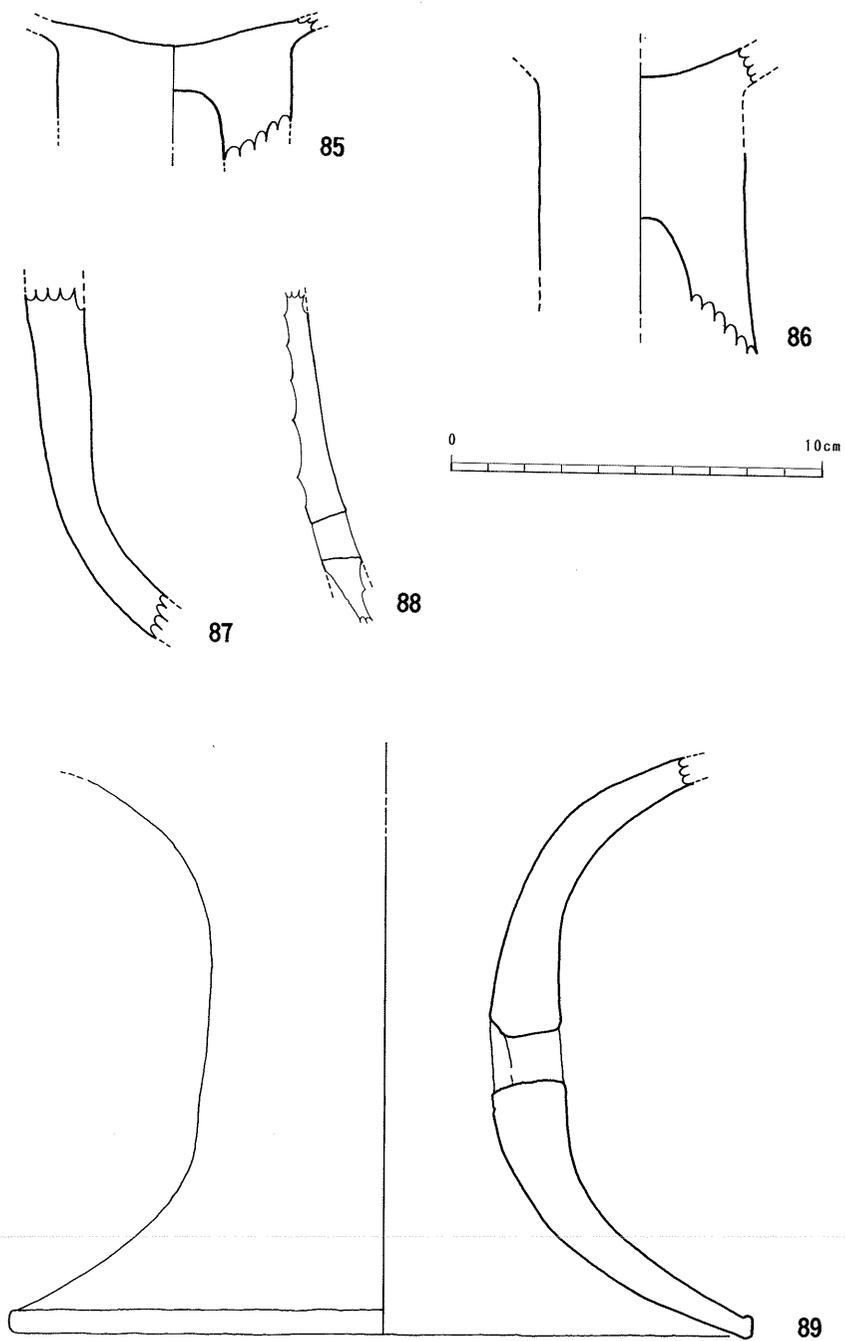


東原D地点
V字溝状遺構東部
土器片出土状況

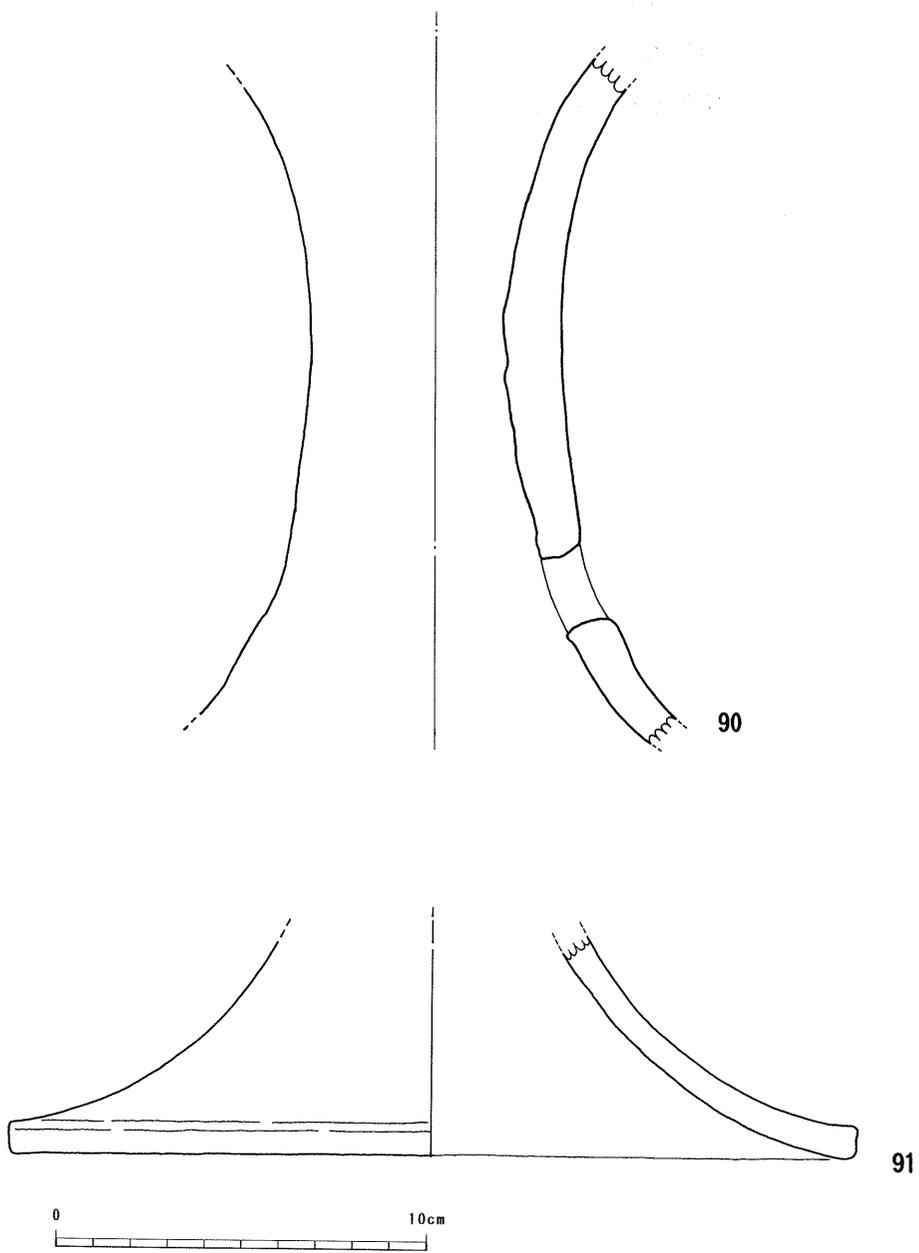




第43图 東原D地点
V字溝状遺構出土土器片実測图(6)



第44図 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(7)



第45図 東原D地点 V字溝状遺構出土土器片実測図(8)

82・83・84は鉢形土器と思われる。82・83は胴部中位が膨らみ、口縁部は強く外反気味に屈曲する。84は高坏の杯部に似た浅い鉢で、内彎気味の立ち上がりの途中で段をもって外反しながら屈曲している。

85・86は高坏の杯部と垂直にのびる円柱状の脚部の接合部である。

87・88・91はゆるやかに外反する高坏の脚部である。88は直径1.2cmの円形透かし孔を有する。

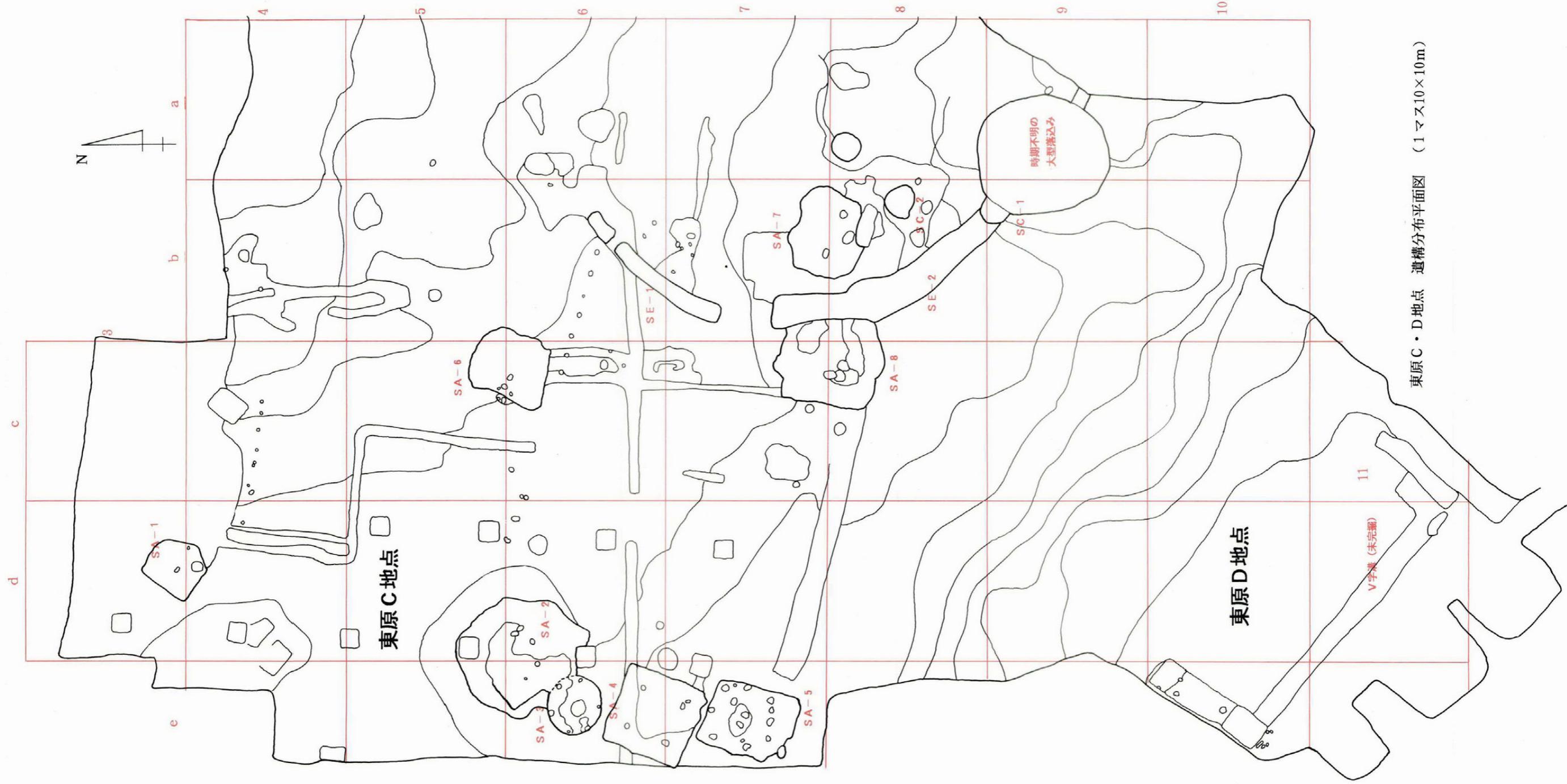
89・90は器台。89は胴部はさほどくびれずに直線的に上方へのび、口縁部と裾部が大きく外反する。脚部中央のやや下よりに直径1.3cmの円形透かし孔を有する。90は脚裾部の上位に直径2.0cmの円形透かし孔を有する。

第VI章 まとめ

塚原遺跡東原A・B・C・D地点は、V字溝に挟まれた弥生中・後期から古墳時代にかけての集落遺跡であることが確認された。C地点は、弥生・古墳時代の住居跡が重複しながら、全体的には閑散として散漫な印象のある、この時代の日向の典型的な住居跡群であった(1)。この時代の住居跡群がまとまって確認されたのは、国富町内では今回が初めてで、貴重な成果が得られたと言える。時間的な制約などで、アカホヤ層下の遺跡包含層の調査を行うことはできなかったが、遺跡の位置や環境から、縄文早期以前の遺跡の存在する可能性はほぼ疑いなく、将来の調査に期待したい。

なお、塚原遺跡東原E・F地点の調査結果は引き続き次の調査報告書で報告するが、F地点では弥生から古墳時代にかけての集落のほか、20基の土壇墓や小型の地下式横穴墓1基なども確認されており、近辺の県指定木脇村古墳を含めて、古代の墓制の変遷が伺われる興味深い貴重な資料も得られている。

(1) 新富町文化財調査報告書第8集 七又木地区遺跡 (1989)



東原C・D地点 遺構分布平面図 (1マス10×10m)

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
1	SE1	外：口縁部ヨコナデ・胴部タテハケメ 内：ナデ	A	外：にぶい黄褐・黒褐 内：にぶいオリーブ黄褐	刻目突帯
2		外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：ナデ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	刻目突帯 スス一面に付着
3		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	B	外：にぶい浅黄橙 内：にぶい浅赤褐	刻目突帯
4		外：ヨコハケメ 内：ナデ	B	外：にぶい明褐 内：にぶい明褐	刻目突帯
5		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	A	外：明黄褐 内：明黄褐	刻目突帯
6		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：黒色化・にぶい明褐 内：オリーブ黄褐	刻目突帯
7		外：ヨコハケメ（ほとんど剥落） 内：ヨコハケメ		外：浅橙 内：明黄褐	刻目突帯
8		外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：口縁部ヨコハケメ・胴部ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：明黄褐・黒色化	刻目突帯 スス付着
9		外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：口縁部ヨコハケメ		外：にぶい浅褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯 スス付着
10		外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：口縁部ヨコハケメ・胴部ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	刻目突帯 スス付着
11		外：ヨコハケメ 内：ナデ	A	外：にぶい浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	刻目突帯 スス付着
12		外：ヨコハケメ・ユビオサエ 内：ヨコハケメ		外：浅黄褐・黒色化 内：浅黄褐	
13		外：ハケメ？（磨耗） 内：ハケメ・ナデ	C	外：浅黄橙・にぶい褐色 内：オリーブ黄褐	
14		外：ナデ 内：ナデ	A・C	外：浅橙・浅黄橙 内：にぶい黄褐	
15		外：ナデ・下部ハケメ 内：ナデ	C	外：にぶい浅黄橙・黄褐 内：にぶい浅黄褐	0.5～2μm 砂粒多し
16		外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
17		外：ナデ？ 内：ナデ？	C	外：浅黄橙 内：オリーブ浅黄褐	
18		外：風化 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅黄橙	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
19	SE1	外：ナデ・タテハケメ 内：ナデ	A・B	外：浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	スス一面に付着
20		外：ナデ・タテハケメ 内：ナデ	A・B	外：浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	スス付着
21		外：ナデ・タテハケメ 内：ナデ	A・B	外：浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	スス付着
22		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	B	外：明赤褐 内：にぶい明黄褐	
23		外：ナデ 内：ナデ		外：浅橙 内：浅橙	
24		外：ナデ 内：ナデ	C	外：浅黄橙 内：明黄褐	
25		外：ハケメ？ 内：ヨコハケメ・ナデ	C	外：明黄褐 内：明黄褐・オリーブ浅黄褐	
26		外：工具ナデ（剝離） 内：ナデ		外：オリーブ浅黄褐 内：浅橙	
27		外：ナデ 内：ナデ		外：赤褐 内：浅黄橙	2mm砂粒多し
28		外：口縁部ハケメ・胴部ナデ 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅赤橙	0.5～3mm砂粒多し
29		外：風化 内：ナデ	C	外：浅黄橙 内：にぶい黄褐色～黄橙	
30		外：ナデ 内：ナデ		外：オリーブ浅黄橙 内：にぶいオリーブ浅黄橙	
31		外：ナデ 内：ナデ	C	外：明黄橙 内：明黄橙・オリーブ褐	
32		外：ナデ 内：ナデ	C	外：明黄橙 内：明黄橙・オリーブ褐	
33		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐・浅黄橙 内：浅黄褐	指先圧痕押型
34		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄橙 内：明黄橙	
35	外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい明黄褐 内：明黄褐		
36	外：ハケメ・胴部ナデ 内：ナデ	C	外：浅黄褐・部分的にくすむ 内：浅黄褐	スス付着	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
37	SE1	外：ハケメ・胴部ナデ 内：ハケメ・胴部ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐・浅灰褐	
38		外：ハケメ 内：ナデ	A・B	外：にぶい浅橙 内：にぶい浅黄橙	
39		外：風化 内：風化・頸部ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄褐・赤橙	1～2mm砂粒多し
40		外：ハケメ・口縁部櫛描波状文 内：ハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
41		外：口縁部櫛描波状文 内：		外： 内：	
42		外：ハケメ・口縁部櫛描波状文(磨耗) 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅黄橙	
43		外：ハケメ・口縁部櫛描波状文 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	
44		外：ミガキ? 内：ミガキ?	C	外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	
45		外：ミガキ 内：ミガキ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
46		外：ナデ 内：ナデ	A	外：橙 内：橙	
47		外：ハケメ 内：ハケメ	A	外：にぶい茶褐 内：浅黄褐	
48		外：ハケメ 内：ナデ	D	外：浅赤褐 内：にぶい赤褐	
49		外：ヨコハケメ 内：剥離	A・C	外：浅橙 内：浅黄橙	
50		外：ヨコハケメ 内：ナデ?(剥離)	C	外：にぶい浅褐・赤褐 内：にぶい浅黄褐	
51	外：ヨコハケメ 内：ナデ	B	外：明黄褐 内：オリーブ褐・黒色化	スス付着	
52	外：ハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐		
53	外：ナデ・横の沈線文・波状文 内：ナデ		外：にぶい灰黄褐 内：にぶい明黄褐		
54	外：タテハケメ・縦の沈線文 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
55	SE1	外：ナデ 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅黄橙	
56		外：ナデ 内：ナデ	B・C	外：浅橙・にぶいオリーブ褐 内：にぶいオリーブ橙	スス付着
57		外：ナデ 内：ナデ	C	外：にぶい明黄褐・浅橙 内：オリーブ灰黄褐	
58		外：工具ナデ 内：ナデ	B	外：にぶい明黄褐・黒色化 内：オリーブ灰黄褐・黒色化	
59		外：ナデ 内：ナデ	B	外：にぶい浅黄橙 内：浅黄橙	
60		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい黄橙 内：黒色化	0.5～3mm砂粒多し
61		外：ミガキ 内：ナデ	A	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	
62		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ	B	外：浅黄橙 内：オリーブ灰褐	
63		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐	
64		外：タテハケメ 内：ナデ	B	外：黒色化 内：にぶい赤褐	スス付着
65	外：ヨコハケメ 内：ナデ	B	外：にぶい明黄褐 内：灰褐・黒色化		
66	外：ナデ・タテハケメ 内：ナデ	B	外：明黄褐 内：黒色化		
67	外：タテハケメ 内：ナデ	B	外：にぶい赤褐 内：浅黄褐・黒色化	スス付着	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
1	SA2	外：ナデ 内：ナデ		外：浅赤褐 内：浅赤褐	
2		外：口縁部ヨコハケメ・頸部タテハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
3		外：ミガキ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
4		外：ハケメ 内：ミガキ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
5		外：頸部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：ナデ・ユビオサエ		外：にぶい浅黄橙 内：にぶい明黄褐	
6		外：ヨコハケメ・ナデ？ 内：ナデ	B	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	スス付着
7		外：櫛描波状文 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
8		外：櫛描波状文 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
9		外：櫛描波状文 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
10		外：櫛描波状文・頸部ヨコハケメ 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅橙	
11		外：櫛描波状文・頸部ヨコハケメ 内：ナデ・ハケメ		外：にぶい黄橙・黄褐 内：にぶい黄橙	
12		外：櫛描波状文・ヨコハケメ・ナデ 内：ナデ		外：浅橙 内：浅黄橙	
13		外：櫛描波状文・ミガキ 内：ナデ	A	外：明赤褐 内：浅黄橙	
14		外：櫛描波状文・ヨコハケメ 内：ナデ・タテハケメ		外：浅黄橙 内：浅橙	
15		外：櫛描波状文・ヨコハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
16		外：櫛描波状文・磨耗 内：ハケメ？	C	外：明黄褐 内：にぶい赤橙	
17		外：櫛描波状文・ヨコハケメ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
18		外：ハケメ・ユビオサエ 内：ハケメ・ユビオサエ		外：にぶい浅黄橙 内：にぶい明黄褐	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
19	SA2	外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
20		外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
21		外：ハケメ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
22		外：ヨコハケメ（磨耗） 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
23		外：ナデ・ハケメ 内：ハケメ・ユビオサエ		外：にぶい明黄褐 内：黒色化	
24		外：ミガキ 内：ハケメ（剝落）	B	外：明黄褐 内：黒色化	
25		外：タテハケメ 内：ハケメ	C	外：明黄褐・浅黄橙・黒色化 内：明黄褐・黒色化	底部が黒色化
26		外：ミガキ 内：ナデ	B	外：にぶいオリーブ黄褐 内：にぶい黄褐	
27		外：ヘラナデ・ハケメ 内：ハケメ		外：浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	
28		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	
29		外：ハケメ 内：ハケメ	C	外：明黄褐・黒色化 内：オリーブ黄褐・黒色化	
30		外：ヘラナデ・ハケメ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐・黒色化	
31		外：タテハケメ 内：ナデ	C	外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	
32		外：ナデ？ 内：ナデ？	C	外：浅黄橙 内：浅赤橙	
33		外：ミガキ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
34		外：ミガキ 内：ヨコハケメ	C	外：にぶい明黄褐 内：明黄褐	
35	外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：明黄褐		
36	外：ナデ？ 内：ナデ	C	外：浅黄橙・赤橙 内：浅赤橙		

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
37	SA2	外：ハケメ? (風化) 内：ナデ	C	外：浅黄褐 内：明黄褐	
38		外：ナデ・脚部ミガキ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
39		外：ミガキ 内：ナデ・下部ハケメ	B	外：明黄褐 内：明黄褐	
40		外：ミガキ 内：ナデ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
41		外：ミガキ 内：ミガキ・脚部内ナデ	C	外：明黄褐 内：明黄褐・脚部内におい橙	
42	SA3	外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：ヨコハケメ・胴部ナナメハケメ	A	外：におい明黄褐 内：におい明黄褐	スス附着
43		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：におい黄褐	T字口縁 刻目突帯
44		外：ヨコハケメ 内：風化著しい	C	外：におい赤褐・褐 内：明黄褐	
45		外：ナデ 内：ナデ	B	外：明黄褐 内：黒色化	
46		SA5	外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：黒褐色・黒色化 内：におい赤褐
47	外：風化 内：ナデ?		C	外：におい褐・黒褐 内：におい明黄褐	
48	SA6	外：ハケメ 内：ナデ	B	外：におい赤褐 内：におい赤褐	刻目突帯 スス附着
49	SA6	外：ヨコハケメ・胴部ナデ 内：ナデ		外：におい浅黄褐 内：浅黄褐	刻目突帯
50		外：ナデ 内：ナデ		外：におい赤橙 内：におい赤橙・浅黄橙	
51		外：ミガキ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
52		外：ナデ? (風化) 内：ナデ?		外：黄橙・橙 内：浅黄褐	0.3 ~3mm 砂粒多し
53		外：ハケメ 内：ナデ	B・C	外：におい明黄褐 内：明黄褐	
54		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	A・C	外：におい明黄褐 内：におい明黄褐	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
55	SA6	外：ミガキ 内：ナデ	C	外：明黄褐・一部赤みがかかる 内：明黄褐	
56		外：ハケメ 内：ナデ		外：にぶい浅黄褐・黒色化 内：灰黄褐	
57		外：ナデ、オサエ 内：ナデ	C	外：オリーブ浅褐 内：黒色化	
58		外：ナデ、底部ユビオサエ 内：ナデ		外：にぶいオリーブ浅黄褐 内：黒色化	
59		外：タテハケメ・ナデ 内：ナデ	A	外：にぶい黄褐・褐 内：黒色化	
60		外：ナデ 内：ナデ	A	外：明黄褐・赤橙・黒色化 内：灰褐（黒色化）	
61		外：ミガキ 内：ナデ		外：にぶい赤褐・黒色化 内：にぶい赤褐	
62		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶいオリーブ黄褐 内：にぶい灰褐	
63		外：ナデ 内：ナデ・上部ハケメ	C	外：にぶい浅黄橙 内：にぶい明黄褐	
64		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	
65		外：ミガキ・口唇部ヨコハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
66		外：ナデ 内：ヨコハケメ・剝離	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
67		外：ミガキ 内：ヨコハケメ・剝離	C	外：明黄褐 内：明黄褐・黒色化	
68		外：ミガキ 内：ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
69		外：ヨコハケメ・ミガキ 内：ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶいオリーブ黄褐	
70		外：ナデ 内：ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
71		外：ナデ・ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐・赤褐・灰褐 内：にぶいオリーブ黄褐	
72		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
73	SA6	外：ハケメ 内：ヨコハケメ		外：浅黄褐・黄橙 内：浅黄褐	
74		外：ミガキ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
75		外：ハケメ 内：ヨコハケメ（剥離）		外：明黄褐 内：明黄褐	
76		外：タテハケメ・ヨコハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
77		外：ミガキ 内：ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
78		外：ミガキ 内：ナデ		外：にぶい黄橙 内：にぶい黄褐	
79		外：ミガキ・ヨコハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
80	SA8	外：タテハケメ 内：ナデ・口縁部ヨコハケメ	A	外：黒色化 内：くすんだ黄橙	刻目突帯
81		外：ナデ・口縁部ヨコハケメ 内：ナデ		外：にぶい明褐 内：明褐・一部黒色化	刻目突帯
82		外：タテハケメ・口縁部ヨコハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	刻目突帯
83		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯
84		外：ヨコハケメ・ナデ 内：ナデ		外：にぶい浅黄橙 内：にぶい明黄褐	刻目突帯
85		外：ハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：明黄褐・黒色化	刻目突帯
86		外：ヨコハケメ・ナデ 内：ミガキ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐・黒色化	刻目突帯
87	外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：浅橙 内：浅橙		
88	SE1	外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
89		外：ナデ 内：ナデ	A	外：にぶい浅黄褐 内：明黄褐	
90		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナナメハケメ		外：にぶい黄褐・黒色化 内：にぶい黄褐・黒色化	刻目突帯

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
91	SE1	外：ナデ 内：風化		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
92	SE2	外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	刻目突帯（磨耗）
93		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：浅黄橙	刻目突帯 スス附着
94		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯
95		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ	B	外：黒褐 内：黒褐	刻目突帯 スス附着
96		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ	B	外：灰黄褐 内：にぶい黄褐・黒色化	刻目突帯 スス附着
97		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	刻目突帯 スス附着
98		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ	A	外：浅橙 内：にぶい橙	刻目突帯 スス附着
99		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	刻目突帯 スス附着
100		外：ヨコハケメ・ナナメハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯
101		外：ヨコハケメ・ナナメハケメ 内：風化	A	外：明黄褐 内：浅灰褐・やや黒色化	刻目突帯
102		外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：黒褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯 スス附着
103		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ	A	外：明黄褐 内：明黄褐	
104		外：ナデ 内：風化		外：にぶい明黄褐・黒色化 内：にぶい明黄褐	
105	外：ナデ・工具ナデ 内：ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：黒色化		
106	外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	0.5～2mm 砂粒多し	
107	SC1	外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
108		外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：にぶい浅黄褐	口縁部刻目

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
109	SC1	外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：にぶい浅橙 内：にぶい浅橙	刻目突帯
110		外：ヨコハケメ・ナデ 内：ナデ		外：にぶい浅黄褐 内：浅黄褐	スス付着
111		外：風化・口唇部ハケメ 内：ハケメ		外：にぶい浅橙 内：にぶい浅橙	
112	SC2	外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯
113		外：ハケメ？ 内：ヨコハケメ	C	外：にぶい浅黄褐 内：にぶい赤橙	
114		外：タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	スス付着
115		外：タテクシメ 内：ナナメハケメ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	スス付着
116		外：ヨコハケメ・口唇部櫛波状文 内：ヨコハケメ	C	外：明黄褐 内：黒色化	
117		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
118		外：タテハケメ 内：ヨコハケメ・胴部ナデ		外：浅橙 内：浅黄橙	
119		外：櫛波状文・ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい浅黄橙	
120		外：タテクシメ 内：ナデ・ヨコハケメ		外：浅黄橙 内：にぶい浅黄橙	
121		外：タテハケメ 内：ナデ・ヨコハケメ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
122		外：タテハケメ・ナナメハケメ（磨耗） 内：ナデ	C	外：浅黄橙 内：浅黄橙	
123		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ		外：明黄褐 内：オリーブ黒褐	
124		外：ハケメ 内：ナデ	C	外：にぶい黄褐 内：明黄褐	
125	外：ハケメ（磨耗） 内：ナデ		外：浅黄橙 内：にぶい橙		
126	外：タテハケメ 内：ナデ	A	外：にぶい灰褐・黄褐 内：にぶい灰褐・黄褐	スス付着	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
127		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：黒色化	
128	SC2	外：ナデ 内：ナデ	A	外：明黄褐 内：黒色化	
129		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい明黄褐 内：黒色化	
130		外：ナデ 内：ナデ		外：黄橙 内：黄橙	
131		d-5	外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：浅橙 内：浅黄橙
132	f-4	外：ヨコハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	刻目突帯
133	e-6	外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ナデ		外：浅褐 内：にぶい浅黄橙	刻目突帯
134	b-5	外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：白っぽい明黄褐 内：白っぽい明黄褐	
135		外：口縁部ユビオサエ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	口縁部刻目
136		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：にぶい明黄褐 内：浅黄橙	
137	b-5	外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい明黄褐 内：明黄褐	ミニチュア土器
138		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
139		外：タテハケメ 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅赤橙	
140		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ		外：明黄褐・底部黒色化 内：浅黄橙	
141		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ・ユビオサエ	B・C	外：にぶい明黄褐・黒色化 内：にぶい明黄褐	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
1	SE1	外：ハケメ・ミガキ・口唇部に沈線 内：ハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
2		外：タテハケメ・口唇部ナナメハケメ 内：ヨコハケメ		外：にぶい黄褐～灰褐 内：にぶい黄褐～灰褐	
3		外：ナデ 内：ナデ	C	外：オリーブ黄褐 内：浅オリーブ黄褐	
4		外：ヨコハケメ・ナデ 内：ハケメ・ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
5		外：工具ナデ 内：ナデ		外：明黄褐・黒色化 内：明黄褐	
6		外：タテクシメ 内：ヨコクシメ	B	外：にぶい明黄褐 内：にぶい灰褐	
7		外：タテクシメ・ナナメクシメ 内：ヨコクシメ	B	外：にぶい橙 内：にぶい橙	
8		外：ヨコハケメ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
9		外：ハケメ 内：ハケメ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
10		外：タテハケメ 内：ハケメ		外：にぶい黄褐 内：明黄褐	スス付着
11		外：タテクシメ 内：ナデ		外：にぶいオリーブ黄褐 内：にぶいオリーブ黄褐	スス付着多し
12		外：ナデ 内：ナデ		外：白っぽいオリーブ黄褐 内：浅黄橙	0.5～3mm 砂粒多し
13		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい黄褐・黄橙・黒色化 内：浅黄橙	0.5～3mm 砂粒多し
14		外：ナデ 内：ナデ	C	外：明黄褐 内：にぶいオリーブ黄褐	スス付着
15		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：浅黄橙	
16		外：ミガキ 内：ハケメ	B	外：明黄褐 内：明黄褐	
17		外：ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	スス付着
18		外：ナデ 内：ナデ		外：赤橙 内：黄橙	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
19	SE1	外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	0.5～5mm 砂粒多し
20		外：工具ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：浅黄褐	
21		外：ハケメ 内：ナデ	A	外：にぶい浅黄褐 内：にぶい赤褐	
22		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ		外：にぶい黄橙・灰褐 内：にぶいオリーブ黄褐	
23		外：ヨコナデ・タテハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	
24		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ	A	外：にぶい黄褐・茶褐 内：にぶい明黄褐	刻目突帯
25		外：ハケメ 内：ナデ	B	外：にぶい黄褐 内：にぶい明黄褐	刻目突帯 スス付着
26		外：ハケメ 内：ナデ		外：オリーブ褐 内：浅黄褐	剝離した刻目突帯
27		外：ハケメ 内：ナデ		外：オリーブ褐 内：浅黄褐	剝離した刻目突帯
28		外：ハケメ・ナデ 内：ナデ	A	外：明黄褐 内：にぶいオリーブ褐	
29		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ・ナデ		外：灰黄褐 内：にぶい赤褐	
30		外：ハケメ？ 内：クシメ	B	外：浅赤橙 内：にぶい灰褐	
31		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい橙 内：浅黄橙	刻目突帯 1～4mm砂粒多し
32		外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙・浅橙 内：浅黄橙	刻目突帯 1～4mm砂粒多し
33		外：ナデ 内：ナデ		外：黄橙 内：浅黄橙	刻目突帯 1～4mm砂粒多し
34		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ	A	外：にぶい灰黄褐・黄褐 内：にぶい黄褐	
35	外：ハケメ 内：ナデ	A	外：明黄褐 内：にぶいオリーブ明黄褐		
36	外：口縁部ヨコハケメ・胴部タテハケメ 内：ハケメ	A	外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	スス付着	

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
37	SE1	外：ハケメ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄褐	
38		外：ハケメ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐	
39		外：ナデ 内：ナデ	C	外：橙 内：橙	
40		外：ヨコハケメ・タテハケメ 内：ヨコハケメ		外：明黄褐 内：明黄褐・黒色化	
41		外：口縁部ヨコハケメ・頸部タテハケメ 内：ナデ		外：浅橙・黄褐 内：にぶい黄褐	
42		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ		外：にぶい黄褐・赤橙 内：にぶい黄橙・赤橙	
43		外：ナデ・ミガキ 内：ハケメ・ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	
44		外：ハケメ 内：ハケメ	C	外：にぶい明黄褐 内：オリーブ浅黄褐	
45		外：ナデ・工具ナデ 内：ナデ・ユビオサエ		外：にぶい明黄褐～灰黄褐 内：にぶい明黄褐～灰黄褐	
46		外：ハケメ 内：ナデ・ユビオサエ	C	外：浅黄橙 内：オリーブ浅黄褐	
47		外：ナデ・ハケメ 内：工具ナデ	B	外：にぶい明黄褐・黄褐 内：灰黄褐	
48		外：櫛描波状文 内：ナデ？（風化）		外：明黄褐・灰黄褐 内：オリーブ黄褐	
49		外：櫛描波状文 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい黄褐	
50		外：櫛描波状文 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
51		外：櫛描波状文・ナデ・ハケメ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
52	外：ハケメ 内：ハケメ	C	外：にぶい浅黄橙 内：オリーブ明黄褐		
53	外：櫛描波状文・ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		
54	外：櫛描波状文・ハケメ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
55	S E 1	外：楕描波状文・ハケメ 内：ナデ		外：明黄褐 内：浅オリーブ明黄褐	
56		外：楕描波状文・ナデ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
57		外：楕描波状文・ナデ 内：ナデ		外：浅赤橙 内：浅黄橙	
58		外：楕描波状文・ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄褐	
59		外：楕描波状文・ハケメ・ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	
60		外：ハケメ・ナデ・肩部に楕描波状文 内：ナデ・ハケメ	B	外：にぶい明黄褐・灰黄褐 内：にぶい明黄褐・灰黄褐	
61		外：ナデ 内：ナデ	B	外：にぶいオリーブ黄褐 内：にぶい明黄褐	
62		外：ナデ 内：ナデ	B	外：にぶい黄褐 内：オリーブ黄褐・黒色化	
63		外：ハケメ 内：ナデ		外：にぶい黄褐・黒色化 内：にぶい黄褐・黒色化	底部沈線
64		外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：浅黄橙	底部沈線
65		外：ハケメ 内：ユビオサエ		外：にぶいオリーブ黄褐 内：黒色化	底部に十字沈線
66		外：ナデ 内：ナデ		外：浅黄橙・底部黒色化 内：黒色化	
67		外：風化 内：風化	A	外：にぶい赤褐 内：にぶい赤褐	
68		外：ハケメ・風化 内：ナデ	B	外：明黄褐・底部黒色化 内：黒色化	
69	外：ナデ・ハケメ？（磨耗） 内：ナデ		外：にぶい赤橙・オリーブ黄褐 内：にぶいオリーブ黄褐	0.5～3mm 砂粒多し	
70	外：ミガキ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		
71	外：ミガキ 内：ナデ・口縁部クシメ		外：明灰黄褐 内：明灰黄褐		
72	外：ナデ 内：口縁部クシメ・ナデ	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐		

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
73	S E 1	外：ミガキ 内：ハケメ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐	
74		外：ハケメ 内：ミガキ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
75		外：ナデ 内：ナデ	A	外：明黄褐 内：明黄褐	
76		外：ミガキ 内：ナデ		外：明黄褐 内：明黄褐	
77		外：ナデ 内：ナデ		外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	
78		外：ハケメ 内：ハケメ・ナデ		外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
79		外：ナデ 内：ナデ	B・C	外：浅黄橙 内：浅黄橙・黒色化	
80		外：ミガキ 内：ミガキ		外：明黄褐 内：明黄褐	
81		外：ハケメ・ナデ 内：ミガキ		外：明黄褐 内：明黄褐	
82		外：ハケメ・ミガキ 内：ミガキ	C	外：明黄褐 内：明黄褐	
83		外：ナデ 内：ナデ	C	外：浅黄橙 内：浅黄橙	
84		外：ミガキ 内：ナデ	C	外：浅橙 内：浅黄橙	
85		外：ミガキ 内：ナデ		外：浅黄橙 内：黒色化	スス付着
86		外：ミガキ 内：ナデ	B	外：浅黄橙・黒色化 内：浅黄橙	
87		外：ミガキ 内：ナデ	B・C	外：浅赤橙 内：明黄褐	
88		外：ミガキ 内：ナデ（剝離）	C	外：にぶい明黄褐 内：にぶい明黄褐	
89	外：ミガキ 内：ミガキ・ナデ	C	外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		
90	外：ミガキ 内：ナデ		外：明黄褐 内：にぶい明黄褐		

東原D地点 土器観察表

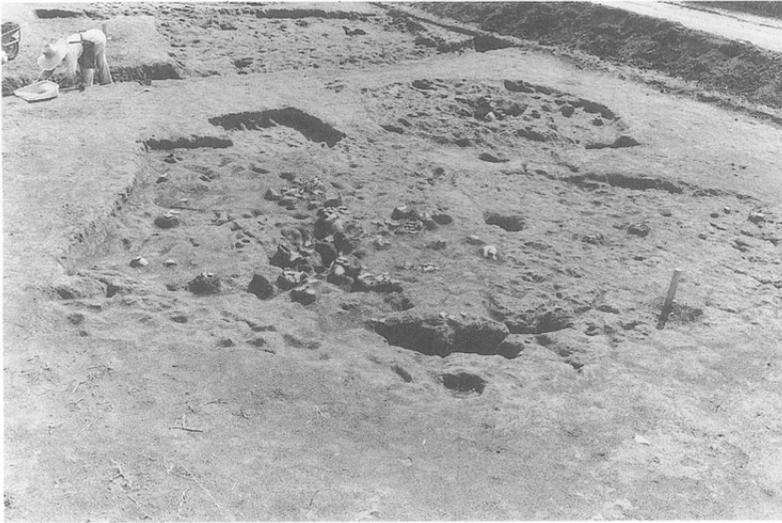
A黒・透明ガラス質 B微細ガラス質 C赤褐色粒

番号	遺構・区	調整および文様	胎土混入物	色調	備考
91	SE1	外：ハケメ 内：ハケメ		外：にぶい明黄褐 内：にぶいオリーブ黄褐	

图 版



東原C地点
1号住居跡
(南より)



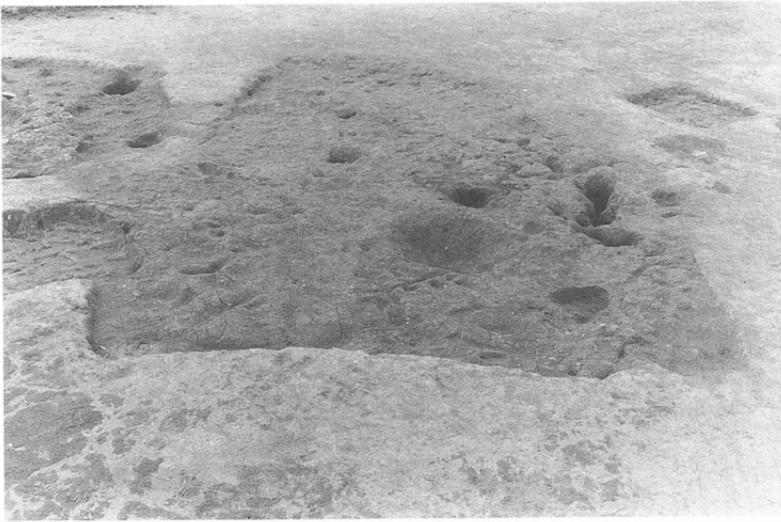
東原C地点
2号住居跡
(遠方に3号・4号
住居跡)



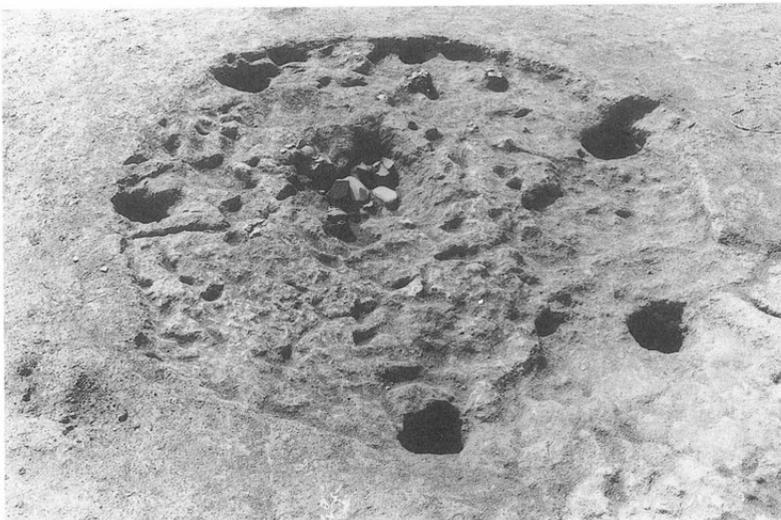
東原C地点
2号住居跡
遺物取り上げ前
(南東より)



東原C地点
2号住居跡
遺物出土状況



東原C地点
2号住居跡
遺物取り上げ後
(南東より)



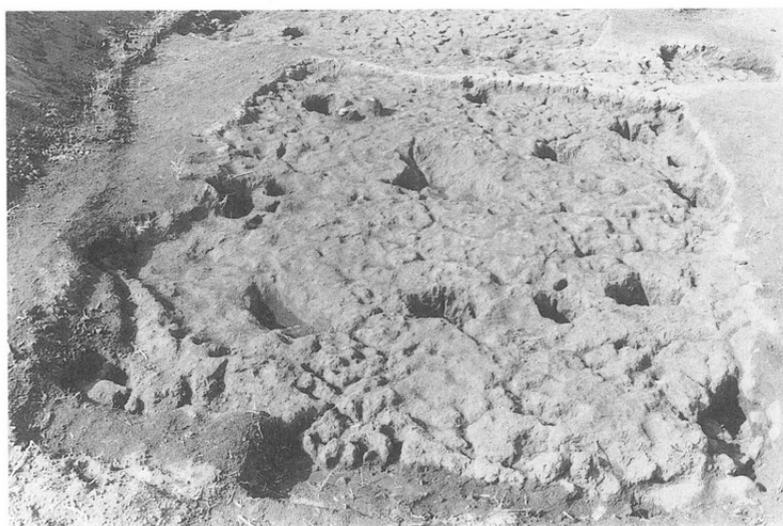
東原C地点
3号住居跡
(東より)



東原C地点
3号住居跡
遺物出土状況



東原C地点
5号住居跡
(北より)



東原C地点
5号住居跡
(南より)



東原C地点
6号住居跡
遺物取り上げ前
(北より)



東原C地点
6号住居跡
遺物取り上げ前
(東より)



東原C地点
6号住居跡
遺物出土状況



東原C地点
6号住居跡
遺物出土状況



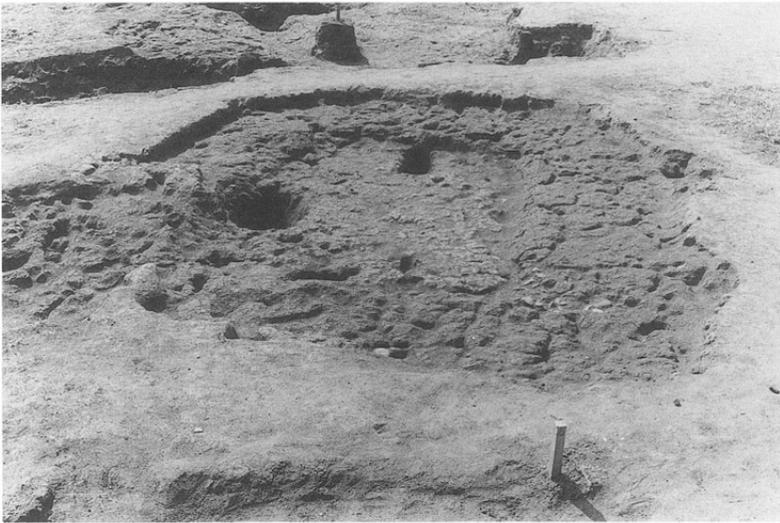
東原C地点
6号住居跡
遺物出土状況



東原C地点
6号住居跡
遺物取り上げ後
(北より)



東原C地点
7号住居跡
(北より)



東原C地点
7号住居跡
(東より)



東原B地点
V字溝状遺構
(西より遠景)



東原B地点
V字溝状遺構
遺物取り上げ後
(西より)



東原B地点
V字溝状遺構
遺物取り上げ後
(東より)



東原 B 地点
V 字溝状遺構
遺物出土状況
(西より)



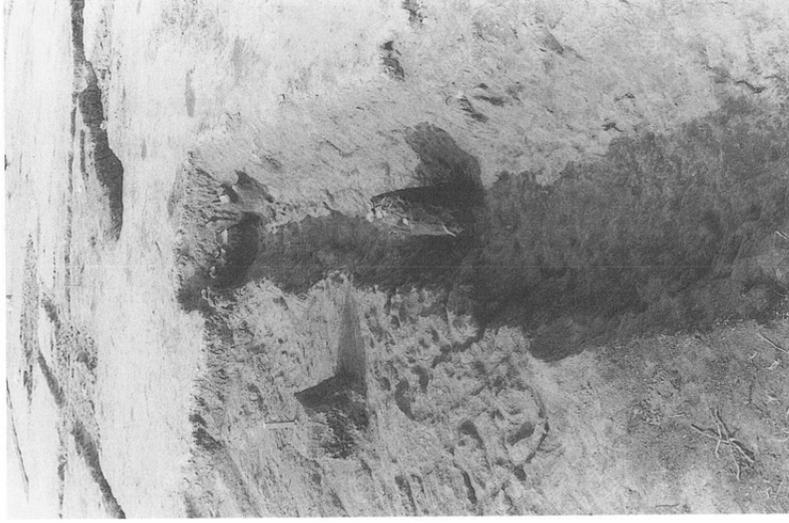
東原 B 地点
V 字溝状遺構
遺物出土状況



東原 B 地点
V 字溝状遺構
遺物出土状況



東原C地点
1号V字溝状遺構
(北東より)



東原C地点
2号V字溝状遺構
(南より)



東原C地点
2号V字溝状遺構
(北より)



東原C地点
大型円形落ち込み
(北より)



東原C地点
1号土坑
(北より)



東原C地点
2号土坑
(北より)



東原D地点
V字溝状遺構
(南東より)



東原D地点
V字溝状遺構
(東より)



東原D地点
V字溝状遺構
(東より)

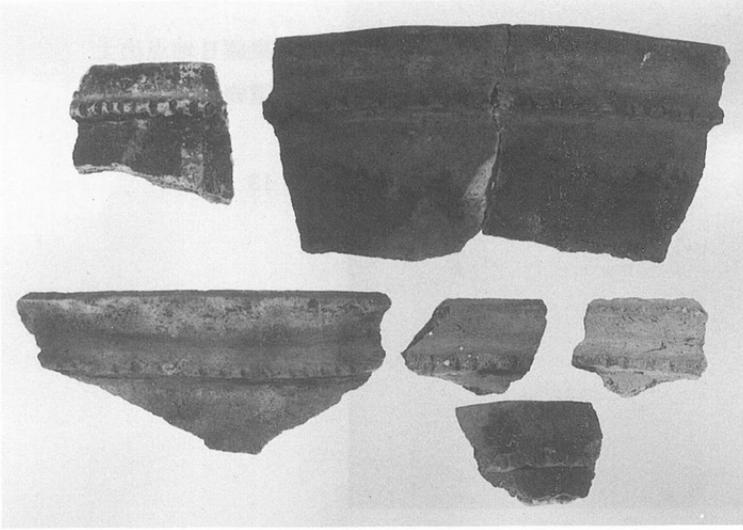


東原D地点
V字溝状遺構
(西より)

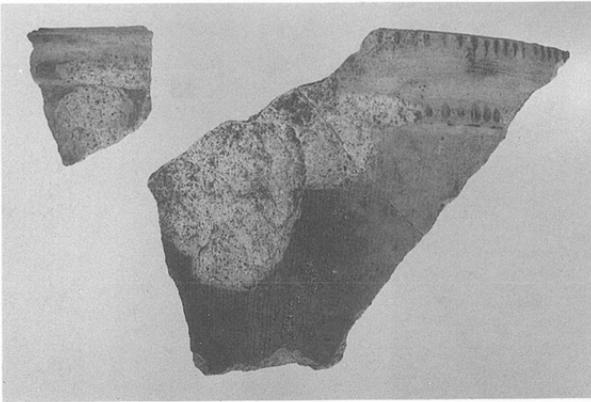


東原D地点
V字溝状遺構
東壁断面

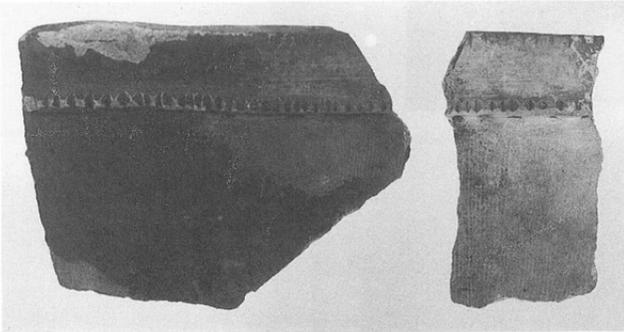
東原B地点出土
遺物図版



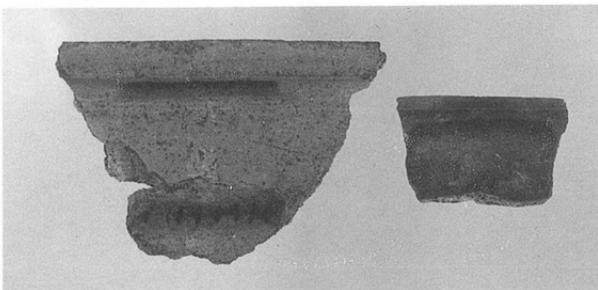
1 2
3 4 5 6



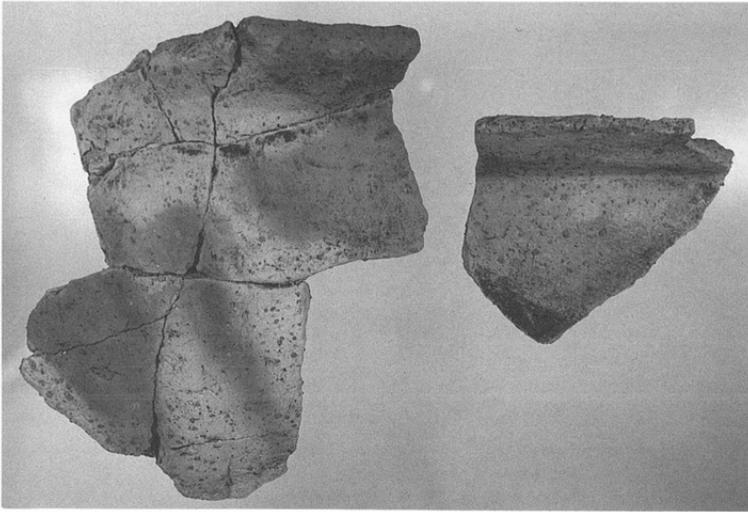
7 8



9 10

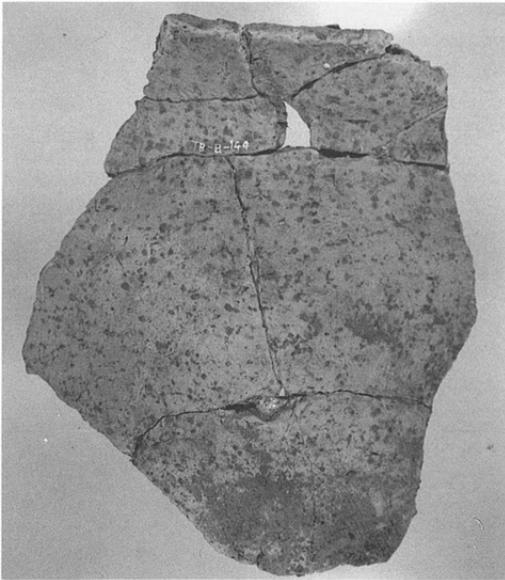


11 12

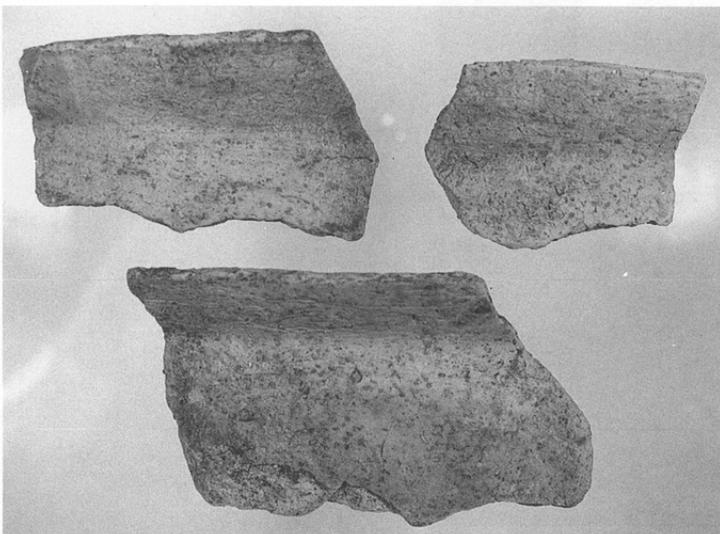


東原B地点出土
遺物図版

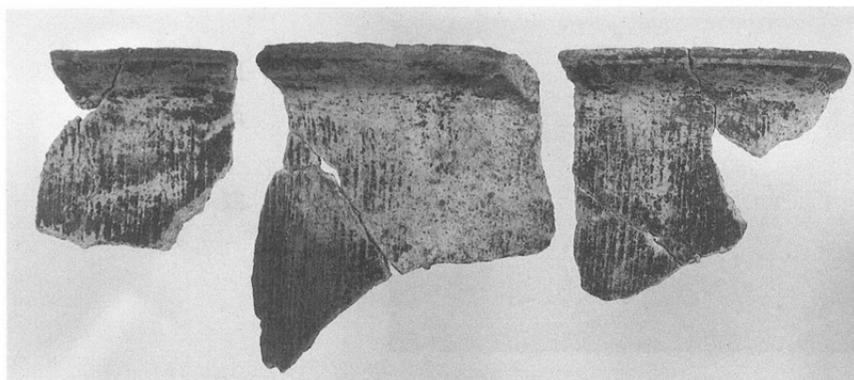
13 14



15

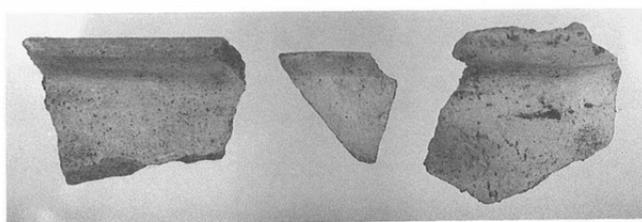


16 17 18

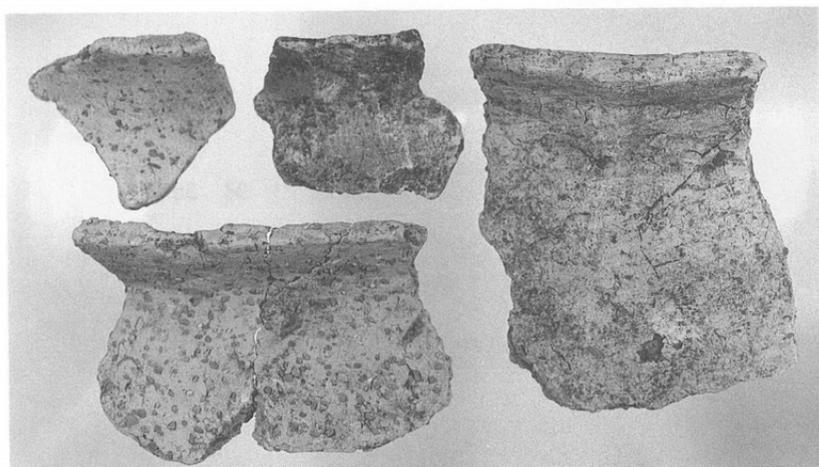


東原B地点出土
遺物図版

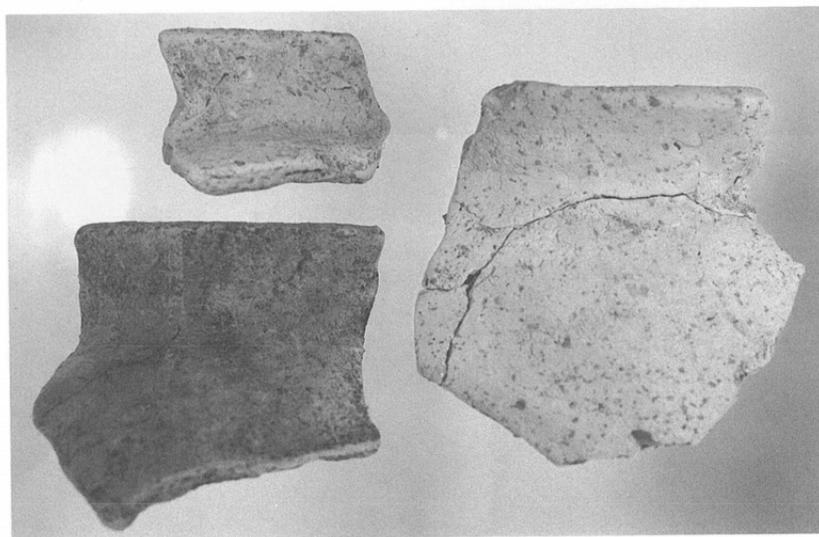
19 20 21



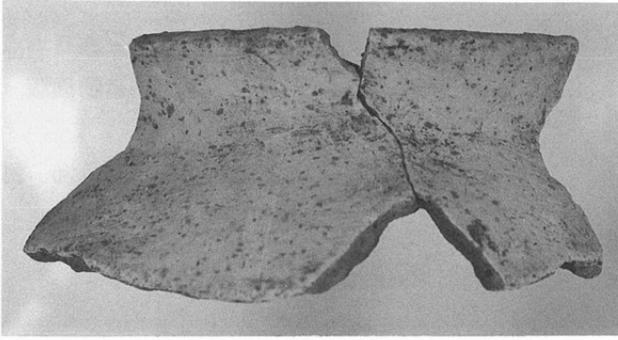
22 23 24



25 26 27 28

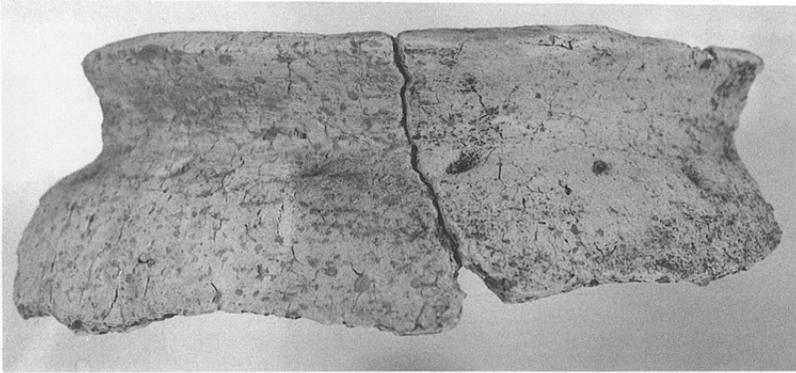


29 30 31

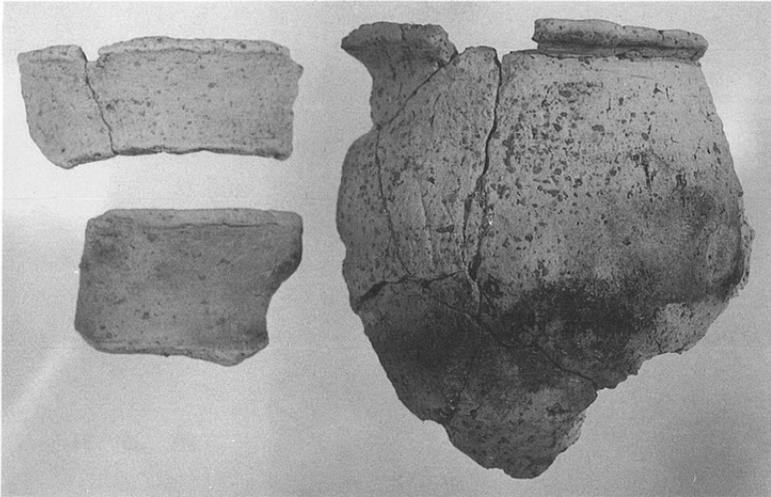


東原B地点出土
遺物図版

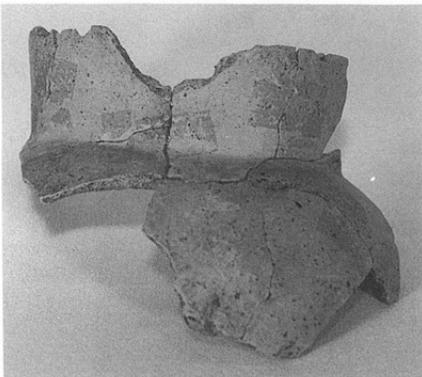
32



33



34 35 36



37

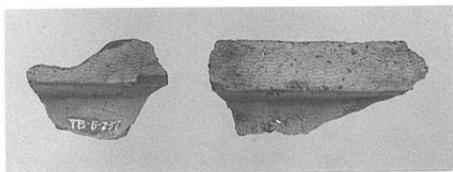


38

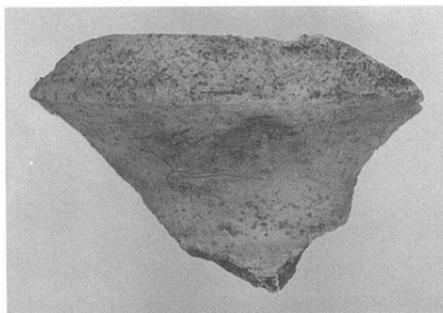
東原B地点出土
遺物図版



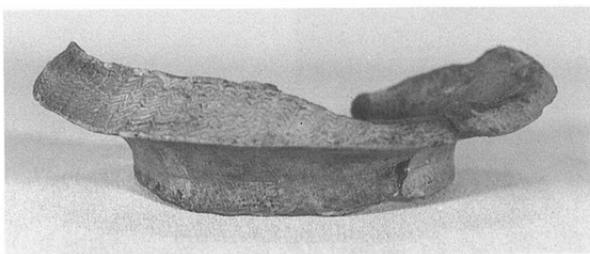
39



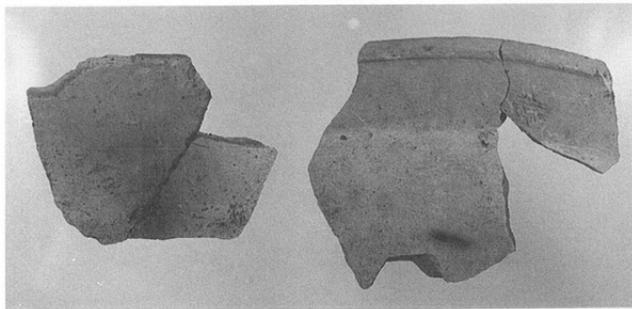
40 41



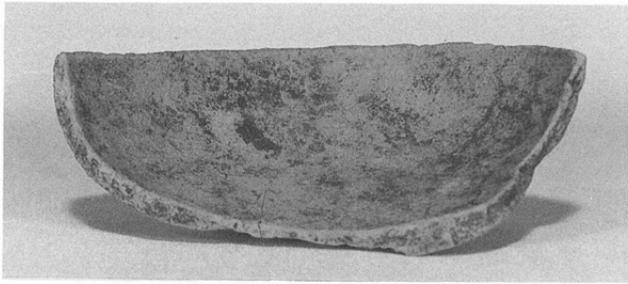
42



43

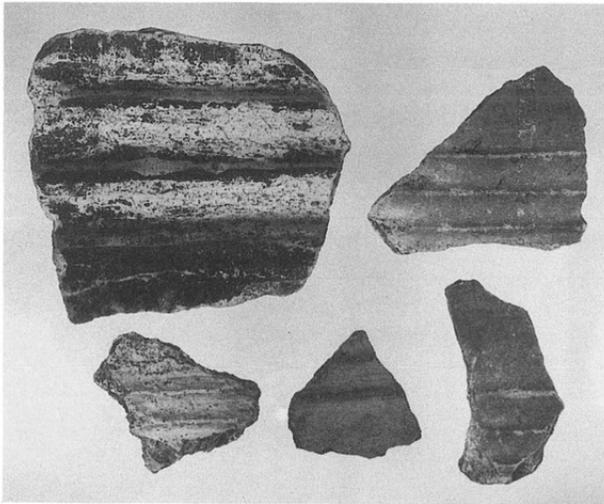


44 45



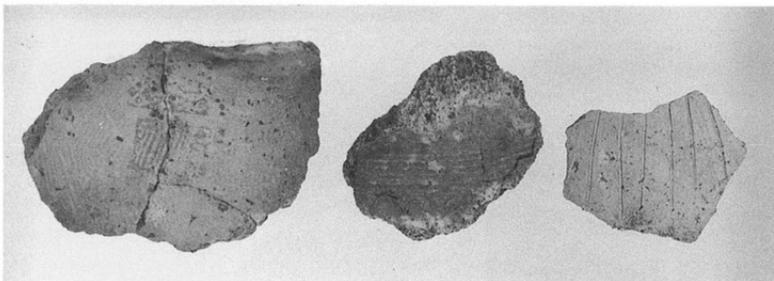
東原B地点出土
遺物図版

46



47 48

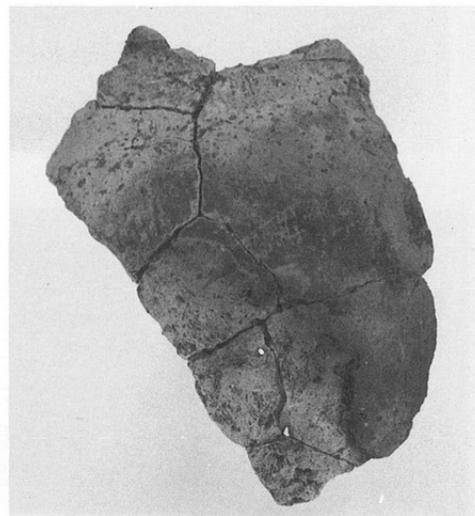
49 50 51



52 53 54

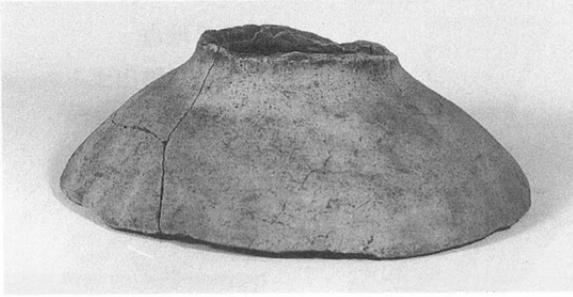


55

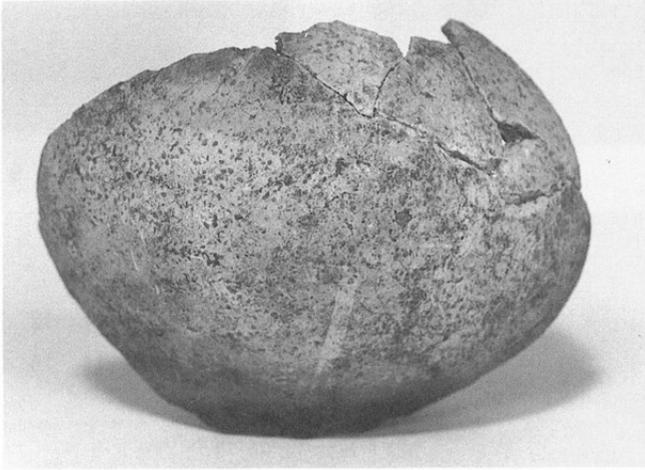


56

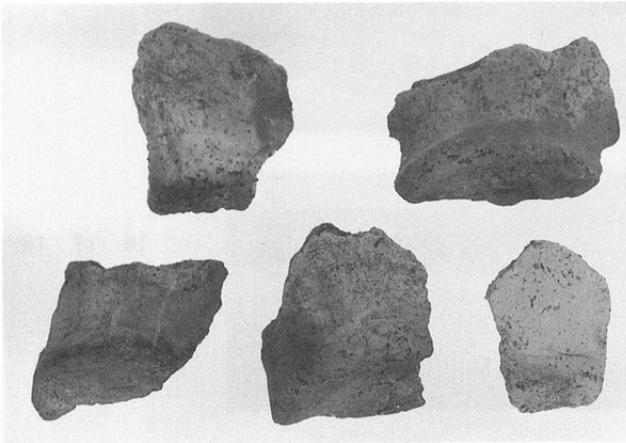
東原B地点出土
遺物図版



57

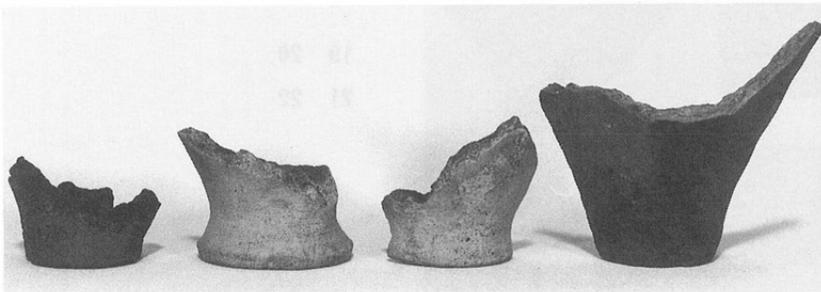


58

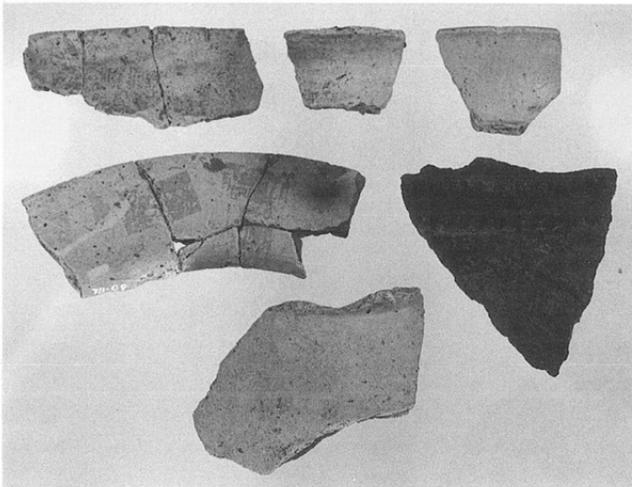


59 60

61 62 63

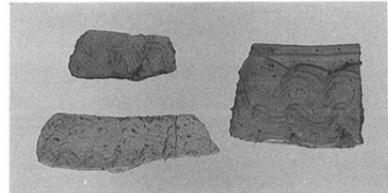


64 65 66 67

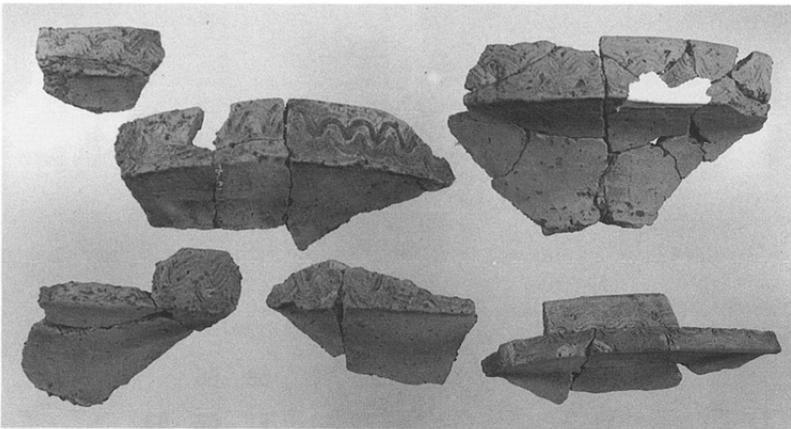


東原C地点
2号住居跡出土
遺物図版

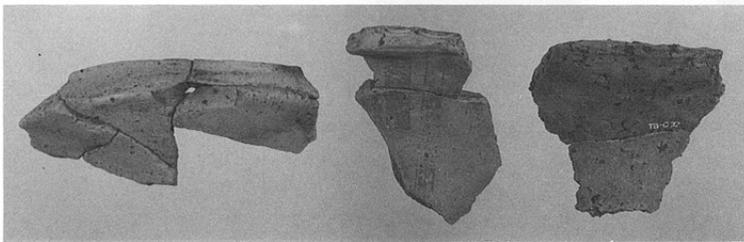
1 2 3
4 5 6



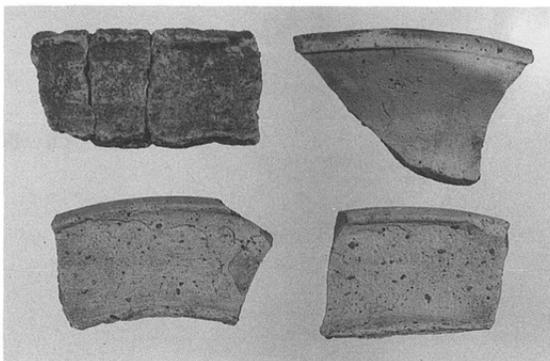
7 8 9



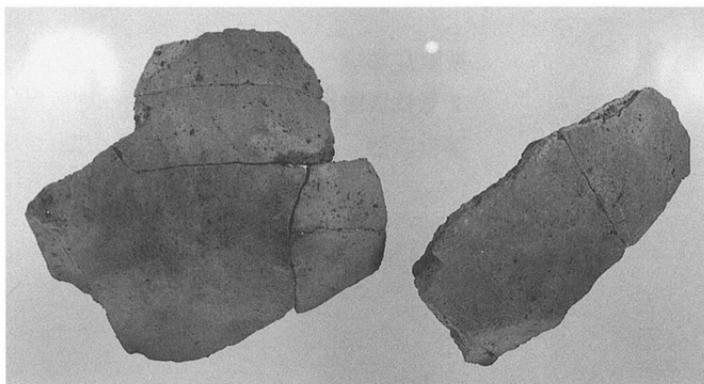
10 11 12
13 14 15



16 17 18

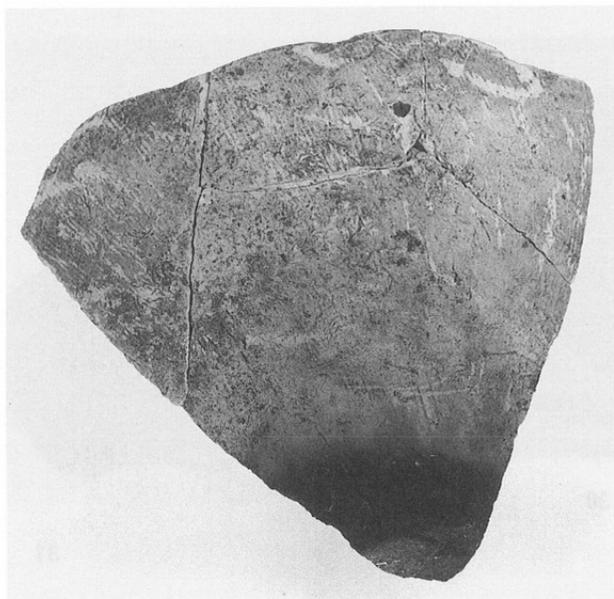


19 20
21 22

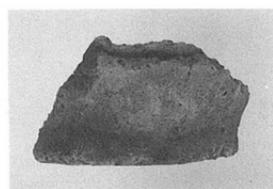


東原C地点
2号住居跡出土
遺物図版

23 24



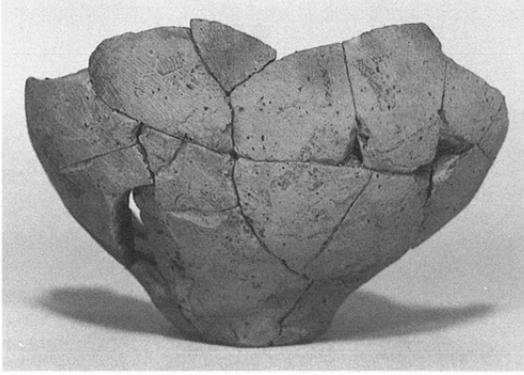
25



26

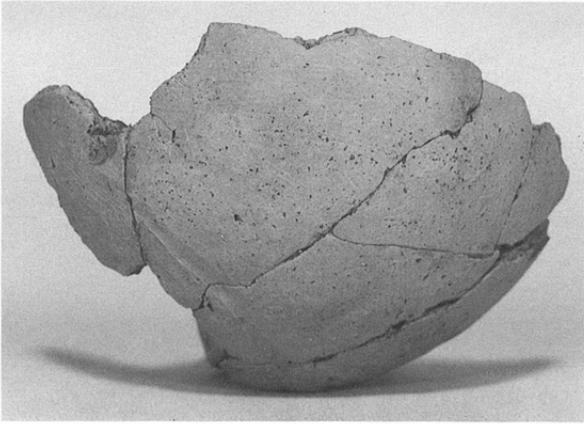


27 28



東原C地点
2号住居跡出土
遺物図版

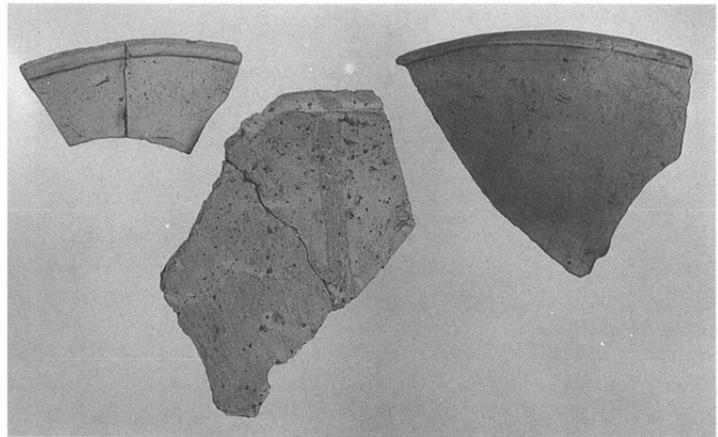
29



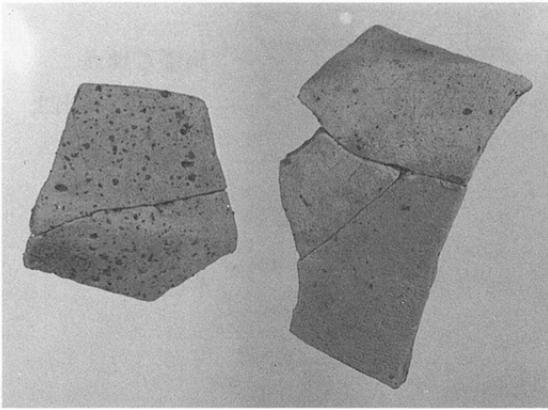
30



31

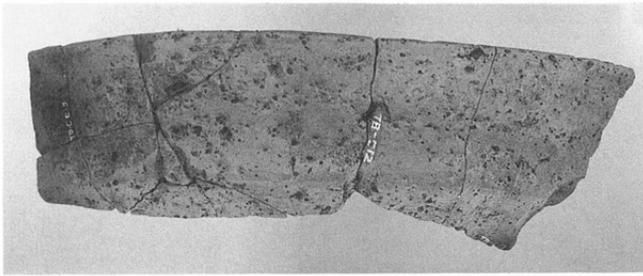


32 33 34



東原C地点
2号住居跡出土
遺物図版

35 36

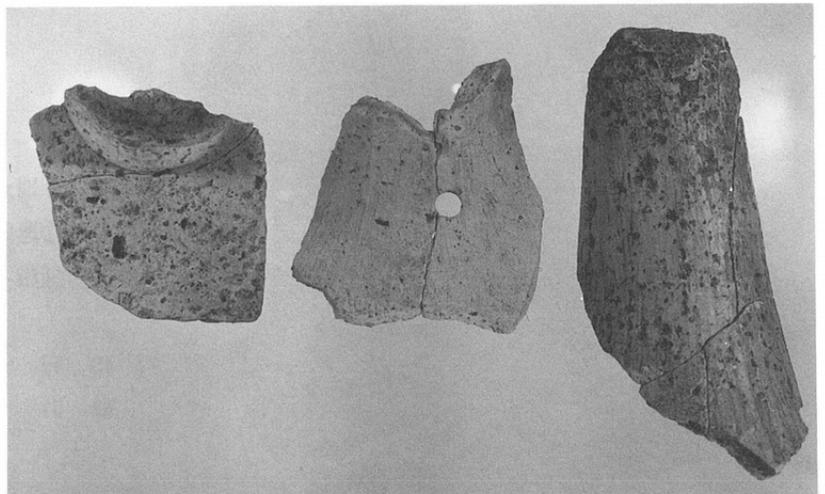


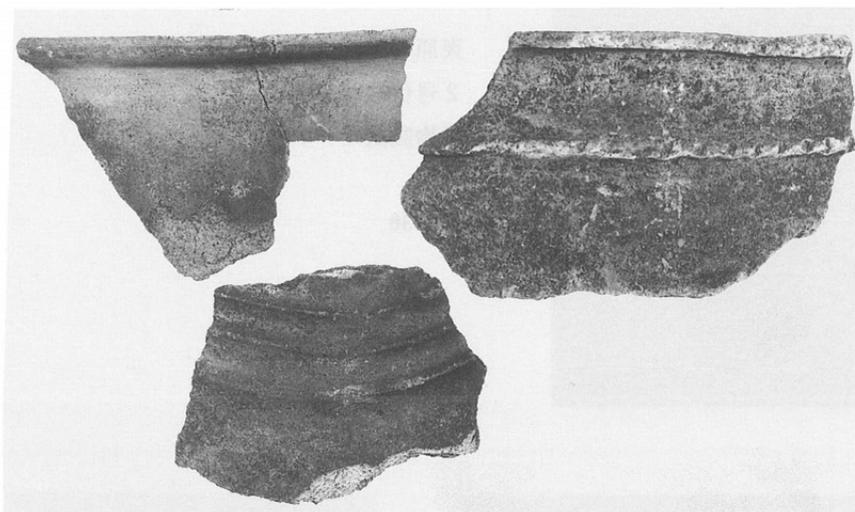
37



38

39 40 41





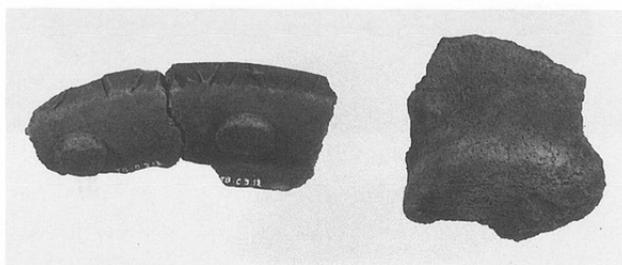
東原C地点
3号住居跡出土
遺物図版

42 43

44

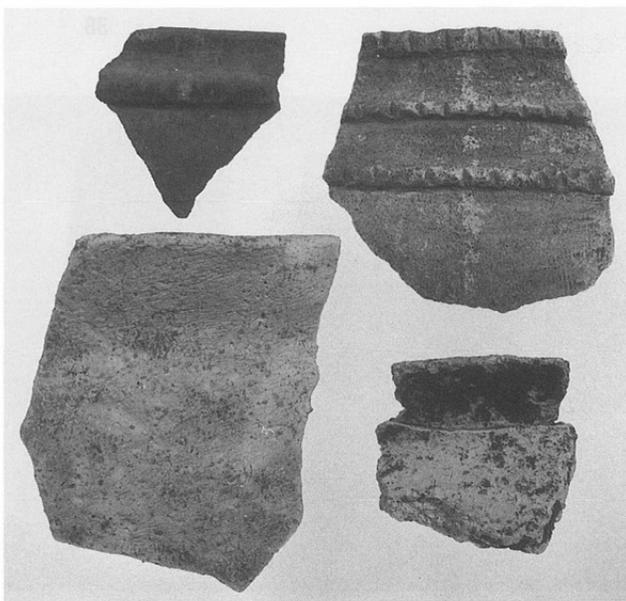


45



東原C地点
5号住居跡出土
遺物図版

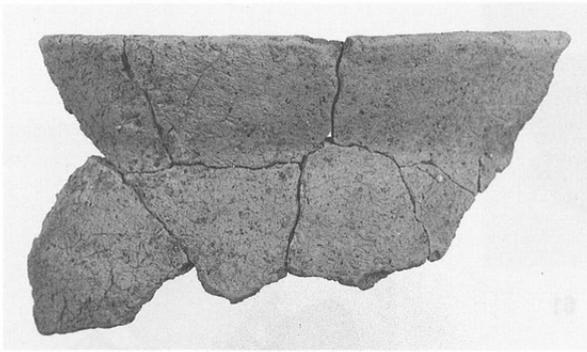
46 47



東原C地点
6号住居跡出土
遺物図版

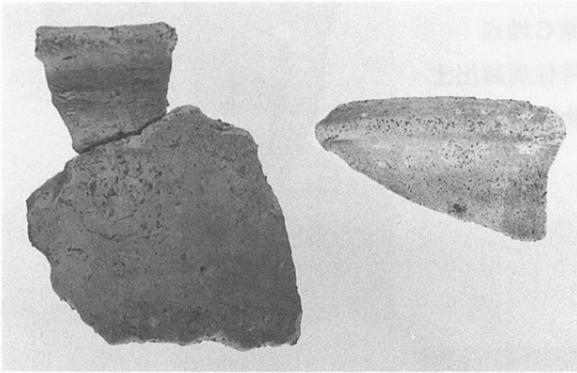
48 49

50 51

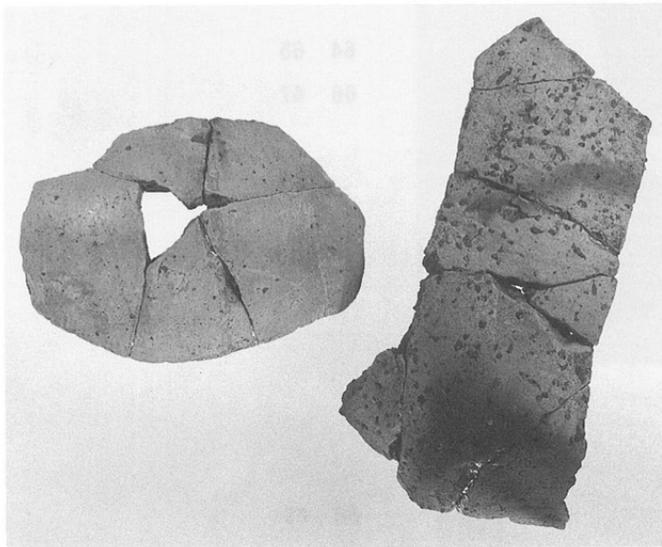


東原C地点
6号住居跡出土
遺物図版

52



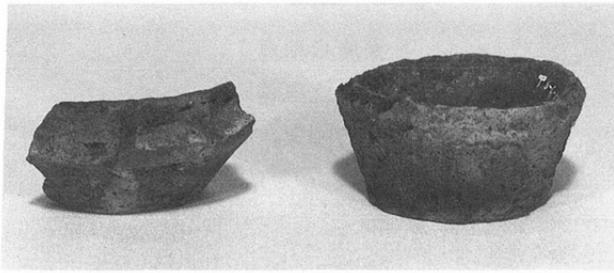
53 54



55 56



57 58 59



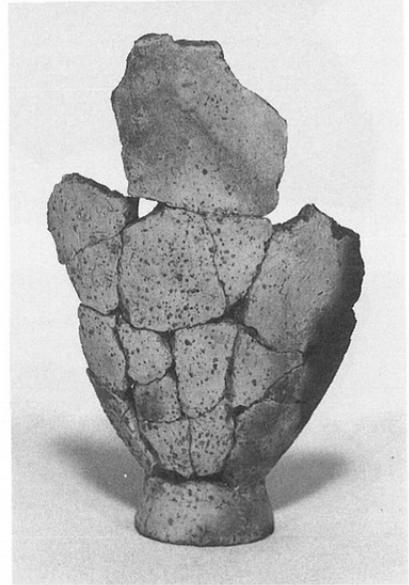
60 61



東原C地点
6号住居跡出土
遺物図版

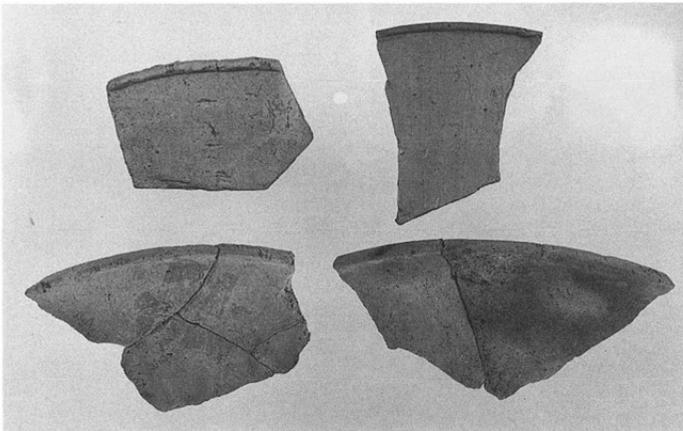
62

63



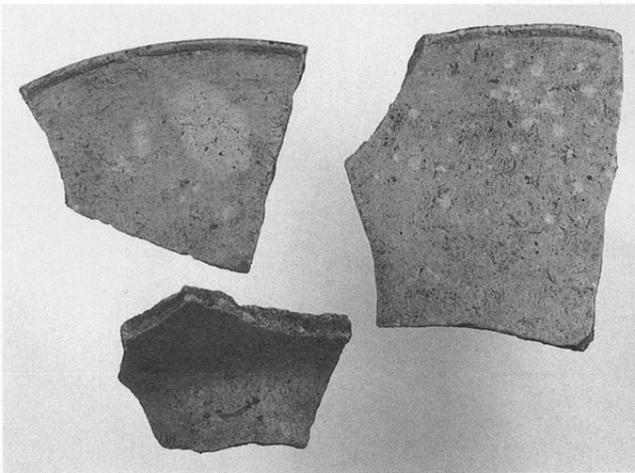
64 65

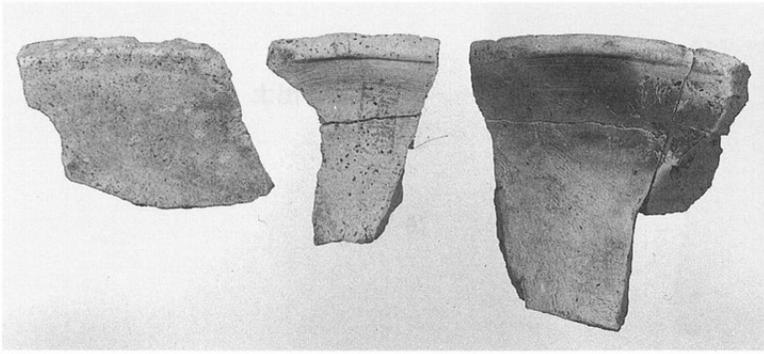
66 67



68 69

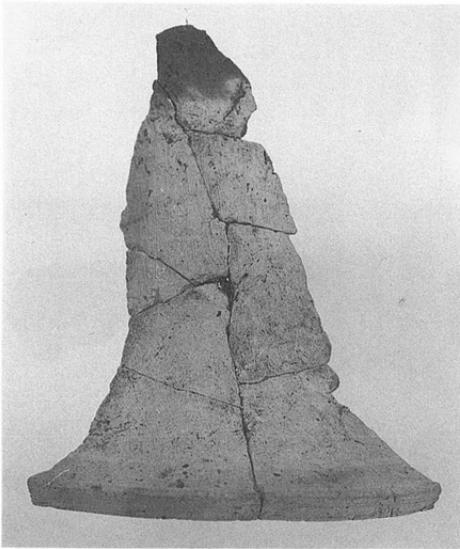
70



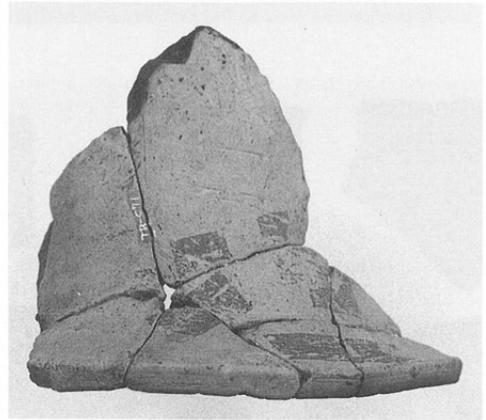


東原C地点
6号住居跡出土
遺物図版

71 72 73



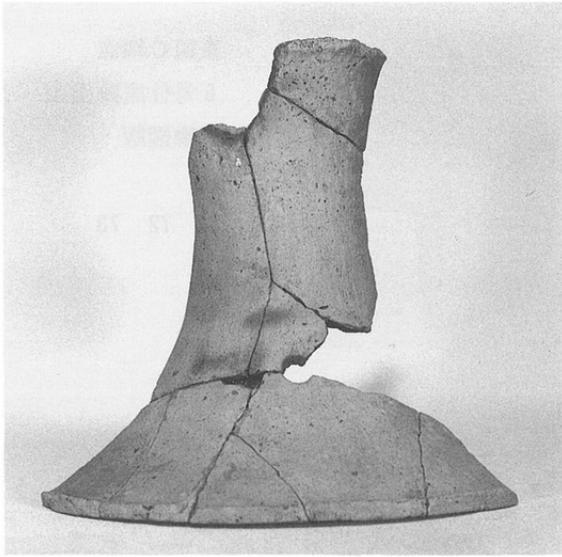
75



76

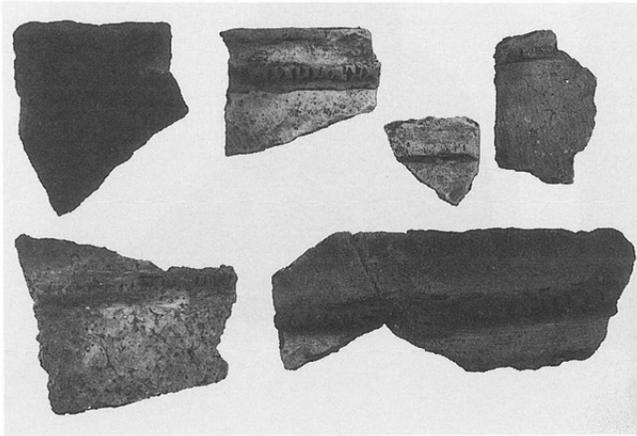


77 78

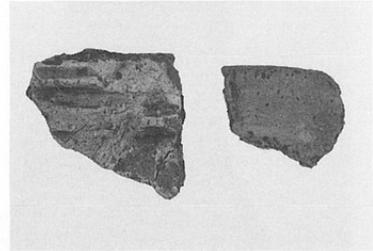


東原C地点
6号住居跡出土
遺物図版

79

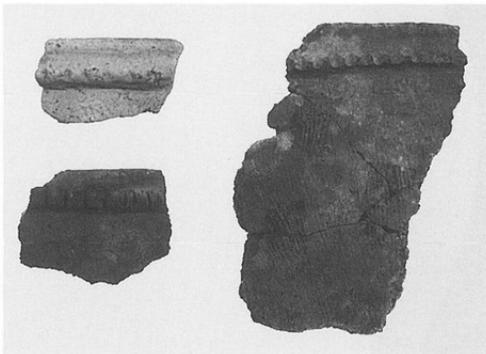


東原C地点 8号住居跡出土

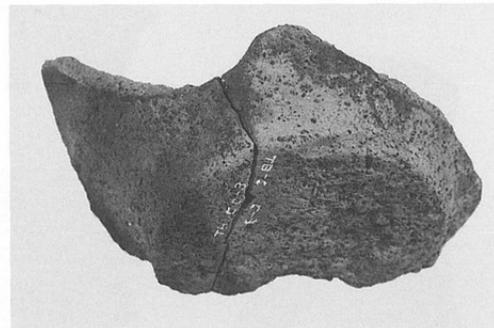


86 87

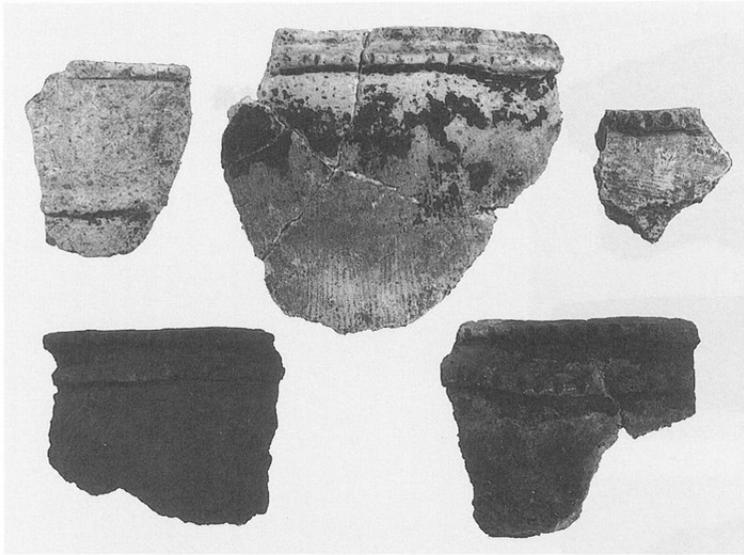
80 81 82 83
84 85



東原C地点 88 90
1号V字溝状遺構 89
出土遺物図版



91



東原C地点
2号V字溝状遺構
出土遺物図版

92 93 94

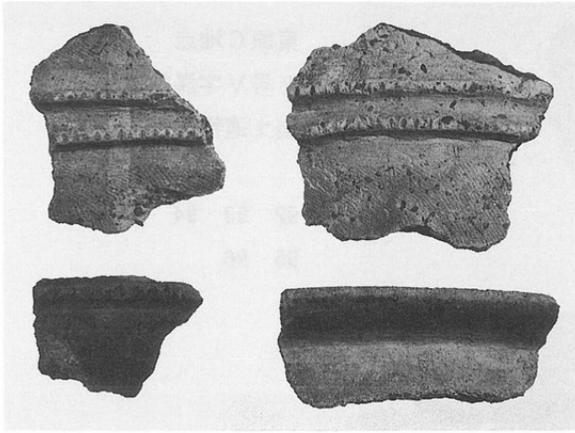
95 96



97



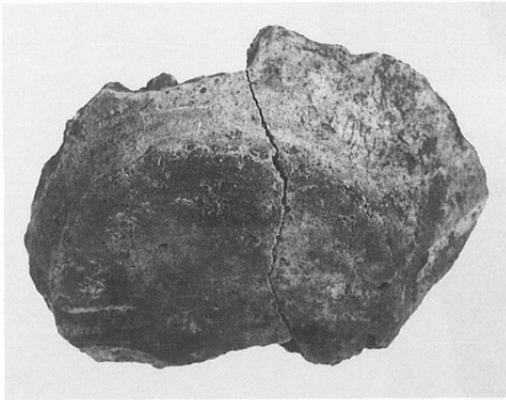
98 99



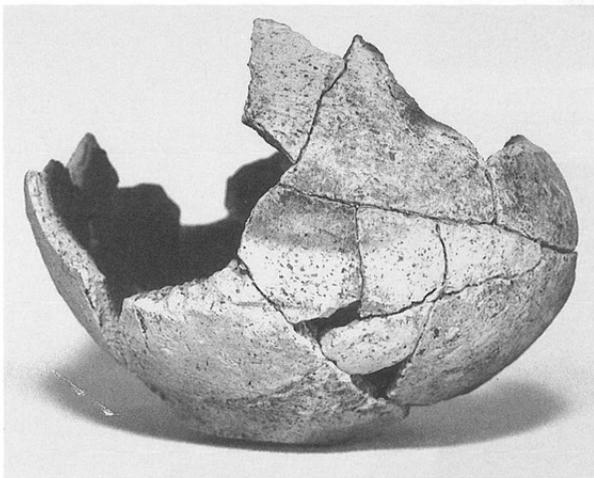
東原C地点
2号V字溝状遺構
出土遺物図版

100 101

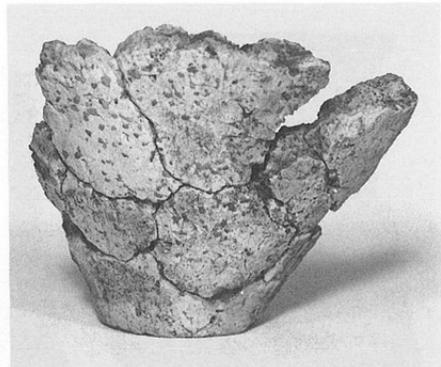
102 103



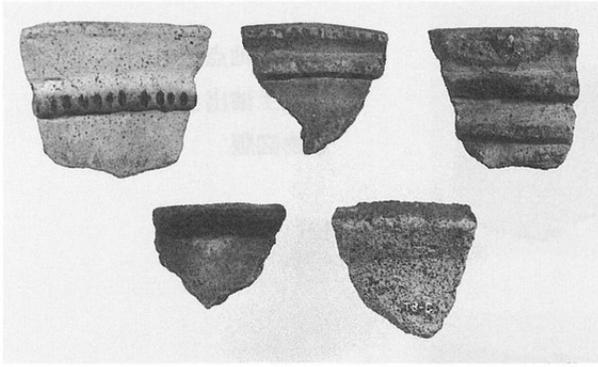
104



105

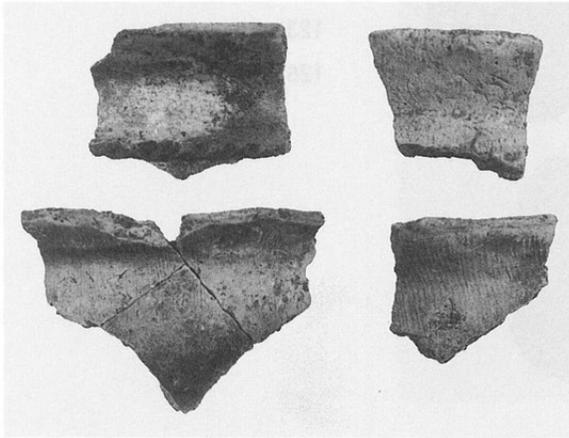


106



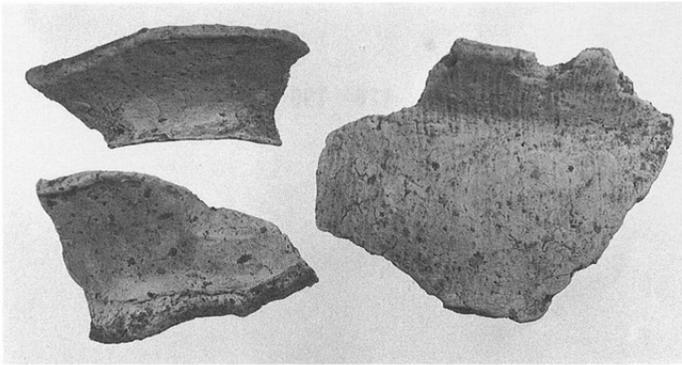
東原C地点
1号土坑出土
遺物図版

107 108 109
110 111

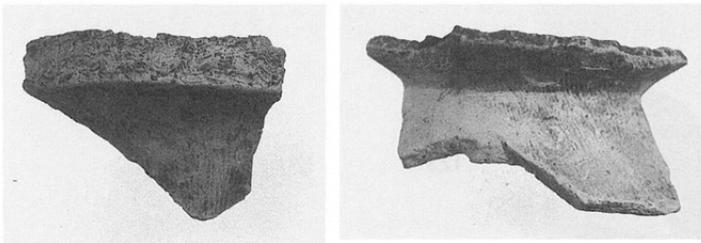


東原C地点
2号土坑出土
遺物図版

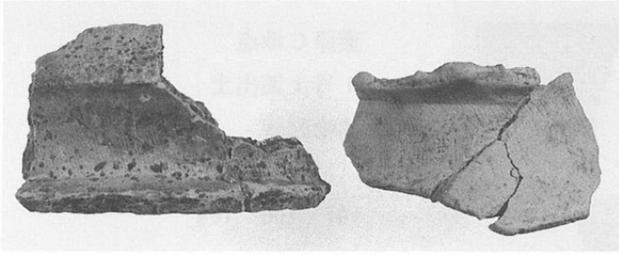
112 113
114 115



116 118
117

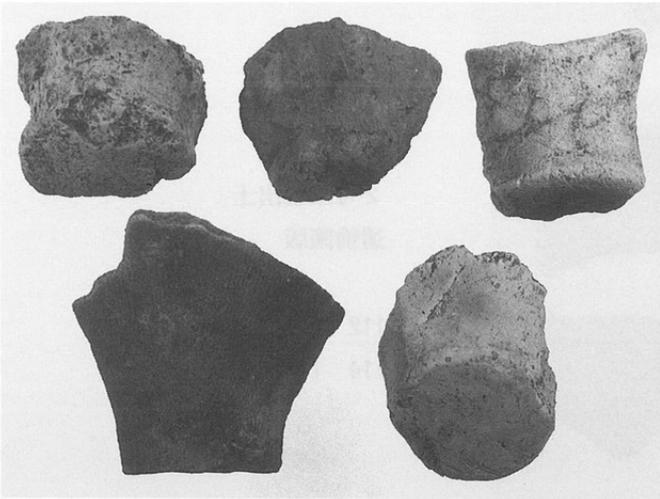


119 120

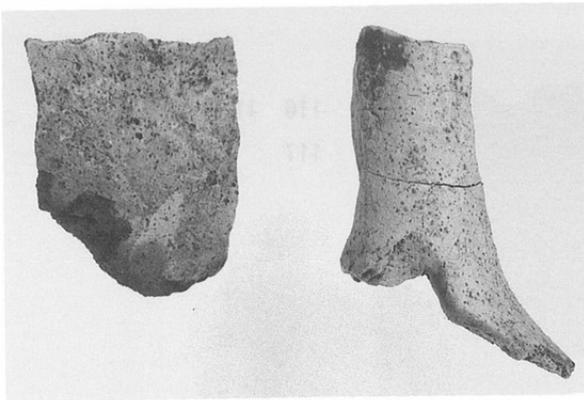


東原C地点
2号土坑出土
遺物図版

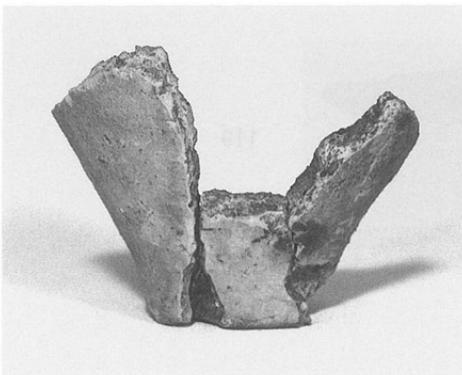
121 122



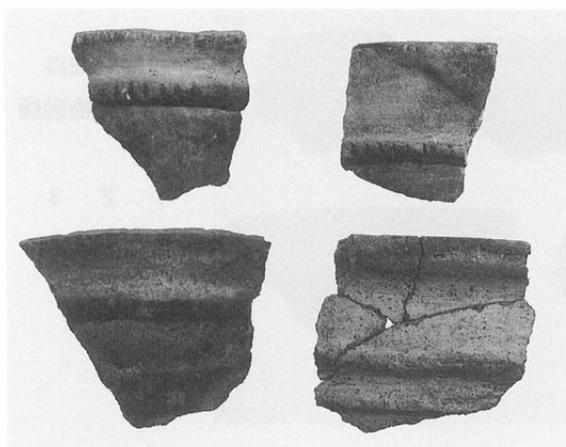
123 124 125
126 127



128 130



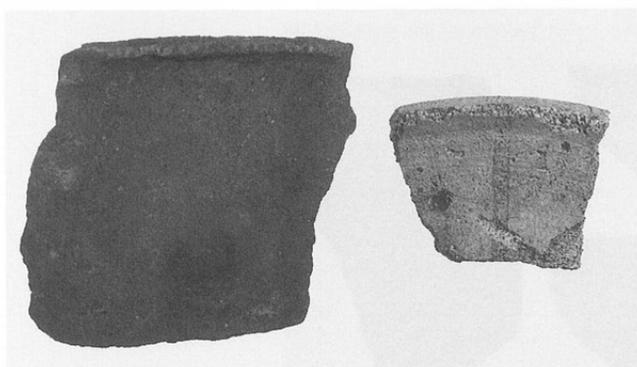
129



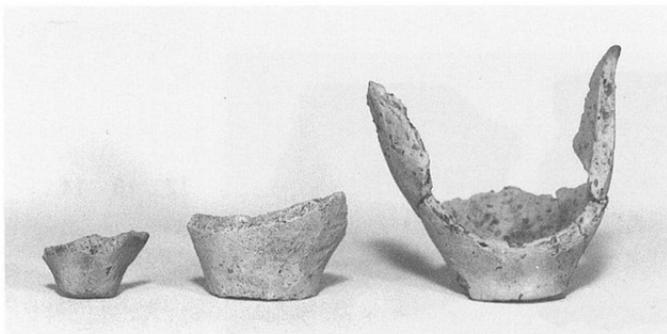
東原C地点
遺構外出土
遺物図版

131 132

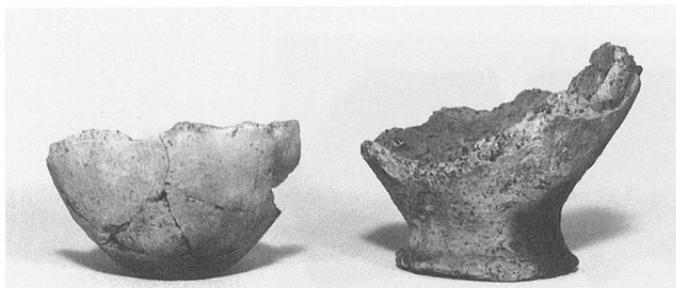
133 134



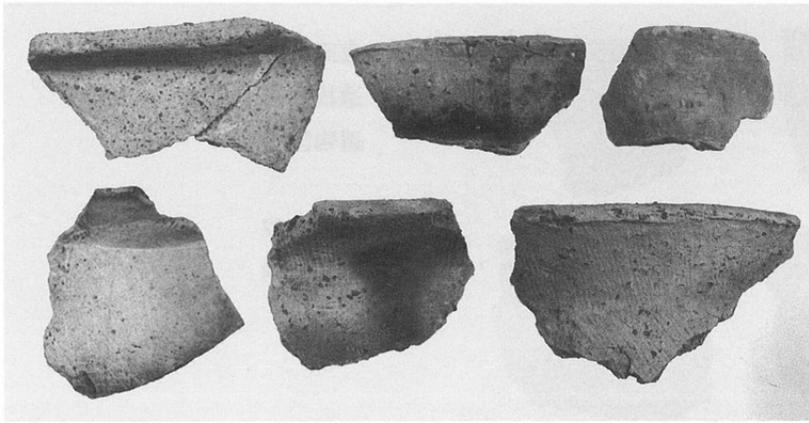
135 136



137 138 139

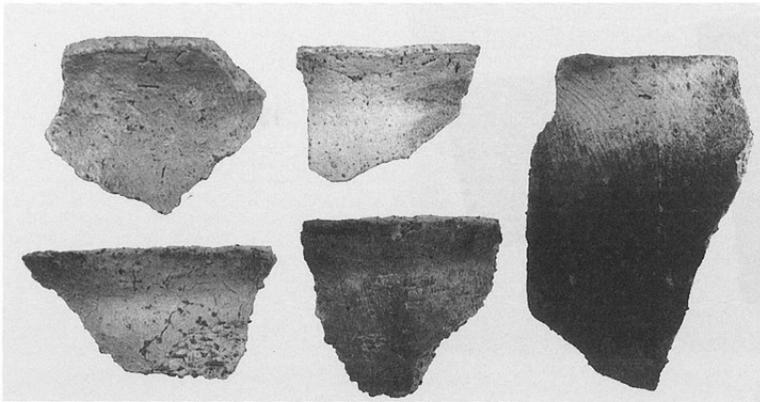


140 141

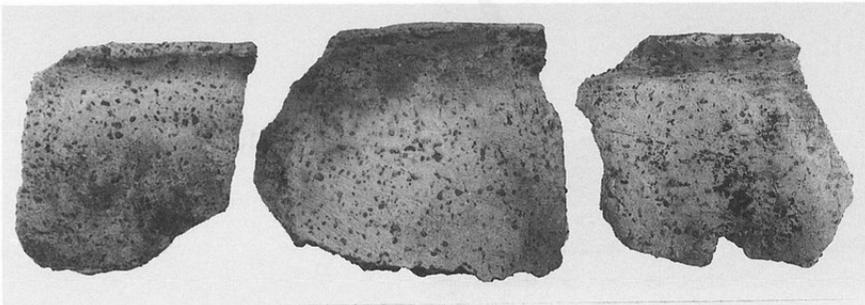


東原D地点
出土遺物図版

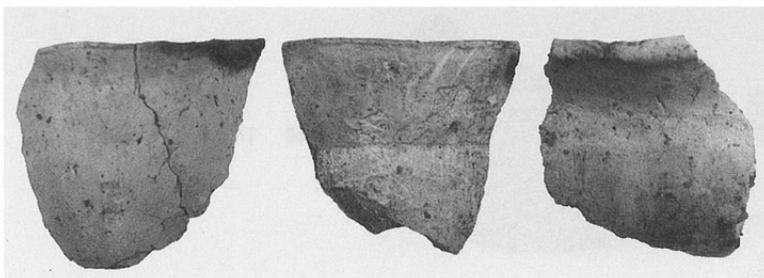
1 2 3
4 5 6



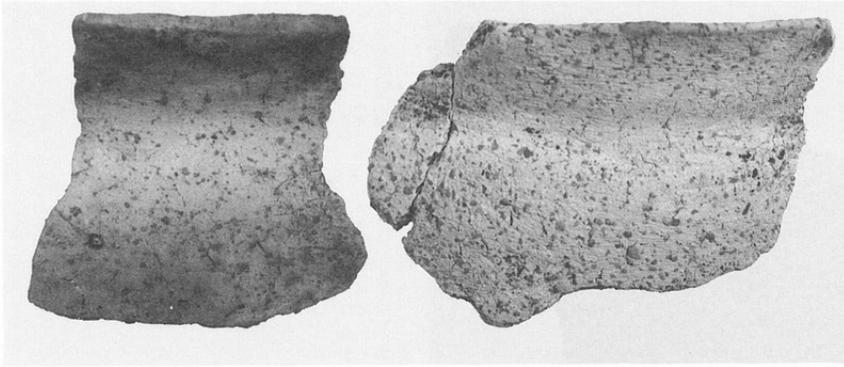
7 8 11
9 10



12 13 14

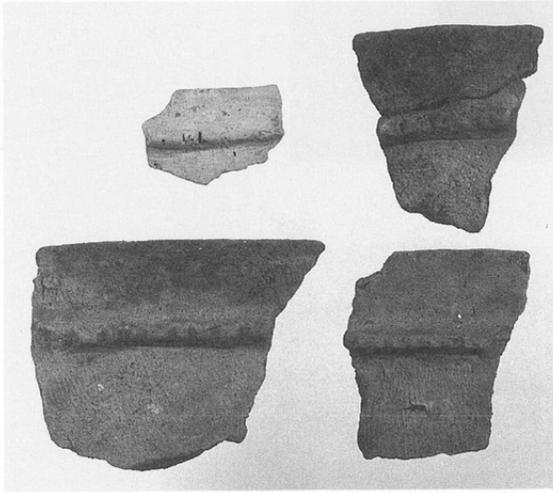


15 16 17



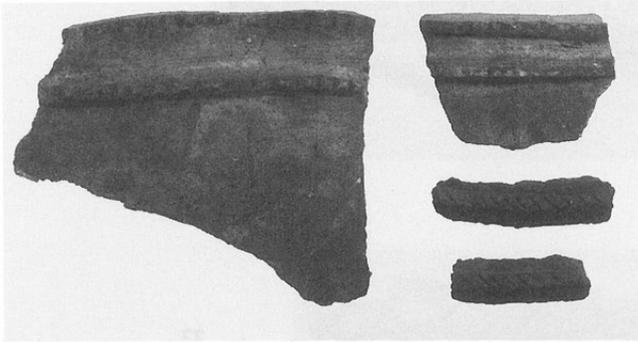
東原D地点
出土遺物図版

18 19



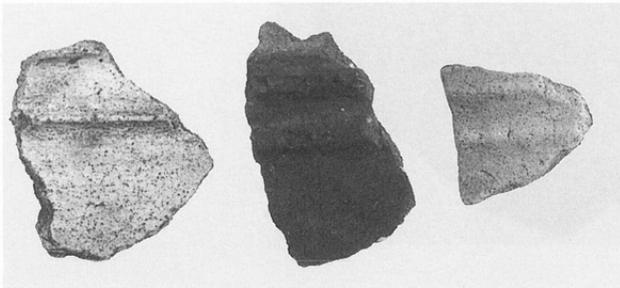
20 21

22 23



24

25 26 27

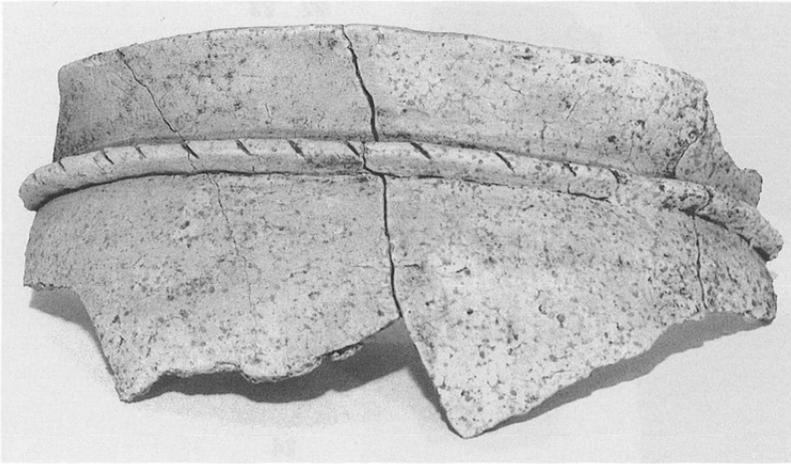


28 29 30

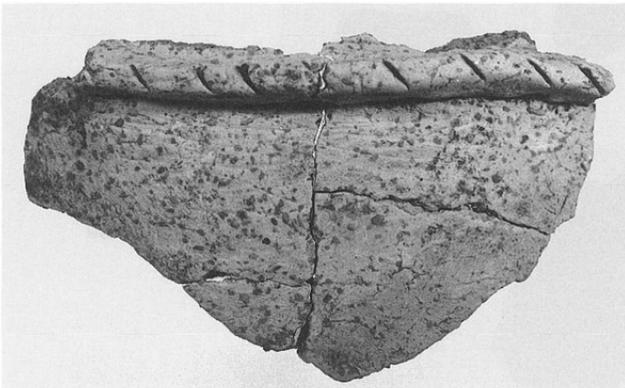


東原D地点
出土遺物図版

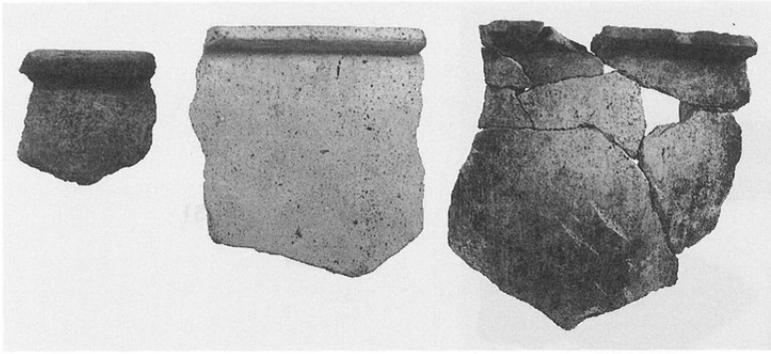
31



32

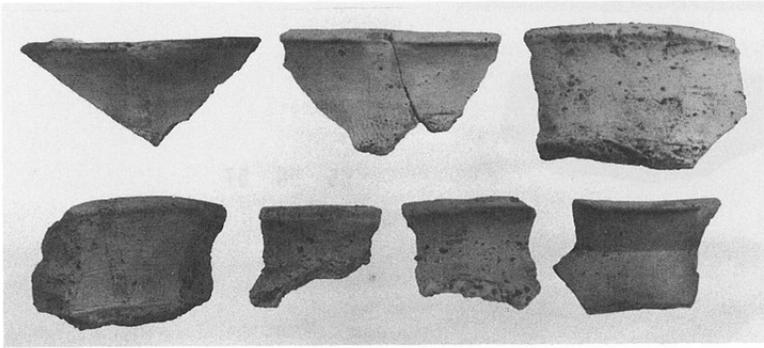


33

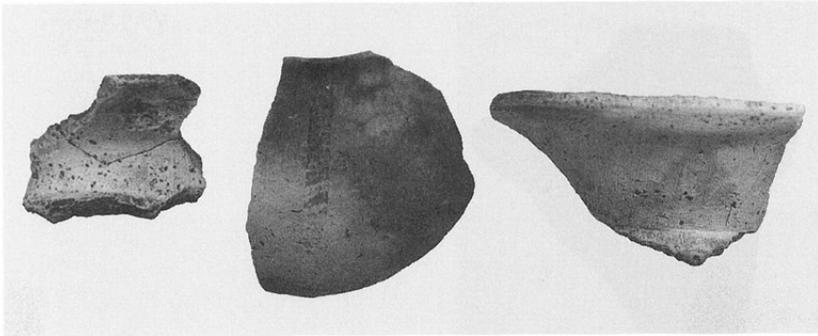


東原D地点
出土遺物図版

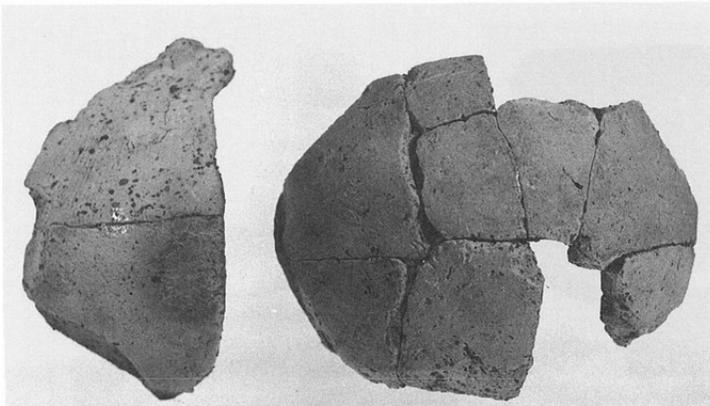
34 35 36



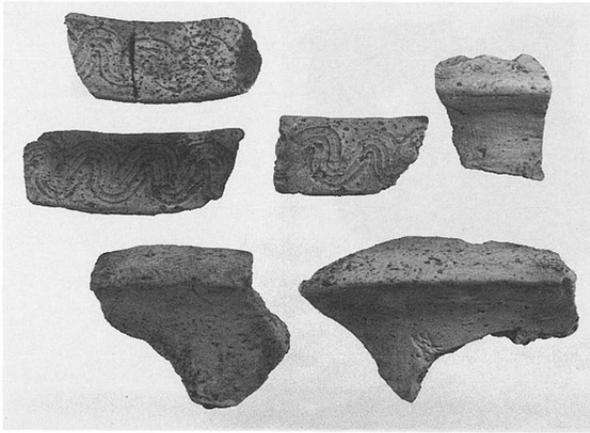
37 38 39
40 41 42 43



44 45 52

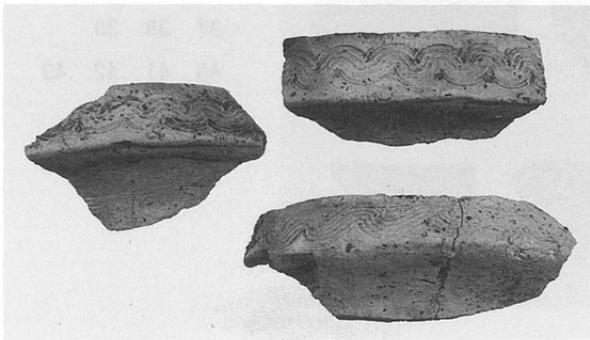


46 47

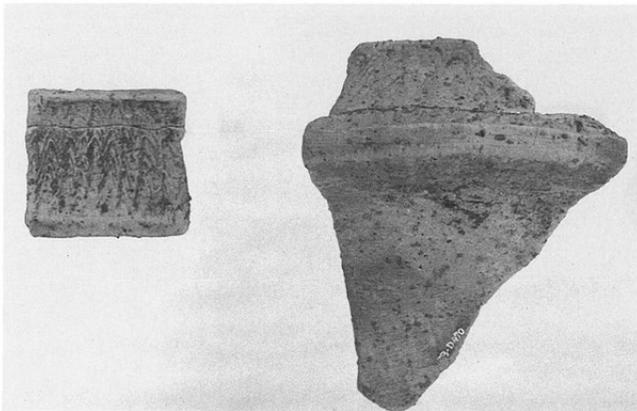


東原D地点
出土遺物図版

48 49 50 51
53 54



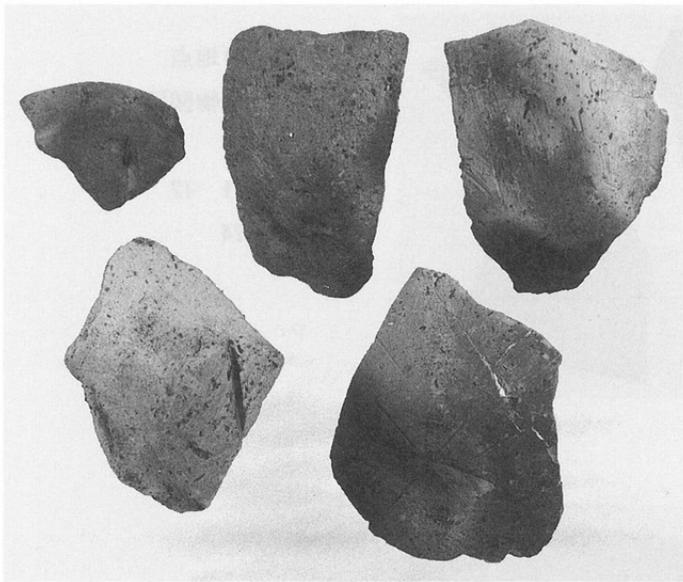
55 56 57



58 59



60



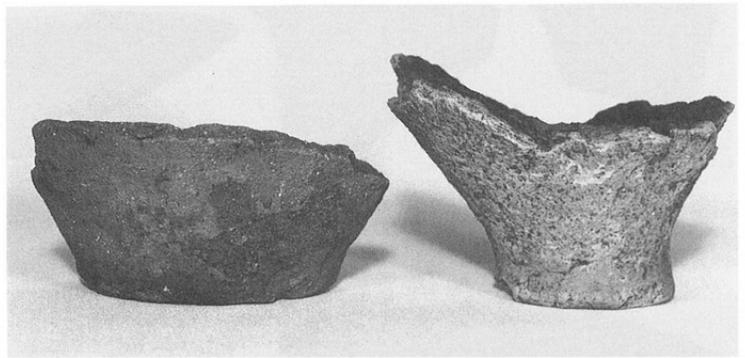
東原D地点
出土遺物図版

61 62 63

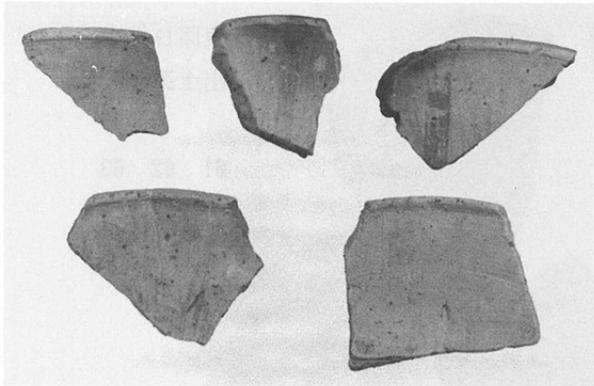
64 65



66



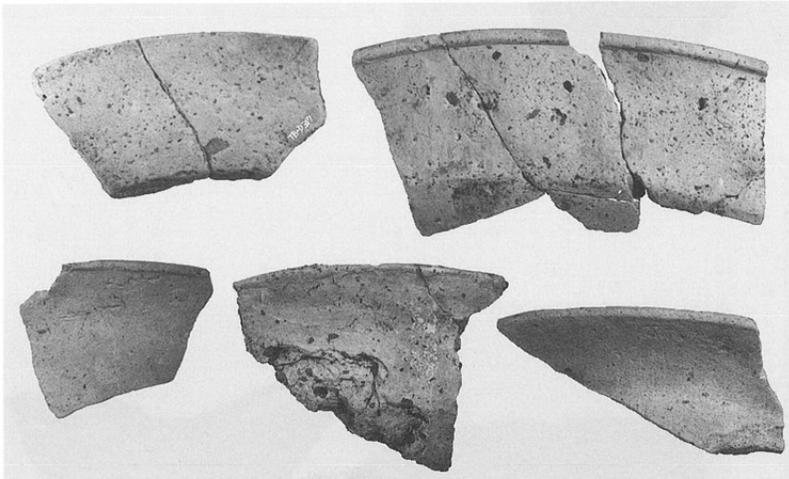
69



東原D地点
出土遺物図版

70 71 72

73 74



75 76

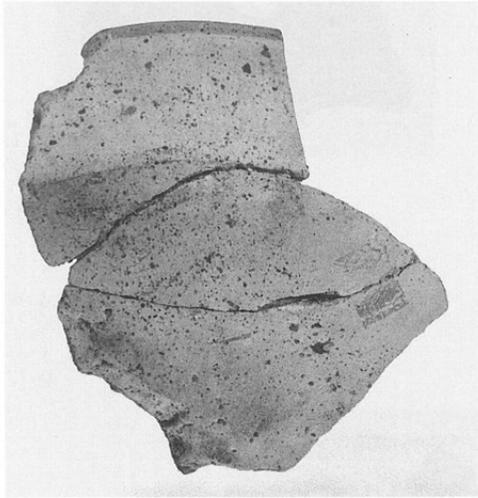
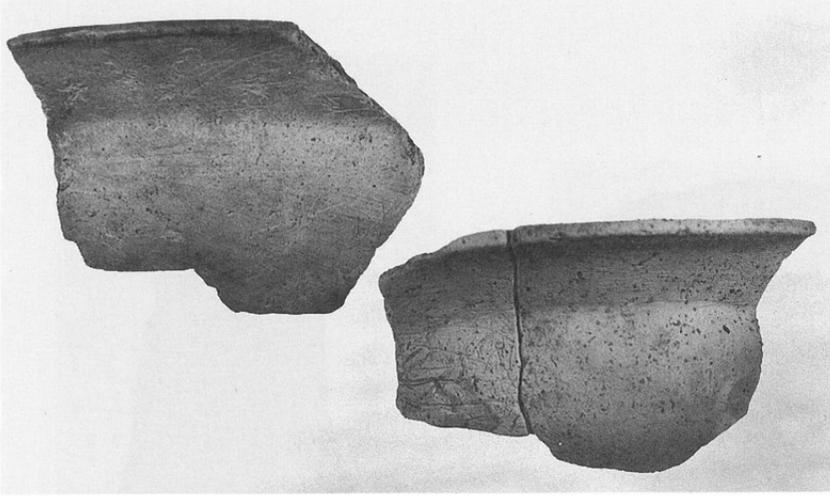
77 78 79



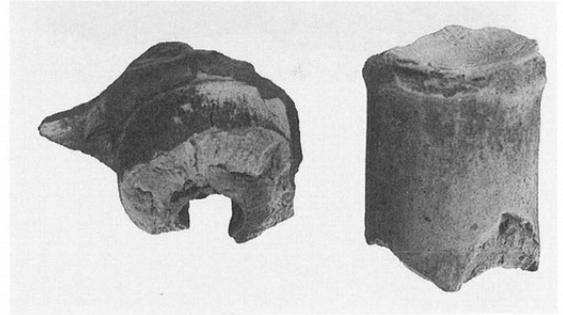
80 81

東原D地点
出土遺物図版

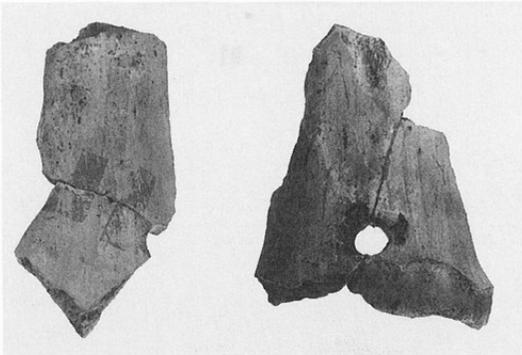
82 83



84



85 86



87 88

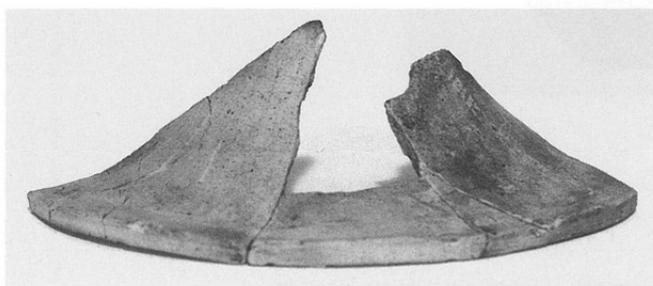
東原D地点
出土遺物図版



89



90



91

国富町文化財調査報告書第6集

塚原遺跡

東原A・B・C・D地点

塚原工業団地開発事業に

伴う埋蔵文化財調査報告書

平成8年3月

発行 国富町教育委員会

〒880-11 宮崎県東諸県郡国富町

大字本庄4800番

